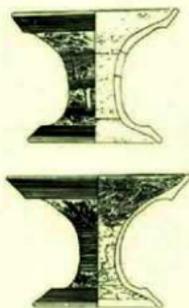


猫 橋 遺 跡

— 県営ほ場整備事業 (片山津地区) に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —



1998

石川県立埋蔵文化財センター

猫 橋 遺 跡

— 県営ほ場整備事業（片山津地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1 9 9 8

石川県立埋蔵文化財センター



道跡からのぞむ白山



雪に埋もれた第3調査区

卷頭圖版
3



第1調查區1號土坑遺物出土狀態

卷頭圖版
4



第1調查區2號溝遺物出土狀態

卷頭圖版
5



第2調查區1號土坑土層剖面

卷頭圖版
6



第3調查區P-10~12礎板

卷頭圖版
7



第3調查區穴住居跡完掘狀態

卷頭圖版
8



第4調查區1號溝

卷頭圖版
9



第4調查區1號溝木製品出土狀態

卷頭圖版
10



第4調查區後明田河道完掘狀態

例 言

1. 本書は石川県加賀市片山津町地内に位置する猫橋遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県営ほ場整備事業（片山津地区）に係るもので、石川県農林水産部農地整備課、加賀農林総合事務所の依頼を受け石川県立埋蔵文化財センターが実施した。発掘調査にかかる費用は同課が負担した他、一部文化庁の補助金を得ている。
3. 現地調査は450㎡を対象として平成7年11月20日から平成8年1月26日まで実施した。
4. 現地調査は本田秀生（当時石川県立埋蔵文化財センター主任主事、現課主査）、松山温代（石川県立埋蔵文化財センター主事）が担当した。また、次の方々に作業員として参加いただいた。記して感謝したい。
橋本良夫 木村正幸 出口 勇 江畑勇作 中野 登 中村 巖 鹿野明男 山崎弥古 高倉幸夫
上口 博 亀田 豊 京塚武雄 藤沢正徳 坂本與治 山下精三 下口文博
5. 出土品の整理は平成8・9年度に（社）石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した他、一部の土器、石器の実測・トレースを直営とし、伊藤康子、竹田倫子がこれにあたった。
6. 本書の編集と執筆は本田が担当し、伊藤康子、竹田倫子がこれを補佐した。
7. 現地調査から報告書刊行に至るまでに下記の方々の助言、教示、協力を得ている。記して感謝の意を表したい。
伊藤常次郎 名久井文明 山田昌久 脇田雅彦 脇田節子 太田祖電 酒井忠久 酒井英一
本間 豊 川崎利夫 河合 忍 田嶋正和 西 英晃 宮下幸夫 櫻田 誠 橋 雅子 宮田 進
福海貴子 加賀農林総合事務所 泉農林水産部農地整備課 東出組
8. 本報告の挿図中の方位は座標北（第Ⅴ系）を用い、断面図の水準線の数値は海拔高である。
9. 本調査の出土遺物、記録資料等は、一括して石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

第1章 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 周辺の遺跡	5
第2章 調査に至る経緯と経過	14
第1節 調査に至る経過	14
第2節 調査経過	14
第3章 遺構と遺物	17
第1節 第1調査区	17
第2節 第2調査区	17
第3節 第3調査区	18
第4節 第4調査区	23
第5節 揚水機場立ち会い調査	24
第6節 '94年度調査区出土遺物と加賀市立ち会い調査出土遺物	24
第4章 まとめ	80

挿 図 目 次

第1図 築橋遺跡の位置	2	第19図 第3調査区出土土器〔3〕	
第2図 加賀平野とその周辺の地形図	3	第4調査区出土土器〔1〕	33
第3図 加賀平野とその周辺の地質図	4	第20図 第4調査区出土土器〔2〕	34
第4図 柴山祠を中心とする遺跡の分布〔1〕	6	第21図 第4調査区出土土器〔3〕	35
第5図 柴山祠を中心とする遺跡の分布〔2〕	7	第22図 第4調査区出土土器〔4〕	36
第6図 築橋遺跡'95年度調査区遺構配置図	16	第23図 '94年度調査区出土土器	37
第7図 第1調査区遺構図	19	第24図 加賀市立ち会い調査出土土器〔1〕	38
第8図 第2調査区遺構図(上)		第25図 加賀市立ち会い調査〔2〕	
第4調査区遺構図〔1〕(下)	20	揚水機場立ち会い調査出土土器	39
第9図 第3調査区遺構図〔1〕	21	第26図 '95年度調査区出土土器〔1〕	40
第10図 第3調査区遺構図〔2〕	22	第27図 '95年度調査区出土土器〔2〕	41
第11図 第4調査区遺構図〔2〕	25	第28図 '95年度調査区出土土器〔3〕	42
第12図 第1調査区出土土器〔1〕	26	第29図 第3調査区P-10-12礎板〔1〕	43
第13図 第1調査区出土土器〔2〕	27	第30図 第3調査区P-10-12礎板〔2〕	44
第14図 第1調査区出土土器〔3〕	28	第31図 第4調査区出土木製品〔1〕	45
第15図 第1調査区出土土器〔4〕	29	第32図 第4調査区出土木製品〔2〕	46
第16図 第2調査区出土土器	30	第33図 第4調査区出土木製品〔3〕	47
第17図 第3調査区出土土器〔1〕	31	第34図 第4調査区出土木製品〔4〕	48
第18図 第3調査区出土土器〔2〕	32	第35図 第4調査区出土木製品〔5〕	49

第36図	第4調査区出土木製品〔6〕	50	第46図	第4調査区出土木製品〔16〕	60
第37図	第4調査区出土木製品〔7〕	51	第47図	第4調査区出土木製品〔17〕	61
第38図	第4調査区出土木製品〔8〕	52	第48図	第4調査区出土木製品〔18〕	62
第39図	第4調査区出土木製品〔9〕	53	第49図	揚水機場立ち会い調査出土木製品〔1〕	63
第40図	第4調査区出土木製品〔10〕	54	第50図	揚水機場立ち会い調査出土木製品〔2〕	64
第41図	第4調査区出土木製品〔11〕	55	第51図	揚水機場立ち会い調査出土木製品〔3〕	65
第42図	第4調査区出土木製品〔12〕	56	第52図	揚水機場立ち会い調査出土木製品〔4〕	66
第43図	第4調査区出土木製品〔13〕	57	第53図	揚水機場立ち会い調査出土木製品〔5〕	67
第44図	第4調査区出土木製品〔14〕	58	第54図	'94年度調査区出土木製品および骨	68
第45図	第4調査区出土木製品〔15〕	59	第55図	竈場遺跡の旧地形復元図	85

表 目 次

第1表	遺跡地名表	8	第9表	加賀市立ち会い調査出土土器観察表	75
第2表	第1調査区出土土器観察表〔1〕	69	第10表	揚水機場立ち会い調査出土土器観察表	75
第3表	第1調査区出土土器観察表〔2〕	70	第11表	'95年度調査区出土土器計測表	75
第4表	第2調査区出土土器観察表	70	第12表	第3調査区P-10～12縦板計測表	76
第5表	第3調査区出土土器観察表	71	第13表	第4調査区出土木製品計測表	76
第6表	第4調査区出土土器観察表〔1〕	72	第14表	揚水機場立ち会い調査出土木製品計測表	78
第7表	第4調査区出土土器観察表〔2〕	73	第15表	'94年度調査区出土木製品および骨計測表	79
第8表	'94年度調査区出土土器観察表	74			

図 版 目 次

巻頭図版1	道跡からのぞむ白山	巻頭図版6	第3調査区P-10～12縦板
巻頭図版2	雪に埋もれた第3調査区	巻頭図版7	第3調査区竪穴住居跡完掘状態
巻頭図版3	第1調査区1号土坑遺物出土状態	巻頭図版8	第4調査区1号溝
巻頭図版4	第1調査区2号溝遺物出土状態	巻頭図版9	第4調査区1号溝木製品出土状態
巻頭図版5	第2調査区1号土坑土層断面	巻頭図版10	第4調査区後期旧河道完掘状態
図版1	第1調査区1号溝	図版10	第1調査区1号竪穴住居跡内土坑
図版2	第1調査区2号溝土器出土状態	図版11	第1調査区1号竪穴住居跡(南から)
図版3	第1調査区2号溝土器出土状態	図版12	第1調査区8～12号溝
図版4	第1調査区2号溝土層断面	図版13	第1調査区A～F区全景(南から)
図版5	第1調査区2号溝	図版14	第1調査区A～F区全景(北から)
図版6	第1調査区作業風景	図版15	第1調査区1号土坑遺物出土状態
図版7	第1調査区6号溝	図版16	第1調査区1号土坑土層断面
図版8	第1調査区7号溝	図版17	第1調査区1号土坑
図版9	第1調査区1号竪穴住居跡(北から)	図版18	第1調査区F～G区全景(東から)

- 図版19 第2調査区作業風景
- 図版20 第2調査区2号土坑上層断面
- 図版21 第2調査区大溝土層断面
- 図版22 第2調査区全景(南から)
- 図版23 第2調査区全景(北から)
- 図版24 第3調査区作業風景
- 図版25 第3調査区1号溝土器出土状況
- 図版26 第3調査区P-10-12土層断面(北西から)
- 図版27 第3調査区P-10-12礎板(北西から)
- 図版28 第3調査区P-10-12礎板(北から)
- 図版29 第3調査区P-10-12礎板(東から)
- 図版30 第3調査区P-10-12
- 図版31 第3調査区P-1土層断面
- 図版32 第3調査区P-1
- 図版33 第3調査区P-8上層断面
- 図版34 第3調査区P-8
- 図版35 第3調査区竪穴住居跡(東から)
- 図版36 第3調査区竪穴住居跡(西から)
- 図版37 第3調査区1号土坑
- 図版38 第3調査区2号土坑
- 図版39 第3調査区3号土坑土層断面
- 図版40 第3調査区3号土坑
- 図版41 第3調査区4号土坑上層断面
- 図版42 第3調査区4号土坑
- 図版43 第3調査区5号土坑土層断面
- 図版44 第3調査区5号土坑
- 図版45 第3調査区10号溝土層断面(南から)
- 図版46 第3調査区10号溝土層断面(北から)
- 図版47 第3調査区10号溝
- 図版48 第3調査区P-15
- 図版49 第3調査区A-C区全景(西から)
- 図版50 第3調査区D-E区全景(東から)
- 図版51 第4調査区P-1
- 図版52 第4調査区P-2
- 図版53 第4調査区竪穴住居跡(北から)
- 図版54 第4調査区A区全景(西から)
- 図版55 第4調査区旧河道土層断面
- 図版56 第4調査区旧河道土層断面
- 図版57 第4調査区1号溝土層断面
- 図版58 第4調査区1号溝
- 図版59 第4調査区旧河道土層断面
- 図版60 第4調査区旧河道土層断面
- 図版61 第4調査区旧河道土層断面
- 図版62 第4調査区西側枕列
- 図版63 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版64 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版65 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版66 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版67 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版68 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版69 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版70 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版71 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版72 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版73 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版74 第4調査区後期旧河道木製品出土状態
- 図版75 第4調査区旧河道(東から)
- 図版76 第4調査区旧河道(西から)
- 図版77 掘水機場立ち会い調査地点と猫橋(南から)
- 図版78 掘水機場立ち会い調査地点
- 図版79 掘水機場立ち会い調査地点
- 図版80 掘水機場立ち会い調査地点
- 図版81 猫橋遺跡出土土器〔1〕
- 図版82 猫橋遺跡出土土器〔2〕
- 図版83 猫橋遺跡出土土器〔3〕
- 図版84 猫橋遺跡出土土器〔4〕
- 図版85 猫橋遺跡出土土器〔5〕
- 図版86 猫橋遺跡出土土器〔6〕
- 図版88 猫橋遺跡出土土器〔7〕
- 図版89 猫橋遺跡出土土器〔8〕
- 図版90 猫橋遺跡出土土器〔9〕
- 図版91 猫橋遺跡出土土器〔10〕
- 図版92 猫橋遺跡出土土器
- 図版93 猫橋遺跡出土木製品〔1〕
- 図版94 猫橋遺跡出土木製品〔2〕
- 図版95 猫橋遺跡出土木製品〔3〕
- 図版96 猫橋遺跡出土木製品〔4〕
- 図版97 猫橋遺跡出土木製品〔5〕

報 告 書 抄 録

ふりがな	ねこばしいせき							
書名	猫橋遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業(片山津地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	本田秀生							
編集機関	石川県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒921-8044 石川県金沢市米泉町4丁目133番地 (TEL.076-243-7692)							
発行年月日	西暦1998年3月27日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		m ²	
猫橋遺跡	加賀市 片山津町	17206	210	36° 19′ 45″	136° 22′ 38″	1995.11.1 }	450m ²	県営ほ場 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
猫橋遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡3 土坑7 河道跡など	弥生土器、木製品 石器				

第1章 遺跡の位置と周辺の遺跡

第1節 遺跡の位置

猫橋遺跡は、石川県加賀市片山津町、合河町、富塚町、八日市町地内に広がる大きな遺跡である。加賀市は石川県の西端に位置する。北には日本海が広がり、東に小松市、南に山中町、西は福井県金津町、芦原町と接している。市域の面積は151.6平方キロメートル。大動脈であるJR北陸本線・国道8号は市域中央部をほぼ並行して東西に走り、北陸自動車道は海岸線に沿い南下し、福井県境を過ぎたあたりでJR線と交差する。農業は水田中心、市の基幹産業としては繊維、機械金属工業があるが、片山津、山代の二つの温泉があり、温泉の町として全国に名高い。猫橋遺跡は片山津温泉の2キロメートルほど南に位置している。

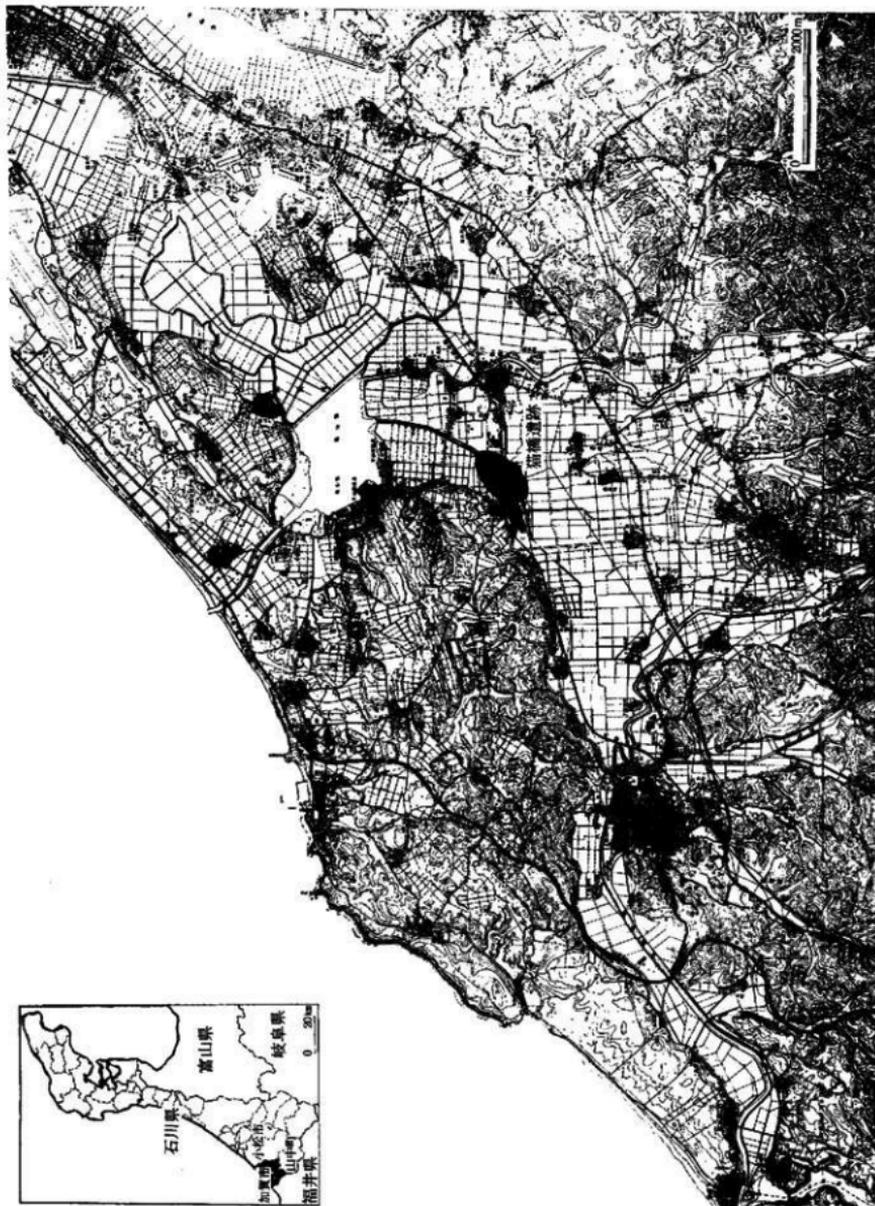
第1図に遺跡の位置図を、第2図に遺跡周辺の地形図を、第3図に遺跡周辺の地質図を掲げた。市域は、南方から延びる江沼丘陵、海岸線に沿うように広がる横立丘陵、横立台地、柴山台地、そして東隣の小松市との境に広がる月津台地と、これらに囲まれた江沼盆地と呼ばれる1字状の平野がある。

日本海に面しては、横立台地の前面が岩礫地帯となり、その両側には、東に小松砂丘、西に江沼砂丘がそれぞれ伸びている。平野には大聖寺川、動橋川の二つの大きな河川が流れ込む他、柴山台地の背面に柴山湖が広がっている。

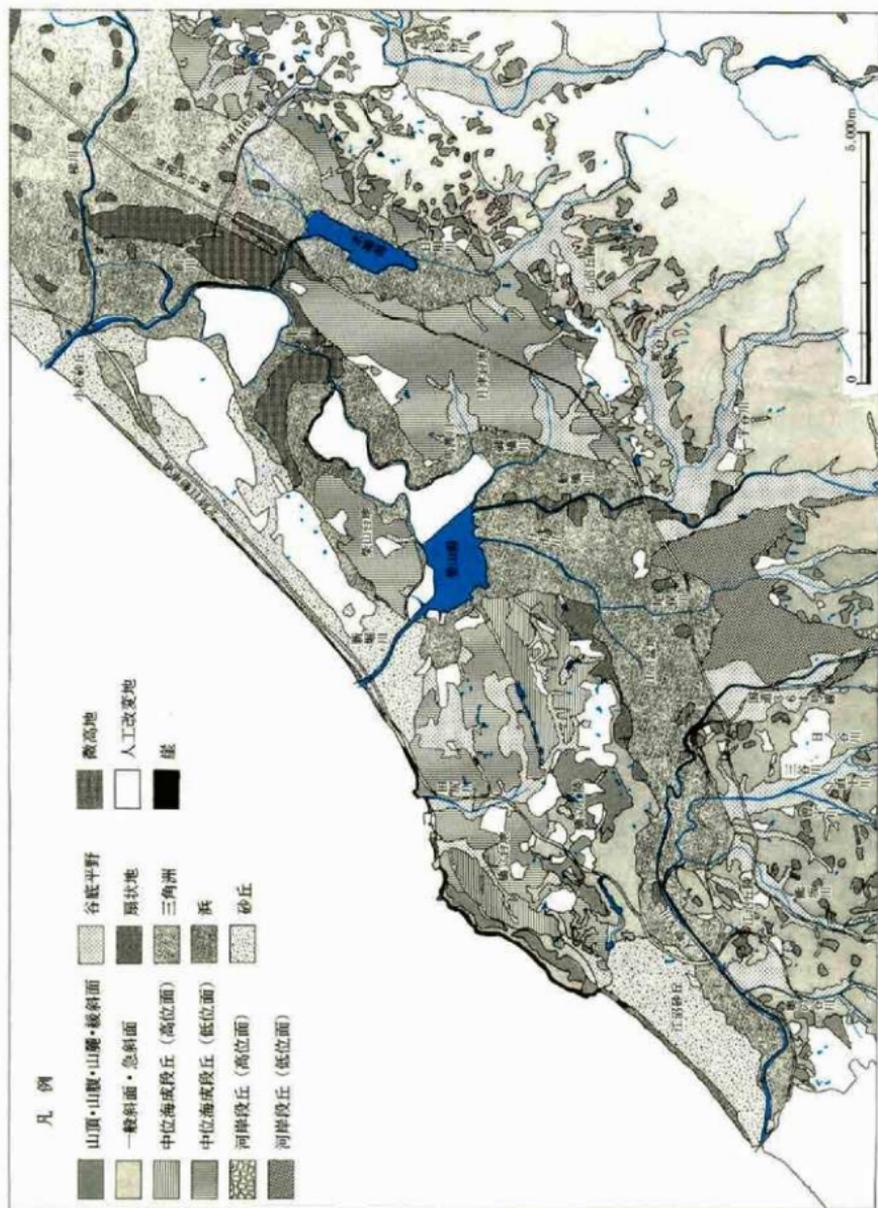
江沼丘陵は、越美山地に連なる能美山地の北側に3～4キロほどの幅を持って分布し、山頂高度は40～100メートルである。横立丘陵は大聖寺市街北方に広がり、その前面は横立台地となる。山頂高度は前者に比べ低い。横立台地、柴山台地、月津台地は後期更新世の海岸段丘で、横立台地では上下2段の面が識別される。段丘面高度は月津台地で5～15メートル、柴山台地で20～25メートル、横立台地の下位面で10～30メートル、上位面で30～40メートルである。月津、柴山台地に比べ横立台地では段丘面の残存度が低い。谷底平野は月津台地では広く、横立台地では狭小である。

大聖寺川より東側の盆地には、その中央部に背後の丘陵から連なる河岸段丘が双頭状に張り出す。この河岸段丘と横立丘陵、台地の間は三角州で、いくつかの微高地が存在する。また、台地の南縁にはいくつかの小さな扇状地性の地形が確認される。この河岸段丘は旧期扇状地とされており、大聖寺川および動橋川の低位段丘の下位面に連なる。山代町付近では5メートルほどの比高を持つが、国道8号付近で現平野と交差して地下に埋没している。ちなみに大聖寺川では2面、動橋川では1面の河岸段丘面が確認される。吸坂町一犬波波町を結ぶラインより西の三角州地帯は堆積層が厚く、かつ泥質物が非常に優勢を占めるのに対し、東では堆積物の厚さが相対的に薄く、かつ泥質よりも砂質のものが優勢と見られる。西は崩れ谷および砂丘形成によって生じた濁の懸濁物質（泥）の埋積によってつくられたものであり、一方、東は動橋川および旧大聖寺川の氾濫源であったと考えられている。

猫橋遺跡は東側の平野で、段丘の埋没地点より北に2キロほどの地点に展開し、三角州地帯に位置する。'95年度調査区付近では地表から1メートルほどで茶褐色の有機物を含む層に到達する。ここから南西約1.5キロメートルに位置する弓波遺跡の発掘調査地点では地表から1メートルほどで白色粘土層に至るが、この下位に黒色のシルト層があり、以下再び白色の粘土からシルト層が続く。調査の際にこの層を1メートルほど掘り下げたが、途中小砂利を含む層にあたるものの、猫橋遺跡のような有機物を含む層にはぶつからなかった。この下位の白色土層の頂部は南東一北西の方向で尾根、谷を形成し、谷部分を中心として黒色のシルト層が堆積している。表層での所見であるので何とも言い難

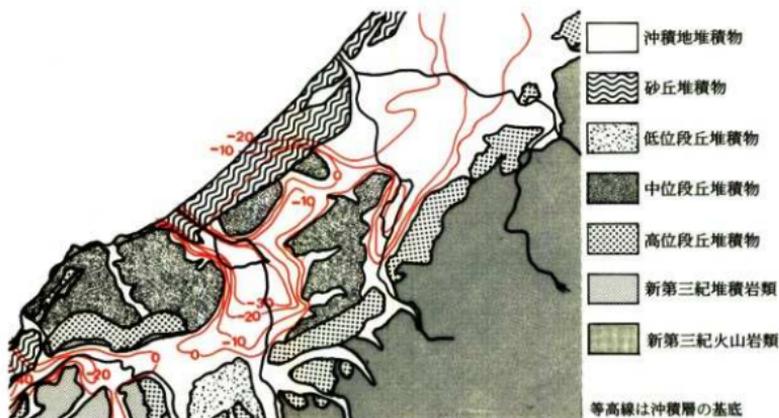


第1図 新潟電鉄の位置 (S = 1/75,000)



第2図 加賀平野とその周辺の地形図 (S=1/100,000)

(石川縣農林水産部地勢課編 1966, 1968年改定)



第3図 加賀平野とその周辺の地質図 (S = 1/200,000)

(船野1992を改変、株式会社クボタ1992所収)

いが、猫橋遺跡の展開する地点は、潟の埋積で形成された地点であり、弓波遺跡の展開する地点は、地表化に潜り込んだ低位段丘か、あるいはそこから延びる微高地と想定してみたい。

平野に流れ込む二大河川の一つである大聖寺川は、福井県境に位置する大日岳の西斜面が源で、盆地のやや西側に流れ込む。流れを徐々に西に向け、江沼砂丘と江沼丘陵の間の低地を西に進み、福井県境の塩屋町で日本海に辿り着く。この下流部は近世以前、竹の浦と呼ばれる入り江であった。一方、動橋川は山中町南東隅にある小大日山に源を發し、盆地東側に流れ込むが、盆地に入ったあたりから蛇行しつつ北に流れ、盆地の北東の出口である柴山潟に流れ込んでいる。潟の形成は内列、中列、外列と3本ある砂丘の形成と深く関わるものであるが、縄文海進以降と考えられ、それを裏付けるように、柴山潟周辺で見つかっている貝塚の内、縄文時代早期末の柴山潟水底縄文貝塚遺跡では汽水性の貝が卓越するのに対し、縄文時代中期後半の柴山貝塚では淡水性の貝がほとんどである。

柴山潟には動橋川以外に御橋川、馬渡川、八日市川などが流れ込んでいる。猫橋遺跡は八日市川の下流域に展開している。八日市川は、現在では市ノ瀬用水などの落水を集めその流れが始まる。前回の報告(本田1997)では、正保国絵図から大聖寺川の流路の内の一本としたが、描かれた流路は鹿ヶ鼻用水であろうと加賀市教育委員会の田嶋正和氏から指摘を受けた。鹿ヶ鼻用水がいつ頃開削されたのかまだつかめていないが、その流路が河岸段丘の縁を通ることや、上河崎町あたりの高まりからすると、本来的には大聖寺川によって形成された河岸段丘の裾を流れる流路であったと思われる。また、中代町や加茂町の湧水などもその源の一つとなろうか。弓波町付近で尾俣川と合流し、橋立丘陵の先端を回るように流れを変え柴山潟へ流れ込む。尾俣川は山代町の南東の丘陵地に源を發し、双頭状に張り出す河岸段丘の間を、現在ではまっすぐに北へ流れ、低地部に入りやや蛇行しつつ八日市川と合流する。柴山潟はこれら河川の堆積物により徐々にその面積を減らしていきと共に、干拓で現在では本来の大きさの3分の1程となってしまった。

第2節 周辺の遺跡

第4、5図に柴山潟を中心とした遺跡分布を第2図の地形図上に時代別に示した。

岩宿・縄文時代の遺跡は、丘陵、台地の縁辺に立地するものが多い。特定の丘陵、台地に集中するといった傾向はないが、それぞれ特色を持った分布を示す。橋立台地上では東西に走る谷に面して立地する遺跡が目につく。柴山台地では柴山潟に面した遺跡が多い。また、月津台地では谷底平野に面して立地するものが多い。岩宿時代の遺跡として宮地向山遺跡(33)、縄文時代早期の遺跡として伊切遺跡(137)が挙げられるが、台地上ではまだ前期の遺跡の確認例がない。中期には遺跡が増え、念仏林遺跡(120)、念仏林南遺跡(116)、柴山貝塚(140)、片山津玉造遺跡(70)などが発掘調査されている。後期から晩期では潮津上出遺跡(9)が発掘調査されている他、柴山台地上にある山の山頂遺跡(142)が当該期の遺跡として周知されている。

低地部の遺跡は少ないが、縄文早期末の柴山潟水底縄文貝塚遺跡(131)、前期の打越A遺跡(98)、前期後葉から後期の新堀川遺跡(17)などが知られている。特に柴山潟水底縄文遺跡、新堀川遺跡は縄文海進期には水没する位置にあり、問題を提起している。

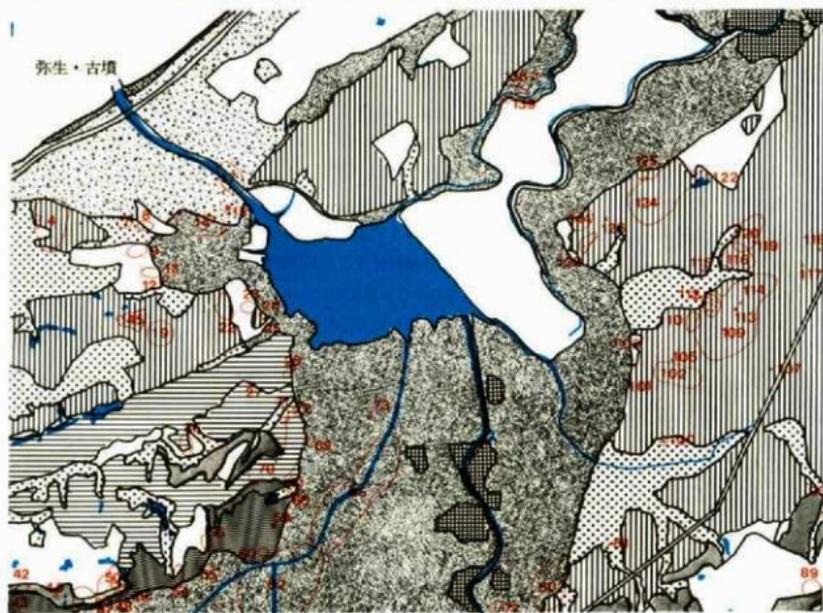
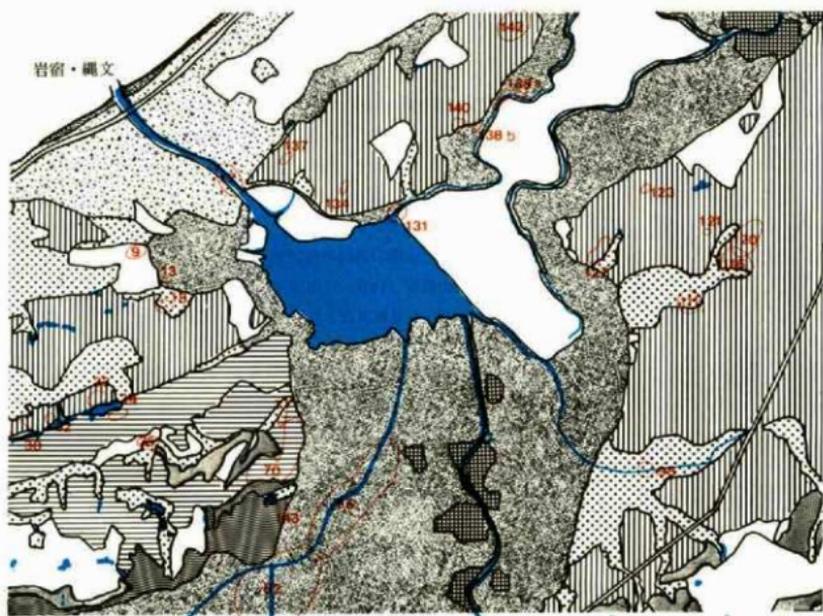
弥生から古墳時代では低地部における集落の展開が著しいが、これらは台地裾部に位置するものが多い。月津台地西側の低地部では顔見町西遺跡(144)以外遺跡が確認されていない。この図幅の範囲では、八日市川下流域で展開する遺跡が特異に見える。また、弥生時代の段階で橋立台地北東縁、橋立台地南縁、月津台地北縁、月津台地中央部、橋立台地南東縁および八日市川下流域という小地域ができあがり、以降その地域性が続いていくことが分布図から見て取れる。丘陵の縁辺部では盛んに古墳が築造されているが、これもその小地域を踏襲している。

弥生時代前期の遺跡として柴山出村遺跡(138a)が標識遺跡として有名である。中期では猫橋遺跡(65)、潮津スワンヤブ下遺跡(13)で集落が確認されている他、柴山出村遺跡、新堀川遺跡がよく知られている。いずれも低地部の遺跡で、台地上での確認例をまだ知らない。

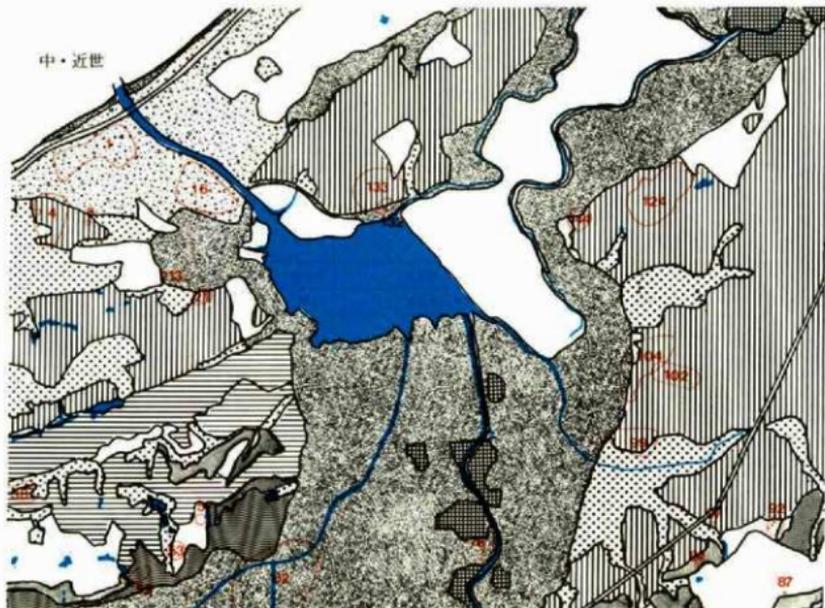
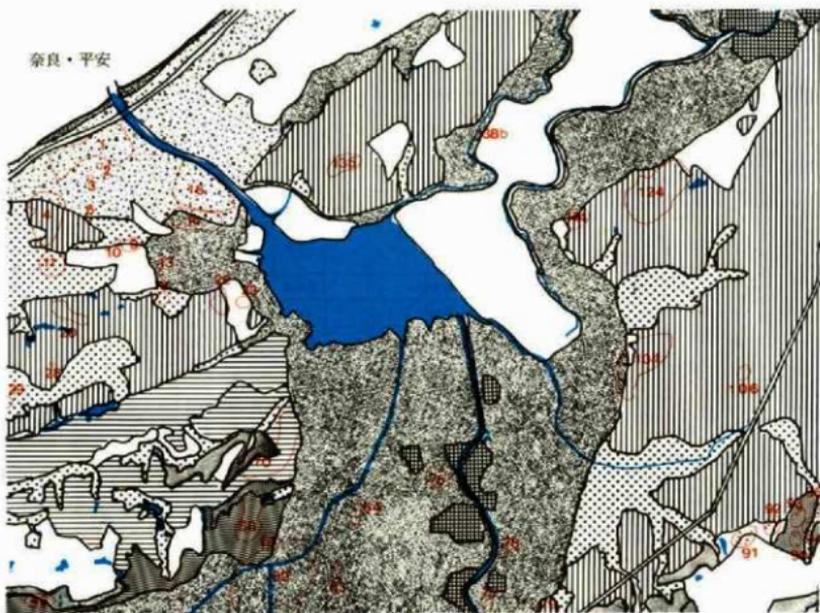
後期は猫橋遺跡がその初頭の集落である。後期前半以降は台地上での遺跡の展開が確認され、柴山台地周辺をのぞき、集落遺跡の発掘例が増加している。近年の調査例を見てみると、念仏林南遺跡(116)が発掘調査された月津台地馬渡川頂部付近の一群、潮津スワンヤブ遺跡(12)、潮津出村B遺跡(19)、潮津金場遺跡(145)などが発掘調査されている橋立台地北東端付近の一群、猫橋、弓波遺跡の一群など小地域のまとまりが見え、調査成果からすると、小地域内で集落が少しずつ位置を変えながら継続的に営まれる姿が見えつつある。この継続性はたとえば猫橋、弓波遺跡で見ると5世紀前後がはっきりしないものの、弥生時代中期あたりから7世紀の初めあたりまで続く可能性が窺われる。他の地域でも同様な傾向にあると思われる、今後注意を払っておきたい。この他、注目される遺跡として、橋立台地上の片山津玉造遺跡、片山津城山遺跡(36)の二つの玉造遺跡を挙げておきたい。

古墳は江沼盆地を取り巻くように分布しているが、柴山台地上では確認されていない。図幅では橋立台地南縁に位置する小菅波神社裏B1号墳(49)が加賀市最古の古墳として知られている。また、江沼丘陵先端部(月津台地の付け根とした方がよいか)に分枝高山古墳(81)が位置している。この他に前・中期古墳と想定されるものはいくつかあるものの発掘調査等により確認された例はない。図幅の古墳群の主体は後期古墳である。

橋立台地では猫橋遺跡'95年度調査区の南西約1キロの所に位置し、近年前方後円墳であることが確認された富塚丸山古墳(59)がよく知られている他、台地の南縁から東縁にかけて数多くの古墳群が確認されている。北端の手塚山古墳(15)は砂丘上に築かれており、位置的にもやや異質である。



第4図 柴山瀉を中心とする遺跡の分布〔1〕(S=1/50,000)



第5図 柴山湖を中心とする遺跡の分布〔2〕(S=1/50,000)

第1表 遺跡地名表

No.	遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	出土品	備考
1	06329	藤原新遺跡	加賀市藤原町	集落跡	奈良～中世	須恵器・土師器、鉄製紡錘車、和門閉跡、富野神宝、他土師質土器	
2	06330	実盛塚	加賀市藤原町	塚	平安・鎌倉	須恵器・土師器	「藤平盛朝記」
3	06331	藤原神社遺跡	加賀市藤原町	祭祀	奈良～平安	土師器・木炭	
4	06332	藤原遺跡	加賀市藤原町	集落跡	古墳～中世	須恵器、土師器、瓦	1960、62年埋文センター 由表番調査
5		藤原神社遺跡	加賀市藤原町	敷布地	平安	須恵器	
6	06333	藤原経塚跡	加賀市藤原町	経塚	江戸	一字一石経	2基よりなる
7	06334	藤原村沢遺跡	加賀市藤原町	敷布地	古墳	土師器	
8	06335	藤原寺森遺跡	加賀市藤原町	敷布地	古墳	土師器	
9	06336	藤原上出遺跡	加賀市藤原町	集落跡	縄文・弥生 奈良～平安	縄文土器・石器 石斧、石鏃、石錐、 弥生土器、土師器、 須恵器	跡部殿跡跡埋 定地を含む「石 川原の城跡集」
10	06337	片山津中学校校裏遺跡	加賀市藤原町	敷布地	奈良	須恵器、布目瓦	
11	06338	宮地庵寺	加賀市宮地町	寺院跡	奈良	瓦、埴輪、軒九瓦、 布目瓦	大塚心齋石は、 市指定史跡
12	06341	藤原スワンケブ遺跡	加賀市藤原町	集落跡	古墳	土師器、鉄器、碧玉、 碧玉原石	
13	06340	藤原スワンケブ下遺跡	加賀市藤原町	集落跡	縄文～中世	土器	1963年埋文セ ンター調査
14	06353	手塚町遺跡	加賀市手塚町	敷布地	古墳～平安	土師器、須恵器	
15	06354	手塚山古墳	加賀市手塚町	古墳	古墳	瓦刀、須恵器	前方後円墳
16	06355	藤原城跡	加賀市藤原町	城跡	平安～室町		手塚山に一部 残存
17	06356	新堀川遺跡	加賀市手塚町	敷布地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器	
18	06342	藤原ドウダン遺跡	加賀市藤原町	敷布地	縄文～平安	石環、土師器、須恵 器、瓦平礎	1963年埋文セ ンター調査
19	06343	藤原出村戸遺跡	加賀市藤原町	集落	縄文・古墳	縄文土器・土師器、 須恵器	1963年埋文セ ンター調査
20	06339	宮地A遺跡	加賀市宮地町	敷布地	奈良・平安	須恵器、土師器	
21	06344	西光寺跡	加賀市藤原町	寺院	中世	五輪塔	堀、御由「東 盛」の舞台
22	06345	藤原出村遺跡	加賀市藤原町	敷布地	古墳～平安		民家に遺物保 管
23	06346	旧片山津中学校校後方遺跡	加賀市片山津區森	敷布地	古墳～平安	土師器、碧玉末成品	
24	06347	藤原山古墳	加賀市片山津區森	古墳	古墳		封土消滅
25	06348	行基塚	加賀市片山津區森	古墳	古墳		2段築成の大 型円墳
26	06349	片山津古墳群	加賀市片山津區森	古墳	古墳		円墳4基より なる
27	06350	藤伏山古墳	加賀市片山津區森	古墳	古墳		
28	06318	宮地B遺跡	加賀市宮地町	墳墓	奈良	土師器、須恵器、和 陶製埴13枚	
29	06315	小堀辻B遺跡	加賀市小堀辻町	敷布地	奈良・平安	土師器・須恵器	
30	06165	小堀辻A遺跡	加賀市小堀辻町	敷布地	縄文中期	土器	
32	06316	宮地ギンド山A遺跡	加賀市宮地町	敷布地	縄文後期	土器、石鏃、石斧	

No.	遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	出土品	備考
33	06319	富塚山山道跡	加賀市宮地町	散布地	舊石器 縄文	片形石器、砥石、石鏃、石匙、快状、耳飾、縄文土器	1987年教委発掘調査
34	06320	富塚千本松遺跡	加賀市富塚町	散布地	縄文中期	土器、石片、石鏃	
35	06198	中尾山遺跡	加賀市小坂辻町	散布地	縄文		
36	06199	片山津城山遺跡	加賀市片山津町	散布地	古墳	線形石、草輪石、木炭品、玉原石、碧玉、土師器	
38	06170	西山南光教寺跡	加賀市山田町西山田	寺院跡	中世	土師質土器、銚子	
42	06288	大曾波古墳群	加賀市大曾波町	古墳	古墳		円墳5～10基よりなる
43	06182	大曾波A遺跡	加賀市大曾波町、敷地町	散布地	奈良・平安	須恵器、土師器	
45	06185	小曾波D1号墳	加賀市小曾波町	古墳	古墳		円墳
46	06184	大曾波C遺跡	加賀市大曾波町	散布地	奈良・平安	須恵器、土師器	
47	06187	小曾波神社裏C1号墳	加賀市小曾波町	古墳	古墳		円墳・径22m、高6m周溝あり
48	06188	小曾波神社裏A1号墳	加賀市小曾波町	古墳	古墳		方墳、径22m×20m、高5～6m。墳頂部に盜掘孔。
		小曾波神社裏A2号墳	加賀市小曾波町	古墳	古墳		円墳か、径15m、高2.5m
49	06189	小曾波神社裏B1号墳	加賀市小曾波町	古墳	古墳		前方後方墳全長17m。1983年調査
		小曾波神社裏B2号墳					円墳か
		小曾波神社裏B3号墳					円墳か
50	06190	小曾波遺跡	加賀市小曾波町	集落跡	弥生・古墳	土師器・碧玉原石	1983、87年市教委調査
52	06192	作見陣跡	加賀市作見町	陣跡	戦国		「江沼郡古城跡四」宅地造成で消滅か
53	06194	作見砦跡	加賀市作見町	砦跡	室町		
54	06193	作見B遺跡	加賀市作見町	散布地	古墳	須恵器	消滅か
55	06195	作見A遺跡	加賀市作見町	散布地	古墳	土師器	
56	06196	作見C遺跡	加賀市作見町	散布地	古墳	土師器	果樹園造成の一部份
57	06197	作見苑1号塚跡	加賀市作見町	塚跡	江戸初期	炉器	
		中世			陶器	宅地造成時に切断、露出。幅約2.7m	
58	06200	富塚遺跡	加賀市富塚町	散布地	奈良・平安	須恵器、土師器、線形石形成品	
59	06205	富塚丸山古墳	加賀市富塚町	古墳	古墳	剣、勾玉、鏡、甲、碧玉、金剛、埴輪	前方後円墳
60	06208	志津神社遺跡	加賀市弓波町	散布地	古墳	土師器	
61	06207	弓波庵寺	加賀市弓波町	寺院跡	奈良	軒丸瓦、丸瓦、平瓦、須恵器、土師器	香心礎石は志津神社にあり
62	06209	弓波遺跡	加賀市弓波町	散布地	縄文～中世	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼	1983～5年埋文センター調査
63	06211	八日市遺跡	加賀市八日市町	散布地	奈良～平安	須恵器、土師器	

No.	遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	出土品	備考
64	06278	都心どり地蔵遺跡	加賀市八日市町	散布地	奈良・平安	須恵器、土師器	
65	06210	稲穂遺跡	加賀市片山津町	集落跡	縄文～中世	縄文土器、弥生土器、木器、骨角器、石器、土器、自然遺物、土師器、須恵器	1994、95、97年縄文センター調査、1990年加賀市教委調査
66	06204	富塚古墳群	加賀市富塚町	古墳	古墳		円墳9基
68	06202	片山津天神古墳	加賀市片山津町	古墳	古墳		方墳、附土師平
69	06201	片山津本村古墳群	加賀市片山津町	古墳	古墳		円墳1基、方墳1基、不明3基
70	06200	片山津玉遺跡	加賀市片山津町	集落跡	縄文古墳～平安	縄文土器、石器、土師器、菅玉、同未成品、同厚石、勾玉未成品、磁石、鉄器、須恵器	1959～61年市教委発掘調査、市指定史跡
71	06352	片山津堂後遺跡	加賀市片山津温泉	散布地	縄文・弥生	縄文土器、石斧、石器、弥生土器	
72	06351	片山津ウツノ古墳群	加賀市片山津温泉	古墳	古墳		7基よりなる
73		片山津本町遺跡	加賀市片山津町	集落跡	古墳		
75	06279	船橋遺跡	加賀市船橋町	散布地	平安	須恵器、土師器	
76	06277	船橋遺跡	加賀市船橋町	集落跡	室町		
77	06275	縄井遺跡	加賀市縄井町	散布地	古墳～平安	須恵器、土師器	
78	06276	縄井衛生センター遺跡	加賀市縄井町	散布地	奈良・平安	須恵器・土師器	
79	06274	分校B遺跡	加賀市分校町	散布地	平安		
80	06272	分校A遺跡	加賀市分校町	散布地	古墳		
81	06271	分校高山古墳	加賀市分校町	古墳	古墳	鏡、勾玉、菅玉、小玉	
82	06281	箱宮A遺跡	加賀市箱宮町	散布地	中世	中世陶器	
87	03037	那谷1号窟跡	小松市那谷町	窟跡	鎌倉初期	加賀焼大甕、織り鉢	1969年北陸大谷高校地歴クラブ調査保存
89	03038	那谷1号～6号窟穴	小松市那谷町	窟穴基	古墳		
90	03035	矢田野向山窟跡	小松市矢田野町	窟跡	奈良	須恵器	1基確認、1980年市教委発掘調査
91	06282	角宮1～7号窟跡	加賀市角宮町	窟跡	奈良・平安	須恵器・木炭	
92	03036	矢田野長尾山窟跡	小松市矢田野町	窟跡 製鉄跡	平安・鎌倉	須恵器・鉄滓	東部3跡4基、内側須恵器製鉄跡2基と製鉄跡2ヶ所
93	03030	二ッ塚蓋谷窟跡	小松市二ッ塚町	窟跡	奈良・平安	須恵器	3基確認
94	03031	二ッ塚蓋谷窟跡	小松市二ッ塚町	窟跡	奈良	須恵器	1基確認
95	03029	二ッ塚東山窟跡	小松市二ッ塚町	窟跡	古墳・奈良	須恵器	1984年市教委5基発掘
96	03011	二ッ塚遺跡	小松市二ッ塚町	散布地	奈良・平安	土器・須恵器	
97	06283	箱宮B遺跡	加賀市箱宮町	散布地	中世	中世陶器	
98	06284	打越A遺跡	加賀市打越町	散布地	縄文前	土器、石斧、石鏃	
99	06286	打越B遺跡	加賀市打越町	城跡	安土桃山		横(溝)田中務の野城
100	06285	打越C遺跡	加賀市打越町	散布地	弥生後期	弥生土器、石斧	

No.	遺跡番号	名 称	所 在 地	種別	時 代	出 土 品	備 考	
101	03110	無名古墳群	小松市矢田町	古墳	古墳		約10基の円墳で構成	
102	03112	刀阿泥遺跡	小松市矢田野町	散布地	古墳後期・中世	須磨器・加賀焼		
103	03109	丸山古墳	小松市矢田新町	古墳	古墳	石棺・須磨器	周溝一部損	
104	06367	矢田新遺跡	加賀市高塚町 小松市矢田新町	墓塚跡	奈良・中世	坏蓋・土師器・彩色土器・陶質土器・加賀焼		
105	03111	菰森塚古墳	小松市矢田野町	古墳	古墳	須磨器、金環、石棺	円墳、1963年調査消失	
106	03113	矢田野神社前遺跡	小松市矢田野町	散布地	平安	土師器		
107	03114	中村古墳	小松市矢田野町	古墳	古墳	須磨器（魂瓶・鉢蓋）土師器（筒、蓋）、刀剣、鏡等	円墳、1907年主体部を破壊し遺物取り出す	
109	03104	矢田野遺跡	小松市矢田野町	散布地	古墳後期	土師		
110	03102	矢田弓遺跡	小松市矢田町	散布地	古墳	須磨器		
111	03101	矢田A遺跡	小松市矢田町	散布地	縄文	土器、打製石斧、磨製石斧		
112	03103	信屋	1号墳	小松市矢田町	古墳	古墳後期		円墳、径10m消滅
			2号墳				鉄鏝、刀子、竊刀	円墳、径9m、高6.5m
			3号墳					円墳、径10m消滅
			4号墳					円墳、径13m、高3.5m粘土層消滅
			5号墳					円墳、径10m削滅
			6号墳					円墳、径12m削滅
			7号墳				須磨器、流刀、鉄鏝、刀子、門鉤球輪	前方後円墳全長34m、前方部幅8m、後円部径14m、高3m、粘土新土裏層
			8号墳					円墳、扇形粘土層消滅
113	03105	矢田野1号墳		古墳	古墳	円墳		
114	03107	百人塚古墳	小松市矢田野町	古墳	古墳	須磨器	円墳、調査消失	
115	03100	念仏塚古墳	小松市丹美丘町	古墳	古墳		円墳	
116	03099	念仏林南遺跡	小松市丹津町	墓塚跡	縄文中期・古墳	縄文土器、石器、土師器、須磨器	1984、85、81年市教委調査	
117	03115	矢田野エジリ古墳	小松市矢田野町	古墳	古墳後期	門鉤球輪、人物埴輪、馬形埴輪、須磨器、土師器	1988年市教委発掘、前方後円墳、全長30m調査削平	
118	03116	新輪塚古墳	小松市島町	古墳	古墳後期	須磨器（杯、壺）鉄器、小玉	前方後円墳	
119	03098	念仏林古墳	小松市松生町	古墳	古墳後期	須磨器（魂瓶、鉢、高鉢）鉄鏝、鍬先、流刀、鉄斧、金環、勾玉、管玉など	円墳、礎石粘土被覆層	

No.	遺跡番号	名 称	所 在 地	種別	時 代	出 土 品	備 考
120	03097	念仏林遺跡	小松市串町	集落跡	縄文中期～古墳	縄文土器、石器、弥生土器、須恵器	旧番号735.7 37.738を統合 1985～1988年 市教委、1989 年埋文センター 調査
121	03096	月津新遺跡	小松市四丁町	散布地	縄文	土器、石斧、石鏃、 石鏃	
122	03090	白のほぞ古墳	小松市観見町	古墳	古墳		前方後円墳全 長52m、1990 年古墳文化を 学ぶ会調査調 査
123	03088	観見神社前B遺跡	小松市観見町	散布地	縄文	土器、打撃石斧、石 鏃	遺跡の中央を 市道が横断し ている
124	03089	観見町遺跡	小松市観見町	散布地	奈良～中世	土師器、須恵器、中 世陶器、土師瓦土器	
125	03087	観見神社前A遺跡	小松市観見町	散布地	弥生～古墳	土師器	
126	03091	佐倉門殿古墳	小松市観見町	古墳	古墳	円墳	崩壊
127	03095	茶臼山B遺跡	小松市月津町	散布地	縄文	土器（中期）	
128	03092	茶臼山原北遺跡	小松市月津町	祭祀	奈良	須恵器、土馬	1966年北陸大 谷高校地誌ク ラブ調査
129	03094	茶臼山古墳	小松市月津町	古墳	古墳後期	須恵器	円墳、径30m、 高4m
131	06363	柴山水底縄文貝塚遺跡	加賀市柴山町	散布地	縄文早期	縄文土器、石器、人 骨、獣骨、貝類	
132	06362	柴山中世墓	加賀市柴山町	墓跡	中世	越前焼締鉢、珠洲焼 壺	「石考研会誌」 第22号
133	06360	柴山城跡	加賀市柴山町	城跡	中世		
134	06359	一白B遺跡	加賀市一白町	散布地	縄文	縄文土器	
135	06358	一白A遺跡	加賀市一白町	散布地	古墳～平安	土師器、須恵器	
137	06357	伊初遺跡	加賀市伊初町	散布地	縄文早期	縄文土器	
138-a	06366	柴山出行遺跡・A地点	加賀市柴山町	散布地	縄文、弥生	縄文土器、弥生土器	
138-b		柴山出行遺跡・B地点		集落跡	縄文・ 奈良～平安	縄文土器、土師器、 須恵器	1997年埋立セ ンター調査
139	06365	柴山水底遺跡	加賀市柴山町	散布地	弥生中期	弥生土器、自然遺物、 水墓	位置不明
140	06364	柴山貝塚	加賀市柴山町	集落跡	縄文中～ 後期、不詳	縄文土器、石斧、石 鏃、骨製品、石鏃、 貝、石皿、土器、三 角錐形、土製品、獣 骨、須恵器、土師器	市指定史跡
142	03086	山の上遺跡	小松市佐賀町	散布地	縄文	土器（後期）、磨製 石斧、石鏃	
143		富樫実電所遺跡	加賀市富樫町	散布地	縄文		
144		観見町西遺跡	小松市観見町	集落	弥生・古墳 ・中世		1996年から埋 文センター調 査
145		瀬津金場遺跡	加賀市瀬津町	集落	古墳	須恵器・土師器	1993年埋文セ ンター調査

台地北側にも砂丘に埋もれた古墳が存在するのかもしれない。

月津台地は後期古墳のみで構成され、5世紀末から6世紀後半までのものが確認されている。大量の埴輪の出土で知られる矢田野エジリ古墳(117)や月津台地最大の前方後円墳である臼のぼろ古墳(122)、横穴式石室に家形石棺を持つ丸山古墳(103)、などが目を引く。この他、江沼丘陵の先端部付近に位置する分校山王古墳(81)が後期古墳として知られている。

竊跡は江沼丘陵の先端部からやや入った地点の南加賀古竊跡群で5世紀末からの操業が想定され、発掘調査ではツツ梨東山竊(95)で6世紀前半からの操業が確認されている。

古代に入ると小地域性は維持されるものの、遺跡が整理されたかの様に見える。また、これまで遺跡のなかった地点で遺跡が出現する。依然として橋立台地北東端の地域はにぎわしいが、篠原新遺跡(1)のように砂丘地にまで広がりを見せている。柴山台地でも遺跡が再び営まれ始める。古代北陸道や柴山湖水運との関連であろうか。

7世紀初頭は弓波遺跡、念仏林南遺跡、額見町遺跡(124)、額見町西遺跡(144)などが発掘調査されている。特に額見町遺跡、額見町西遺跡では渡来系と考えられるL字型竈を持つ竪穴住居跡が確認され注目されている。額見町遺跡はこの図幅の範囲では他に確認例がない7世紀中葉の集落が営まれ、これ以降中世まで断続的に遺跡が続いている。

7世紀末葉には宮地鹿寺(11)、弓波鹿寺(61)が現れる。どちらも交通路の要の地点であることに注目したい。奈良時代前半の遺跡は篠原遺跡(4)、額見町遺跡が調査されているが、それ以降の様相ははっきりしない。

平安期にはいと動横川下流兩岸に初めて遺跡が出現する。これは、それ以前の遺跡が発見されていないだけなのか、あるいはこれまで集落が営めるような環境になかったのか、どちらとも考えられるが、月津台地西端裾部にも遺跡の発見例がないことからすると、後者の可能性が高い。

中世にはいっても平安期の傾向とさほど変わらないが、文献でとらえられるほど遺跡の数は確認されていない。発掘調査でも集落の実体がとらえられたものは極わずかである。現集落と重なった地点で遺跡が営まれていたのかもしれない。

第2章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

農林水産省は、高齢化によって農業者が激減する中で、食料の必要最小限の国内供給力を維持するためには、担い手を育成・確保し、それらへ農地利用を集積し、規模拡大をはかることが急務だとしている。21世紀を目指した農業構造ビジョンとして「望ましい経営体が生産の相当部分を担う農業構造の実現」を掲げ、そのために担い手の育成・確保と、農地の利用集積を行うための基礎条件としてほ場の入区画化等整備を促進している。農林水産部農地整備課ではそれに則り各地では場整備事業等を推進している。一方、石川県立埋蔵文化財センター（以後埋文センターとする）はそれら開発行為と埋蔵文化財の保護についてその調整を図るため、事前に事業内容の照会を実施している。

平成6年の照会で平成7年度事業である県営ほ場整備事業片山津地区の事業範囲内に周知の遺跡（竈溝遺跡）が含まれることが明らかになり、埋文センターは分布調査が必要であると回答している。これを受け、農林水産部農地整備課から埋文センターへ分布調査の依頼が出され、平成7年3月22日～23日に、平成7年度通年工区17万㎡を対象として分布調査が実施された。その結果38,000㎡の遺跡範囲が確認されたが、遺物包含層は削平され、残っていない状況も同時に確認されている。石川県立埋蔵文化財センターはその取り扱いについて、工法変更で対処されたいとの回答を行っている。協議の結果、田面は盛り土工法とし、パイプラインおよび排水路敷設部分の内、工事により遺跡に影響のおよぶ範囲が発掘調査対象となった。発掘調査は約1200㎡を対象とし、平成7年9月後半から実施する予定であったが、その後、計画の変更等により、対象面積は450㎡と減少した。しかし、発掘調査開始時期は他地区の発掘調査の終了が遅れ、同年11月20日より現地調査を開始することとなった。

県営ほ場整備事業片山津地区は平成8年9月30日～10月1日、10月30日に平成8年度秋施工区と平成9年度通年工区22万4千㎡について分布調査が実施され、内4,100㎡について遺跡の存在が確認されている。この部分については工法変更により発掘調査の対象となっていない。

第2節 調査経過

現地調査は4ヶ所、計約450㎡を対象とし、平成7年11月20日から開始した。仮設建物の建て上げと一部試掘調査を行い、翌日に重機により、上流部の第1調査区と第2調査区の表土を除去した。22日に機材を搬入するとともに、第1調査区の排水溝掘削作業から開始した。耕作土直下が遺構検出面となっており、24日にはA～E区の遺構検出を終え、検出された遺構の掘り下げに取りかかっている。2号溝からは完形に近い弥生土器が出土した。

27日には残りのF～H区の遺構検出を開始した。遺構検出面の土と遺構覆土が類似し、なかなか遺構の輪郭が捉えづらく、排水溝掘削で捉えた土坑1基を確認するにどまった。また、同様の輪郭の捉えづらき遺構がE区からF区にかけてあり、8～12号溝の記録終了後、これの検出を行った。

12月に入り掘り下げが進むと、これら二つの遺構は弥生中期の遺構で、E区のは竈穴住居跡と想定した。どちらの遺構も多くの土器が出土している。12月8日までに記録作業も終了し、11日から第2調査区に取りかかった。機材を第3調査区に近くに置いたユニットハウスに移動し、排水溝掘削と遺構検出に取りかかっている。この調査区はその3分の2が河川で、この他、中世以降の大溝と

土坑などを確認したにとどまった。13日には第3調査区、第4調査区の表土を除去し、第3調査区A、B区の遺構検出を終え、14日から遺構を掘り下げている。A区では竪穴住居跡、B区では土坑群が検出され、竪穴住居跡は柱穴の底に礎板や枕木が残っているものがあり、土坑群からは多量の土器片が出した。

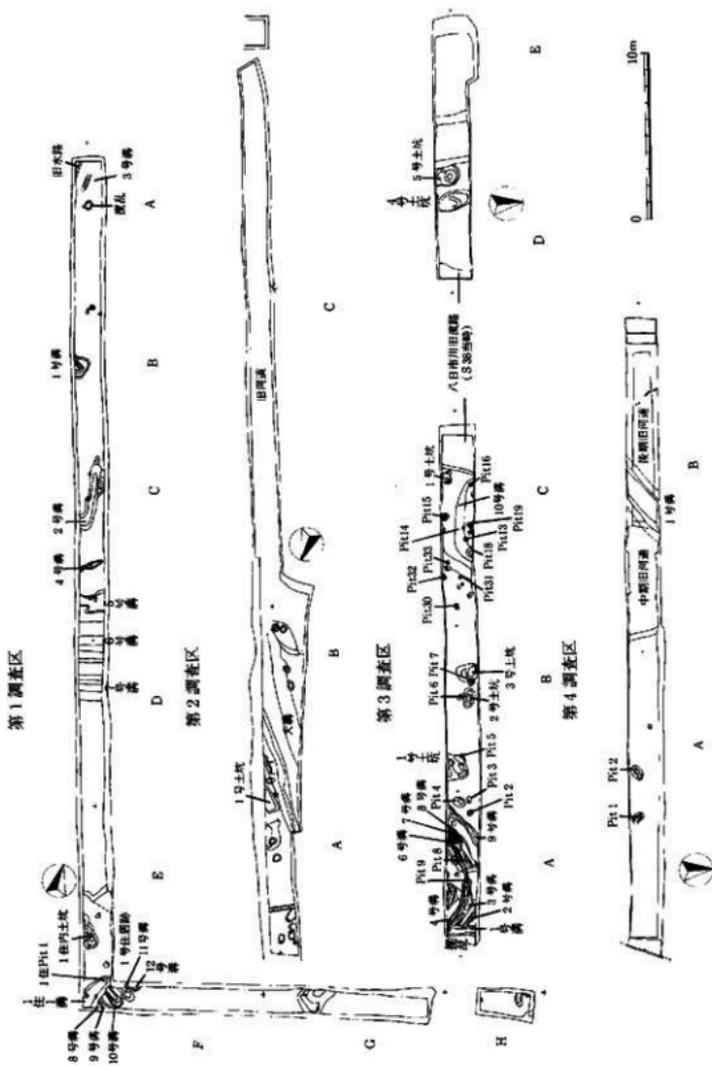
19日からはC～E区の遺構検出を順次進め、C区では調査区内でコの字に折れる溝状遺構と昭和38年当時の八日市川の流路跡、D区では土坑、E区では鞍部を確認した。E区の鞍部は、重機によりその延長の確認につとめたが、調査区西側の農道直前までいっても端が捉えられなかった。この鞍部は後に旧河道跡と判明するのだが、この段階では予想もつかなかった。

P-10～12の礎板は複雑に重なり合っており、この記録や取り上げが、天候の悪化もあって進まずとうとう年内に終了することができなかった。

1月4日から記録作業を再開し、5日に礎板の取り上げを完了し、8日から第4調査区の調査を開始した。第4調査区はその半分以上が弥生時代の旧河道であり、A区は柱穴を数基確認したにとどまる。掘り下げる進めると、内2基は竪穴住居の主柱穴であることが判明した。10日にはA区の遺構を掘り終え、旧河道の調査に専念した。上面からは多量の土器片が出土し、それが少なくなると今度は多量の本製品が顔をのぞかせ始めた。掘り進めると、河道跡は1本ではなく、幅2mほどの溝が重複し、さらに旧河道の肩と考えていた部分も河道覆土であることが判明した。また、調査区の西端近くに枕列があることも確認された。

25日に記録、遺物の取り上げ作業を終了し、26日に機材の撤収を終え、現地作業をすべて終了した。

2月の下旬になり遺跡下流の揚水機場の工事を開始すると連絡を加賀農林総合事務所から受けた。この地点は遺跡ではないと分布調査で回答した地点であったが、第4調査区の旧河道の延長が少ししかかるかもしれないと思われたため、立ち会い調査を実施することにした。立ち会い調査では旧河道の左岸付近が確認され、少量の土器と木製品が出土した。また、左岸には遺構が存在することも確認できた。この結果から第2、4調査区の旧河道、第3調査区の鞍部が1連のもので、それは試掘調査でははっきりとしなかった昭和38年の改修時の流路とは別の流路で、その流路幅が40mほど大きなものであったことが判明した。



第6図 猫橋遺跡'95年度調査区遺構配置図 (S = 1/300)

第3章 遺構と遺物

第1節 第1調査区(遺構 第7図、土器 第12~15図、石器 第26・27図)

第1調査区は'95年調査区中最上流部に位置し、他の調査区とはややなれている。弥生時代中期の竪穴住居跡1棟、土坑1基、弥生時代後期の溝6条、時期不明の溝6条を検出した。中期の遺構は調査区の南側に、後期の遺構は調査区の北側に位置している。

1号土坑はG区の中央やや西側に位置する。検出した部分では台形状を呈するが、調査区北側に広がる。坑底最深部は調査区北壁にかかっており、検出面より45cm程で、比較的平坦である。向側に途中小さな段を持ちつつ緩やかに立ち上がる。南側へはやや広い段を持ちながら立ち上がっている。覆土下部に炭化物を多く含み、この部分を中心として多量の土器と、緑色凝灰岩の剥片、砥石などが出土した。出土土器には壺、甕、鉢がある。遺存状態が悪く器形の全体を知り得るものは限られ、ほとんどが復元実測である。甕形土器の組成から弥生時代中期小松式頃のものと考えている。

1号竪穴住居跡はE区南側に位置する。掘り込みは検出面より20cm程であるが、壁の立ち上がりははっきりとせず、平面形についてはうまく捉えられたか不安が残る。検出した形からすれば2棟ほどの切り合いがあると考えられるものの、上層断面では確認できなかった。また、南東壁際に溝状に落ち込む部分があるが、竪穴住居に付随するものか、あるいは別遺構なのか、判断できなかった。覆土からは小片が多いものの多量の土器と、砥石、台石などが出土している。調査区の西側に寄って土坑状の落ち込みが確認され、この覆土に炭化物を多く含む層があり、これを炉付近と考え、また、3層下底が比較的平坦な点から竪穴住居としたが、別種の遺構とも考えられる。出土土器には1号土坑と同様に壺、甕、鉢などがあるが、これも遺存状態が悪い。1号土坑より新しく弥生時代中期細部式頃のものと考えている。包含層遺物の内E・F区のは1号竪穴住居跡のものと考えられる。

2号溝はC区北よりに位置し、一部B区に広がっている。検出した部分はクランク状を呈している。幅60cm、深さ20cm程で、断面形は緩いU字状を呈する。覆土上位に赤色粒子を多く含む薄層が、やや下位に灰白色の粘土の薄層が認められる。この粘土層より上位を中心として土器が集中して出土した。この状況は東側にさらに広がっていくと思われる。復元できた個体は壺が1点ある他は甕形土器で占められる。弥生時代後期猫橋式と思われる。

6、7号溝はD区北端に位置する。幅は6号溝が2.5m、7号溝が1.3m程で深さは両者とも20cm弱である。また、C区側に浅い落ち込みが認められ、これを5号溝とした。いずれも東西方向に延長を持ち、検出部分では平行している。6、7号溝は溝底から肩に向かって緩く立ち上がる。6号溝は上部南側にもう1条浅い溝が重なっている。遺物は小片の土器が多量に出土している。猫橋式と考えられる。

1、4号溝も覆土の色調から弥生後期のものと思われるのはっきりしない。8~12号溝、3号溝は覆土が灰色系で弥生時代以降と思われるが、時期を特定できる出土遺物がない。8~12号溝は長さ2m弱、幅50cm前後の溝が並走している。

この他、遺物では緑色凝灰岩の剥片がやや目立つ。また、1点出土している土器はF区出土で、他の調査区出土のものより穴の径が小さいことに注意を払っておきたい。

第2節 第2調査区(遺構 第8図(上)、土器 第16図、石器 第27図)

第2調査区は、その南側3分の2が旧河道であった。検出した遺構は大溝と土坑などである。本調

査区は'94年度調査の要因であった排水路の南側延長で、グリッドの中心線は94年度のをそのまま延長した。

人溝はA区南端西壁からB区南端東壁に、直線的にぬける幅3m程の溝である。延長すると第3調査区にかかるはずであるが特定できなかった。深さは50cm程で、横断面形は緩いU字状を呈するが、右岸側に幅の狭い段を有する。最深部は白色粘土層下の茶灰色ピート層に達している。覆土は灰色系の色調で、弥生時代の柱穴を壊していることからこれ以降、おおむね中世以降の所産と思われるが、時期を特定できる遺物の出土はない。旧河道との関係は捉えていない。弥生土器の他、磁石が1点出土している。

1号土坑はB区北よりに位置し、南東部を排水溝で壊している。平面形は長方形で、長さ120cm前後、幅は70cm程である。深さは検出面から35cm、平らな坑底から急角度で立ち上がる断面形をとる。猫橋式の上器片がややまとまって出土している。壺、甕、鉢、高坏、器台などがあるが、どれも全形を窺えるものではない。

旧河道は灰色系の覆土で、この土層が1mほど続く。以下は確認していない。

第3節 第3調査区(遺構 第9・10図、土器 第17~19図、石器 第27図、礎板 第29・30図)

第3調査区は'94年度調査区と交差する様な位置関係にあり、'94年度調査区1・2号住居跡の続き、これ以外の竪穴住居跡の主柱穴と思われる柱穴、竪穴住居の壁溝と考えられる溝、土坑5基、旧河道、昭和38年河川改修時の流路などを確認した。

1号土坑はB区東よりに位置し、南側は調査区外に延びる。平面形は長方形と思われる。北側から数段の平坦面を持ちながら、やや東よりの最深部に至る。深さは検出面から30cm程である。土器片が多く出土している。出土土器は猫橋式と考えられる。

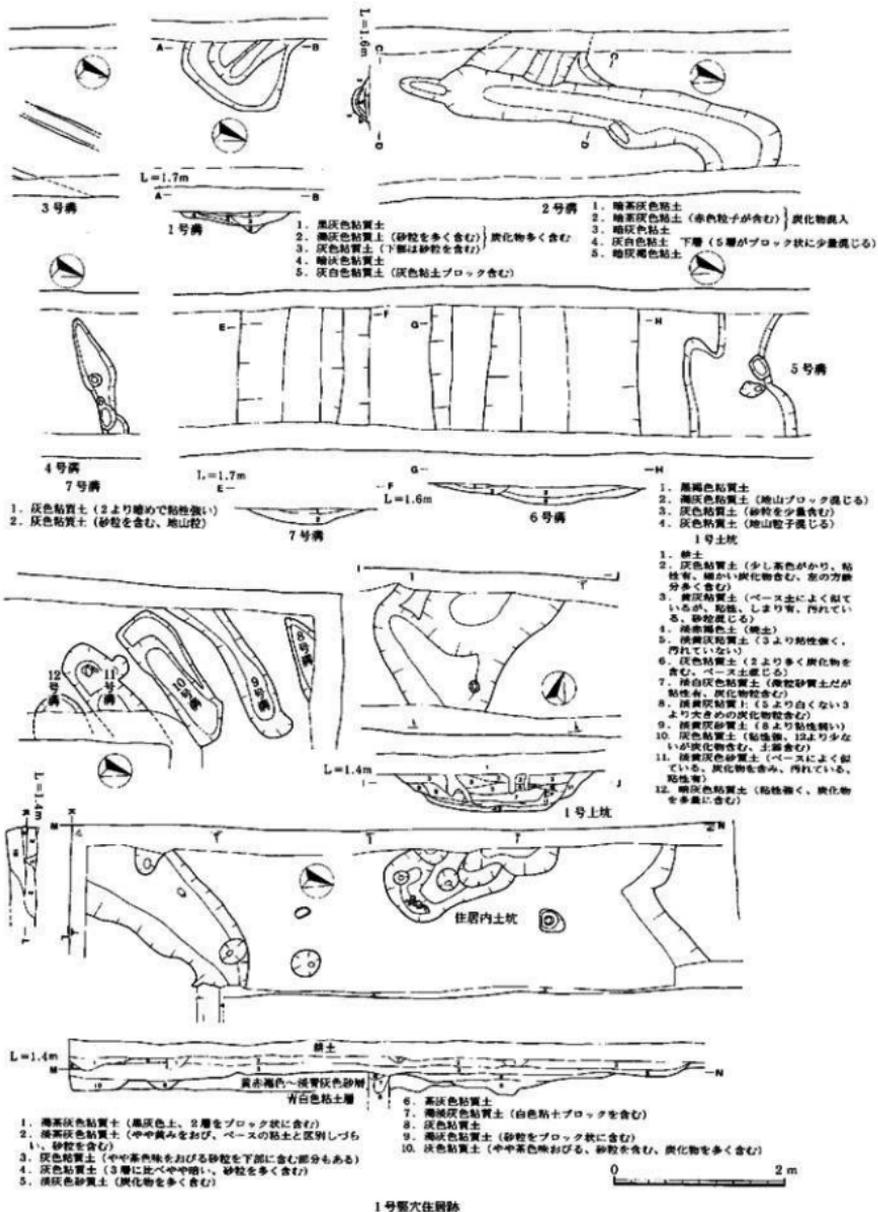
2号土坑はB区中央北よりに位置し、3号土坑に隣接している。平面形は長楕円形を呈し、長径1.2m弱、短径0.6mで長軸の両側に段を持ち、中央の最深部に至る。深さは検出面から30cm程である。覆土からは土器小片が多く出土した。実測に耐えうるものはないが、猫橋式と考えられる。

3号土坑は2号土坑の西側に位置する。楕円形を呈するが、2号土坑とは長軸を90度違える。短径は1m弱で2号土坑より大きい。断面図では表現されていないが、2号土坑と同様長軸の両側に段を持つ。深さは検出面から50cm程である。出土遺物は弥生土器の他、磨製石斧とガラス小玉がある。

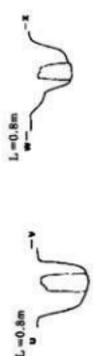
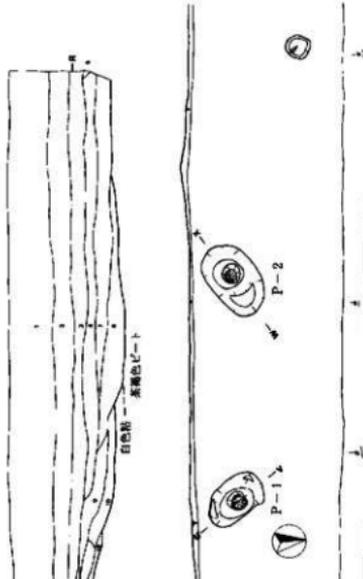
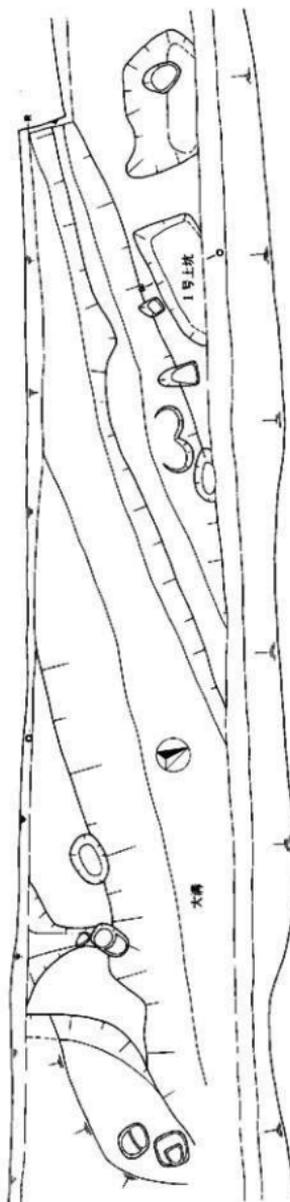
4号土坑はD区に位置し、5号土坑に隣接する。坑底は南側すべてと北側の一部を掘りすぎている。長楕円形を呈し、長径2m以上、短径1.1m程で深さは40cm程である。平面図では2段掘りの様な表現となっているが、掘りすぎで、坑底から緩く立ち上がっている。覆土からは土器片が多く出土している。

5号土坑は4号土坑の西に位置する。平面形は楕円形を呈するものと思われるが、皿状の部分の中央に、円形と略方形の落ち込みが重なったような形態となる。別遺構の可能性も考えられる。浅い皿状の部分からは高坏の坏部が出土している。中央部分からも土器片が出土しているが実測に耐えうるものはない。

10号溝はC区に位置し、西側を八日市川川流路に切られているが、コの字状に曲がることを確認した。横断面形は外側には内湾気味に立ち上がるが、内側には緩くならかに立ち上がる。幅は2m前後で、深さは検出面から40cm程である。覆土の上位からは多量の土器片が出土したが、断面では南東部に別遺構の存在が窺え、また、P・17・18なども上面から掘り込まれており、本来的にこの溝の時期を表すものではないと考えられる。方形溝溝底の溝の可能性を考えておきたいが決り手に欠ける。



第7図 第1調査区遺構図 (S = 1/60)



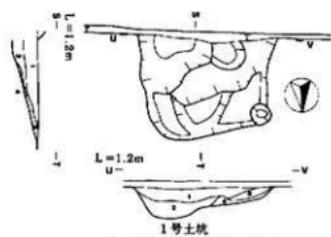
大溝

1. 溝河原土 (砂粒混じり)
2. 白土上 (褐色粘質土)
3. 白土上 (褐色粘質土) (5の土粒子分佈着)
4. 白土上 (褐色粘質土) (5の土粒子分佈着)
5. 灰粘質土 (砂粒の多少による、部分波打あり、しまりよ)
6. 灰粘質土 (砂粒の多少による、部分波打あり、しまりよ)
7. 灰粘質土 (6より砂粒多い)
8. 褐色粘質土 (塊状、砂混入)
9. 灰粘質土 (少し褐色がかる)
10. 灰粘質土 (薄山白色粘質土)
11. 灰粘質土 (薄山白色粘質土)
12. 灰粘質土 (薄山白色粘質土)
13. 灰粘質土 (薄山白色粘質土)

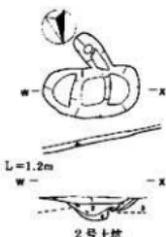


1. 褐色粘質土 (白色粘土ブロック、灰化物、砂粒含む)
2. 褐色粘質土 (灰化物少量含む)

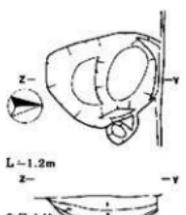
第8図 第2調査区遺構図(上)・第4調査区遺構図(下) (S=1/60)



- 1号土坑
1. 灰色粘質土 (炭化物と砂粒を多く含む)
 2. 黒灰色粘質土 (炭化物含む)
 3. 黄灰色粘質土 (黄白色の地山ブロック含む)
 4. 灰黄色砂



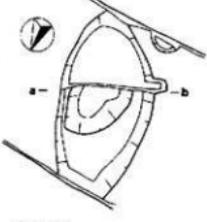
- 2号土坑
1. 薄黒褐色粘質土 (炭化物粘含む)
 2. 薄黒褐色粘質土 (炭化物粘、土器、地山淡黄白粘土粘含む)
 3. 黄白色粘質土 (地山土が少し汚れている)
 4. 薄白色粘質土 (地山土に2の土が混じり、炭化物粘少し含む)



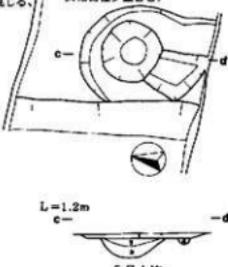
- 3号土坑
1. 暗黒褐色粘質土 (炭化物粘多く含む、白色粘土粘少し含む)
 2. 暗黒褐色粘質土 (1より暗め、炭化物粘多く含む、白色粘土ブロック含む)
 3. 灰黄色粘質土 (白色粘土と2の土混じり炭化物粘少量含む)

10号溝

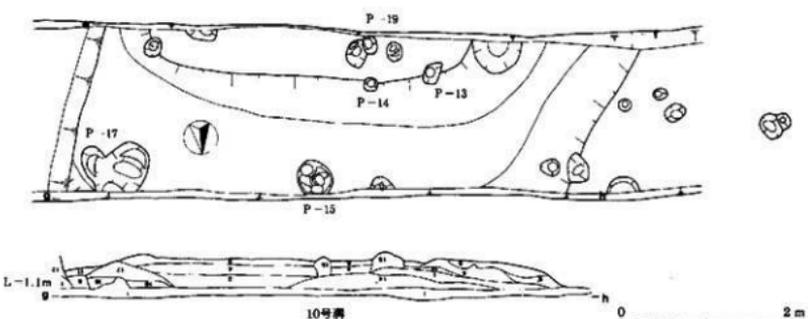
1. 餅土淡褐色粘質土 (細砂含む、ボソボソしている)
1. 餅土淡褐色粘質土 (1よりしまりあり)
2. 薄暗褐色粘質土 (砂、炭化物粘含む、2と2'の境に薄い炭層入る。少しボソボソしている。鉄分沈着)
- 2'. 薄暗褐色粘質土 (砂、炭化物粘含む2より暗めで粘性强い、白色粘土粘少し含む。鉄分沈着)
3. 暗暗褐色粘質土 ('3'と3'の境に炭層入る。砂、炭化物粘含む。白色粘粘含む。鉄分沈着)
4. 黒色粘質土 (粘性強く、炭化物粘含む。鉄分沈着)
5. 灰色粘質土 (4より粘性強く、炭化物粘含む。鉄分沈着)
- 5'. 暗灰色粘質土 (炭化物粘少し含む。5より暗め)
6. 暗褐色粘質土 (炭化物粘、土器片、砂含む)
7. 灰色粘質土 (炭化物粘粘含む)
8. 暗暗褐色粘質土 (炭化物粘大めで多く含む、灰色粘土粘も含む)
9. 暗灰色粘質土 (炭化物粘、砂含む)
10. 暗褐色粘質土 (炭化物粘含む、強粘性)
11. 薄灰色粘質土 (砂、炭化物粘、白色粘粘含む)
12. 淡灰褐色粘質土 (しまりがあり、ボソボソ感ない)
13. 暗暗褐色粘質土
14. 暗褐色粘質土 (炭化物粘、白色粘土粘、砂含む)
- 14'. 暗暗褐色粘質土 (14より暗めで粘性强く、砂含む少くない)
- 14''. 暗暗褐色粘質土 (炭化物粘、白色粘土粘、砂、土器片含む)
15. 薄灰色粘質土 (炭化物粘多く含む、土器、白色粘土粘も含む)
16. 暗暗褐色粘質土 (炭化物粘、土器片少し含む、ボソボソしている)
17. 薄暗褐色粘質土 (炭化物粘、土器片多く含む)
18. 薄暗褐色粘質土 (炭化物粘を含む、しまりなくボソボソしている)



- 4号土坑
1. 灰色粘質土
 2. 薄灰色粘質土 (白色粘土ブロック含む、炭化物粘含む)
 3. 暗暗褐色粘質土 (白色粘土ブロックを少量含む、炭化物粘含む)



- 5号土坑
1. 薄褐色粘質土 (鉄分沈着層、本層は灰色粘質土)
 2. 灰色粘質土 (白色粘土ブロック、炭化物粘含む)
 3. 暗暗褐色粘質土 (白色粘土ブロック、炭化物粘少量含む)
 4. 薄灰色粘質土 (白色粘土ブロック多く含む)



第9図 第3調査区遺構図〔1〕(S-1/60)

L=1.1m



L=1.2m



P-1

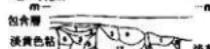
1. 褐色白色粘質土 (砂まじり、炭化物混入)
2. 褐色粘質土 (白色粘土ブロック含む、炭化物混入)
3. 反白色砂 (炭化物混入)
4. 褐色粘質土 (白色粘土ブロック、砂含む、炭化物混入)
5. 褐色粘質土 (白色粘土ブロック、砂多量に含む、炭化物混入)
6. 褐色粘質土 (白色粘土ブロック含む、炭化物混入)
7. 褐色白色粘土 (砂まじり、炭化物混入)
8. 黄白色粘土 (炭化物混入)
9. 黄白色粘土
10. 褐色粘質土 } 6号溝
11. 褐色褐色粘質土 (砂まじり) } 7号溝
12. 反白色砂
13. 反白色砂 } 8号溝
14. 黒褐色粘質土

柱部分

P-8

1. 褐色粘質土 (砂、白色ブロック、灰色ブロック混入)
2. 褐色粘質土 (砂、炭化物含む)
3. 黄白色粘土 (砂、炭化物含む)
4. 黄白色粘土 (砂、炭化物含む)
5. 褐色粘質土 (砂、炭化物含む)
6. 褐色褐色粘質土 (砂、炭化物含む)
7. 褐色褐色粘質土 (砂、炭化物含む)
8. 反白色砂
9. 褐色褐色粘質土 (砂、炭化物、白色粘土含む)
10. 反白色砂

L=1.2m



P-10 P-11 P-12

Pit

L=1.2m

P-10 P-12

1. 褐色褐色粘質土 (砂まじり、灰褐色ブロック混入、炭化物少し含む)
2. 褐色粘質土 (灰褐色ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
3. 褐色褐色粘質土 (褐色粘質土と黄色粘質土が混じりあったような土、炭化物少し含む)
4. 褐色褐色粘質土 (ベース土層黄色粘質土が少し混じっている)
5. 褐色粘質土 (ベース土層黄色粘質土が少し混じっている)

P-11

1. 褐色粘質土 (砂まじり、炭化物含む)
2. 褐色粘質土 (炭化物含む)
3. 褐色粘質土 (灰褐色粘質土と黄色粘質土混入、炭化物含む)
4. 褐色粘質土 (炭化物多量に含む)
5. 褐色粘質土 (砂中の黄色粘質土少量混入)
6. 反白色粘土 (細砂)
7. 褐色粘質土 (砂まじり、ベース土層黄色粘質土混入)
8. 褐色粘質土 (砂まじり、炭化物含む)
9. 褐色粘質土 (砂まじり、炭化物含む)
10. 褐色粘質土 (砂まじり、炭化物含む)
11. 褐色褐色粘質土 (砂まじり、炭化物含む)
12. 褐色褐色粘質土 (ベース土層黄色粘質土多量に含む、炭化物含む)

P-12

1. 褐色粘質土 (砂まじり、白色粘土少量含む、炭化物少し含む)
2. 反白色粘土 (炭化物少し含む)
3. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック混入、炭化物少し含む)
4. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
5. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
6. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
7. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
8. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
9. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
10. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
11. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)
12. 褐色粘質土 (褐色粘質土ブロック多量に混入、炭化物少し含む)

柱部分

溝部分

溝部分

溝部分

溝部分

溝部分

溝部分

溝部分

溝部分

溝部分

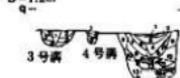
'94年度
1、2号住居跡'94年度
2号溝

'94年度 P-14

'94年度 P-19

'94年度 P-17

L=1.2m



3号溝

1. 褐色粘質土 (炭化物含む、白色粘土、褐色粘質土少量含む)
2. 褐色粘質土 (炭化物含む、白色粘土、褐色粘質土多量に含む)
3. 褐色粘質土 (少し月れている、粘着有り)
4. 褐色粘質土 (反白色粘土の汚れ少し含む)

4号溝

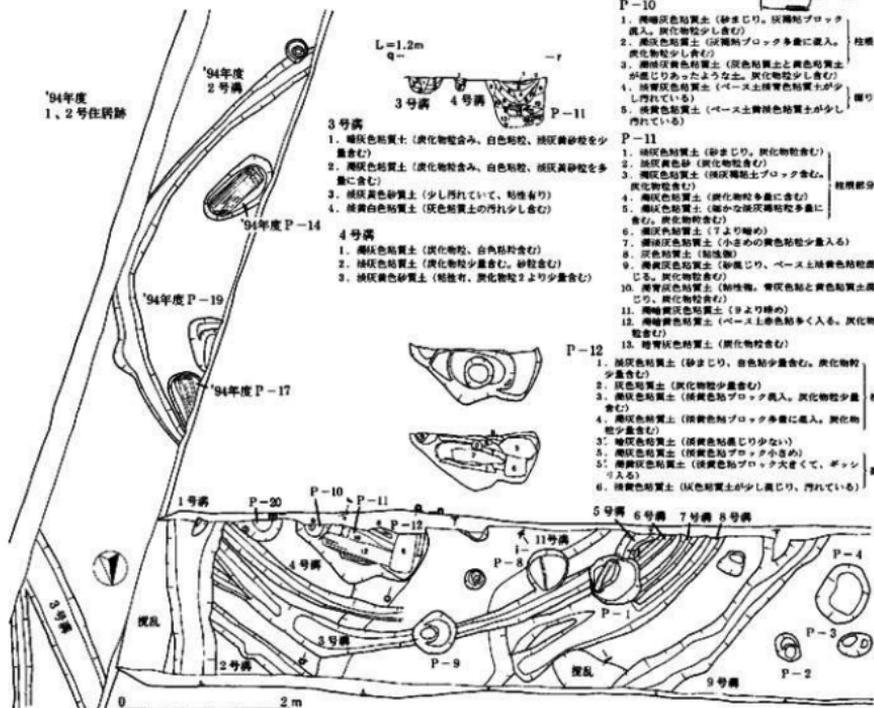
1. 褐色粘質土 (炭化物、白色粘土含む)
2. 褐色粘質土 (炭化物少量含む、砂粒含む)
3. 褐色粘質土 (粘着有り、炭化物より少量含む)



P-11



P-12



第10図 第3調査区遺構図〔2〕(S=1/60)

P-17は柱穴としたものの、多量の土器が出土していることから1~4号土坑と同様な性格の遺構と考えられる。P-15は柱跡の周りに根固め石が散かれている。

1号溝はA区端に位置し、南北方向に延長を持つ溝である。幅50cm、深さ10cm程で上面を削平され溝底部のみが残ったと考えられる。溝底の直上で第19図17の土器が出土している。

11号溝はやや明るい灰色粘質土を覆土とする溝である。溝底はほぼ平らで、そこから軽く立ち上がる。深さは検出面から20cm程である。他の遺構より新しいが、時期を特定できる遺物の出土はない。覆土の色調から中世以降と思われる。

2-9号溝は竪穴住居の壁溝と考えられる。いずれも砂を覆土としており、溝底ははっきりしない。'94年度の2号溝に連続するのは4号溝あたりと思われる。

P-1、8、10は円形を呈し、枕木を有するものである。枕木はいずれも残りが悪く腐化していない。P-9、20も枕木を有していた可能性がある。'94年度P-19とP-20、9、1は同一の竪穴住居の主柱穴と考えられる。'94年度の報告ではこれに2号溝が伴うと考えたが間違っていた。

P-11、12は長楕円形を呈するもので、礎板を有するものである。板は縦割れしているものがあるが、11では3枚、12では2枚の板が敷いてあった。12は11の板をそのまま利用していると考え、4枚の板を敷いていることになる。P-11は板の上位の覆土からガラス玉が出土し、また、板の下に小穴が穿たれ、その中に初がらが充填されていた。P-11は'94年度P-14、17と同-竪穴住居の主柱穴と考えられるが、P-12については不明である。柱穴出土遺物で時期を特定できるものはない。

この他、旧河道は前述したよう調査区西側の農道までいっても左岸を捉えられなかった。遺物ではこの調査区でも緑色凝灰岩の剥片が目立つ。

第4節 第4調査区

(遺構 第9図(ト)・11図、土器 第19～22図、石器 第27図、木製品 第31～48図)

第4調査区は'95年度調査区一番下流に位置し、その西半分が旧河道であった。東半分では柱穴が数基確認されたのみである。この中には竪穴住居の主柱穴と考えられるものがある。また、旧河道は弥生時代中期と考えられる部分と弥生時代後期と考えられる部分、そしてこの上に掘り込まれた1号溝、および杭列が2列ある。

P-1、2はA区のほぼ中央に位置し、長楕円形を呈する。竪穴住居の主柱穴と思われ、配置からして調査区の南側に残りが展開すると考えられる。深さは検出面より60cm程で、P-1ではほぼ中央、P-2ではやや南東によって柱根が残っていた。遺物はほとんど出土していない。

旧河道跡は調査区の西半分を占め、西端は昭和38年改修前の八日市川流路に切られている。上層は灰白色粘質土、腐植物を多く含む暗灰色粘質土、暗緑灰色粘質土があり、これ以下から弥生土器がややまとまって出土している。上層の上面には旧耕土ののっており、上層が旧河道跡の最終段階の埋積土と考えられる。上層に類似した上層は第2、3調査区の旧河道跡上部や'94年度調査区1号溝上部でも確認でき、青磁や中世陶器の出土があることから、この時期以降に埋まりきったと考えられる。

1号溝は南西-北東の方向に延長を持ち、直上に細砂混じりの暗緑灰色粘質土をのせ、これより下位から多量の木製品が出土する。掘り下げている段階では、木製品の集中は認められたものの1号溝の存在が確認できず、木組みの遺構を想定していた。木製品の集中は上部にやや多いものの、下部に至ってもそれなりの出土量がある。覆土は褐色粘質土を主体とし、下部に至るにつれて細砂の混入が多くなり、溝底には粗い砂が薄く堆積している。出土遺物の内1号溝としたものは、その存在が確認できてからのものである。上面からは弥生時代後期法仏式と考えられる甕が出土しているが、主体は箱橋式である。

木製品は柱、梯子等建築部材が主体であるが、農具や容器類が含まれる。また、へらとしたものとその未製品がある。全体に炭化したものが多い。この他、直上付近で炭化初が出土している。

1号溝の東には、南北からやや東にふれた方向の杭列がある。1号溝の本来の肩に一部が掛かって

おり、1号溝よりは新しいものと思われる。杭には丸太材が用いられている。

一方調査区の西端の方にも杭列があり、こちらは前述のものよりさらに東にふれている。旧河道掘り下げ中に確認できているので旧河道よりは新しい段階のものである。こちらは削板材が用いられ、中には炭化しているものがある。

弥生時代後期の旧河道は南壁の土層断面をみると、ちょうど1号溝と丸太杭列の間ぐらいから落ち始めなだらかに西方向へ下がっていく。22、23層は旧河道の基底面の土層であるが、褐色を呈し、旧河道覆土と区別がつけづらい。出土土器は猫轆式が主体でやや古手かと考えられるものが多い。石器は磨石類、白石の他、砂岩製の砥石がある。木製品は建築部材が多いが、農具、工具、容器が含まれている。また、樹皮を素材としたものがある。なお、出土遺物は1号溝の上部のものが含まれるとともに、河道上面から切り込んでいる遺構の遺物が含まれている可能性がある。

弥生時代中期の旧河道は1号溝の東に位置し、覆土は弥生後期の旧河道の層部となっている。覆土は基本的に灰白色の砂層で、上面で前述の杭列や柱穴を確認しており、当初はベース面と考えていた。排水用の側溝を深く掘り下げたところ土器が出土し、これも旧河道跡と判明した。上幅で8m程であるが、深さは湧水が激しく、崩れやすい砂ということもあって底までの掘り下げは断念している。少量の土器と木製品が出土している。時期は土器片が少ないためはっきりとしながい磯部式頃のものと思われる。

第5節 揚水機場立ち会い調査出土遺物（土器 第25図、木製品 第49～54図）

揚水機場は第4調査区から下流へ100m程の所に位置する。この地点は分布調査で遺跡の範囲外と回答した地点であった。分布調査の試掘坑は、揚水機場予定地のすぐ上の水田と西隣の水田に設けられている。西隣の水田では旧耕土の直下に青灰色の粘質土層を確認し、遺構、遺物とも確認できなかった。上の水田では田面から120cmの所で木、砂混じりの暗灰色の粘質土層を確認しているが遺物の出土がなく150cmまで掘り下げた地点で止まっている。一応、河川跡との認識であったが、時代の特定期までに至っていない。遺物の包含層にまで達していなかったといえる。

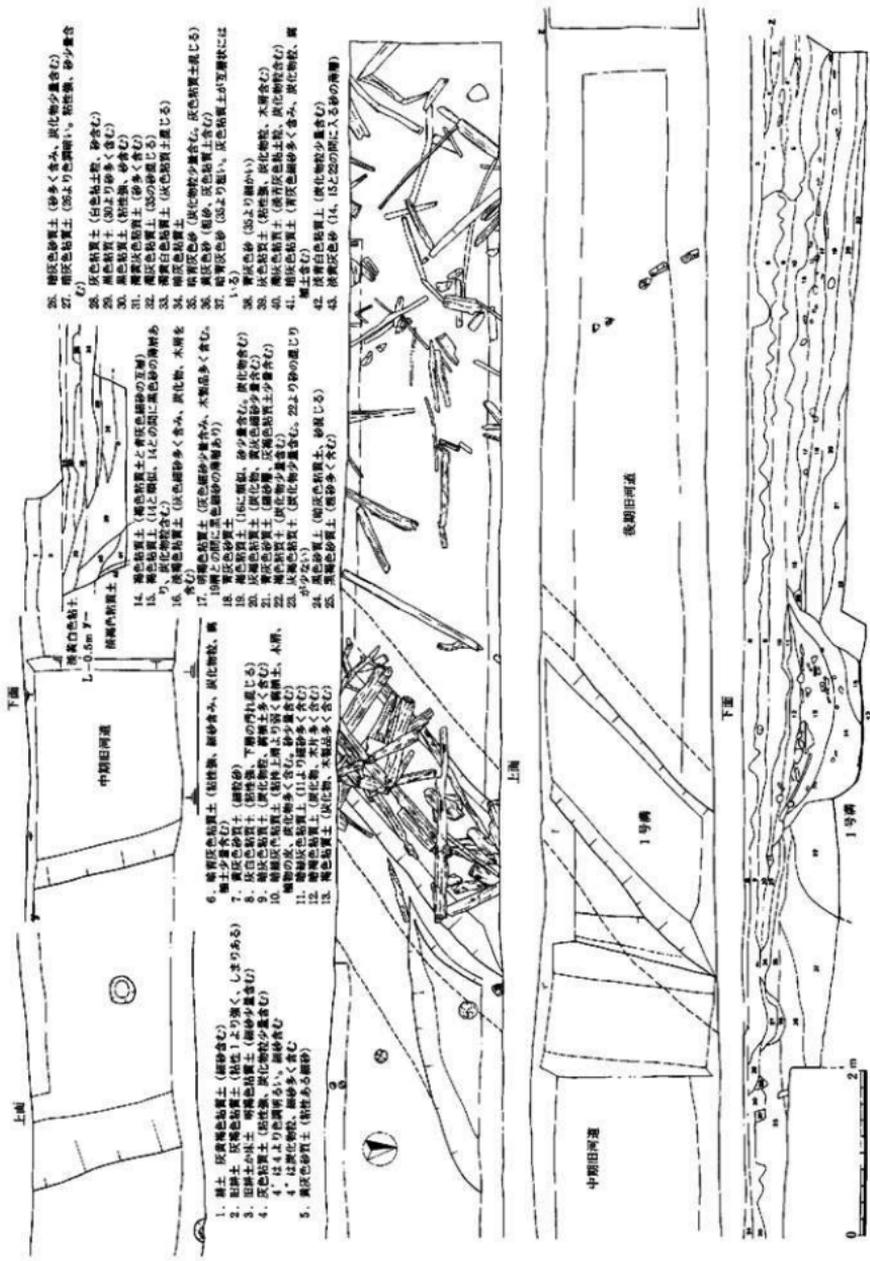
立ち会い調査の対象としたのは揚水機場の留ます部分である。幅10m、長さ15mほどの部分とこれより一回り小さい部分が連結している。用地には田面より30～40cmの盛り上がり成されている。ここから4m程下で旧河道の弥生時代の遺物を含む層となり、用地の標高が2m弱であることから包含層は海拔-2m程となる。掘削はこの層をやや削る範囲までとなった。土器等の出土は少なかつたものの木製品はやや多くの量が出土した。へらや桶など第4調査区旧河道と共通したものが出土すると共に、杵や掛け矢など本調査では出土しなかつたものも含まれている。また、第52図16には表裏面に格子状に樹皮と思われるものが付着している。

試掘坑を揚水機場施設の用地のすぐ横で設けてみたが、旧河道の範囲からはずれ、柱穴等遺構の存在を確認することができた。

第6節 94年度調査区出土遺物と加賀市立ち会い調査出土遺物

（土器 第23～25図、木製品および骨 第54図）

94年度の報告で掲載できなかった土器、木製品、および骨を載せた。第23図は94年度調査区出土土器、第24図、第25図6・7は加賀市立ち会い調査出土土器、第54図は94年度調査区出土木製品および骨である。



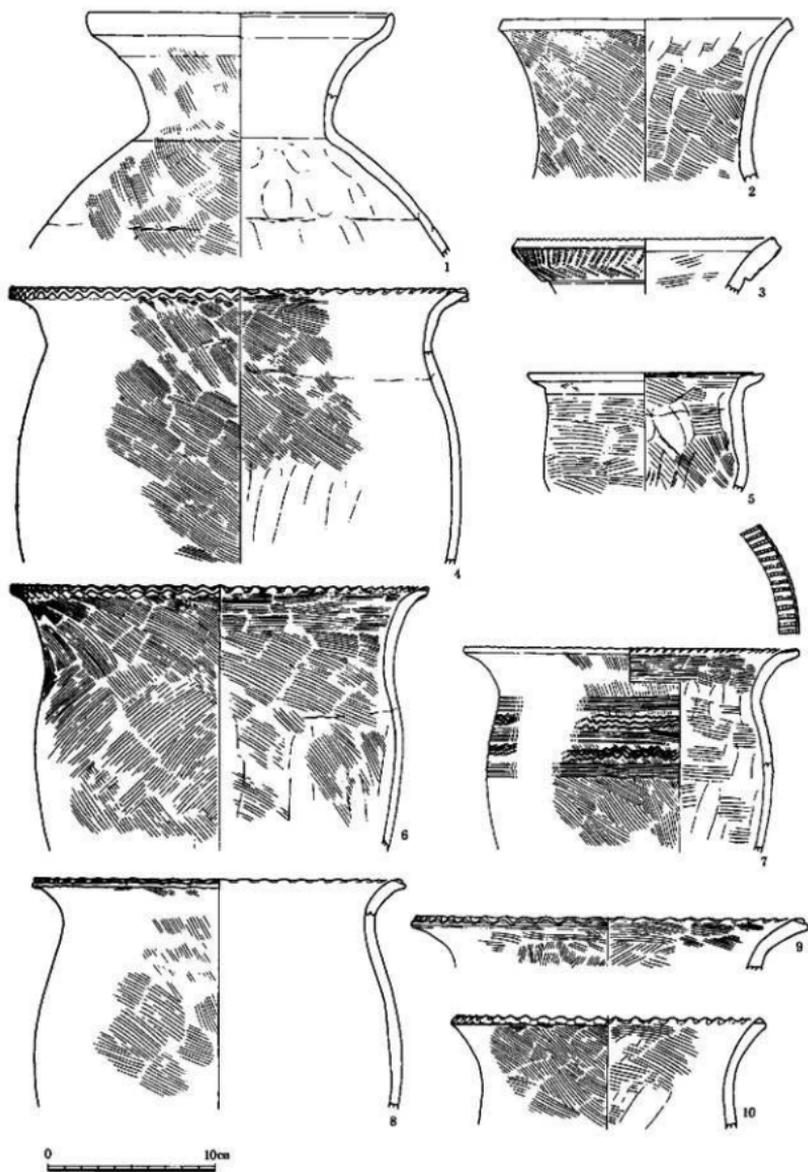
26. 暗灰色粘質土 (砂多く含む、炭化物少量含む)
27. 暗灰色粘質土 (赤より色調強い、粘性强、砂少量含む)
28. 灰色粘質土 (白色粘土層、赤小含む)
29. 黒色粘質土 (砂より砂多く含む)
30. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
31. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
32. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
33. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
34. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
35. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
36. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
37. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
38. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
39. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
40. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
41. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
42. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
43. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
44. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)

14. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
15. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
16. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
17. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
18. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
19. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
20. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
21. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
22. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
23. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
24. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
25. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)

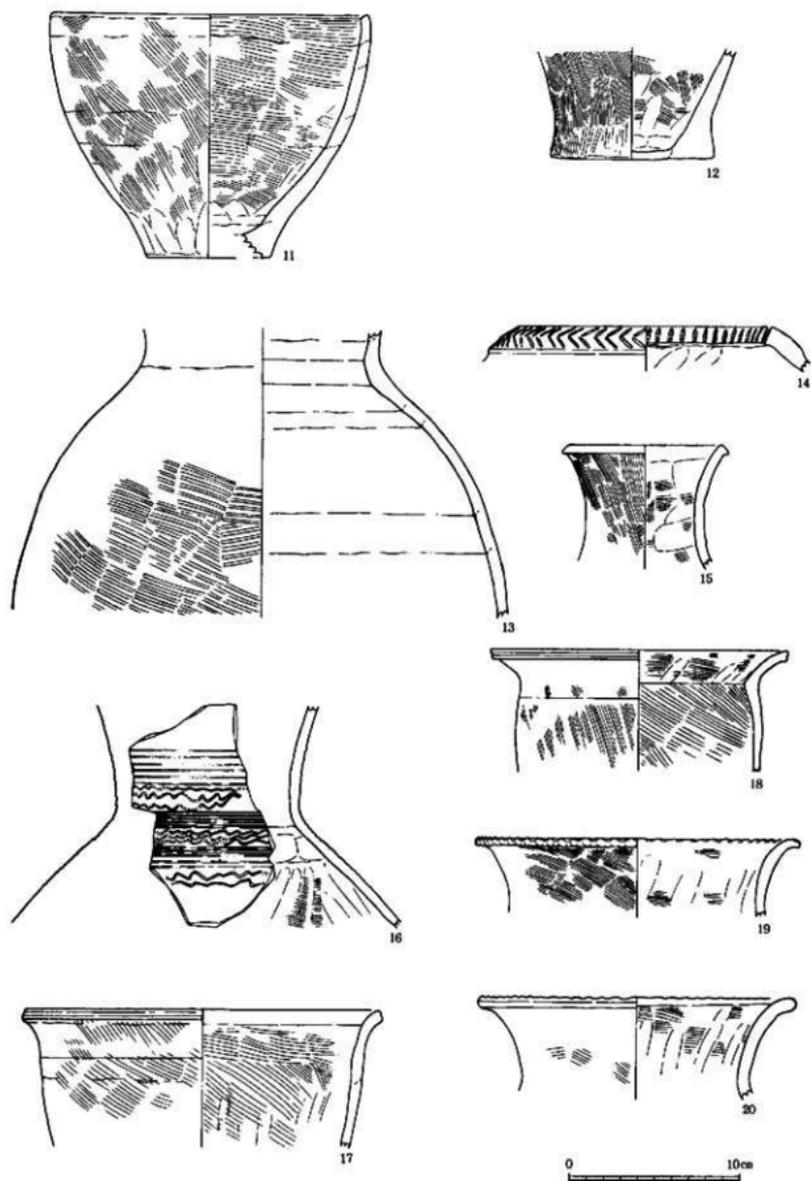
6. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
7. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
8. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
9. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
10. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
11. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
12. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
13. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)

1. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
2. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
3. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
4. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)
5. 暗灰色粘質土 (粘性强、炭化物多量含む)

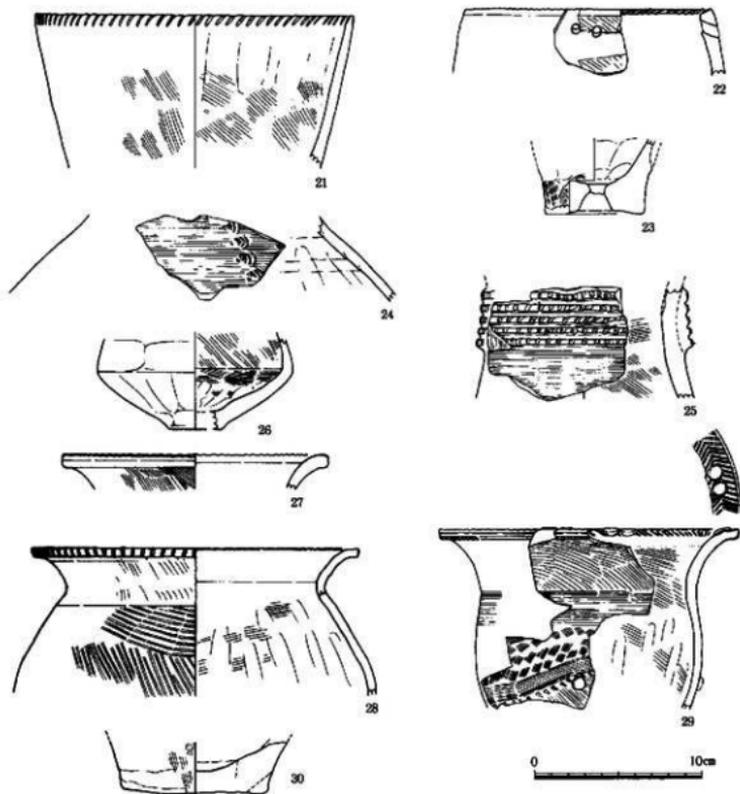
第11図 第4調査区遺構図〔2〕(S=1/60)



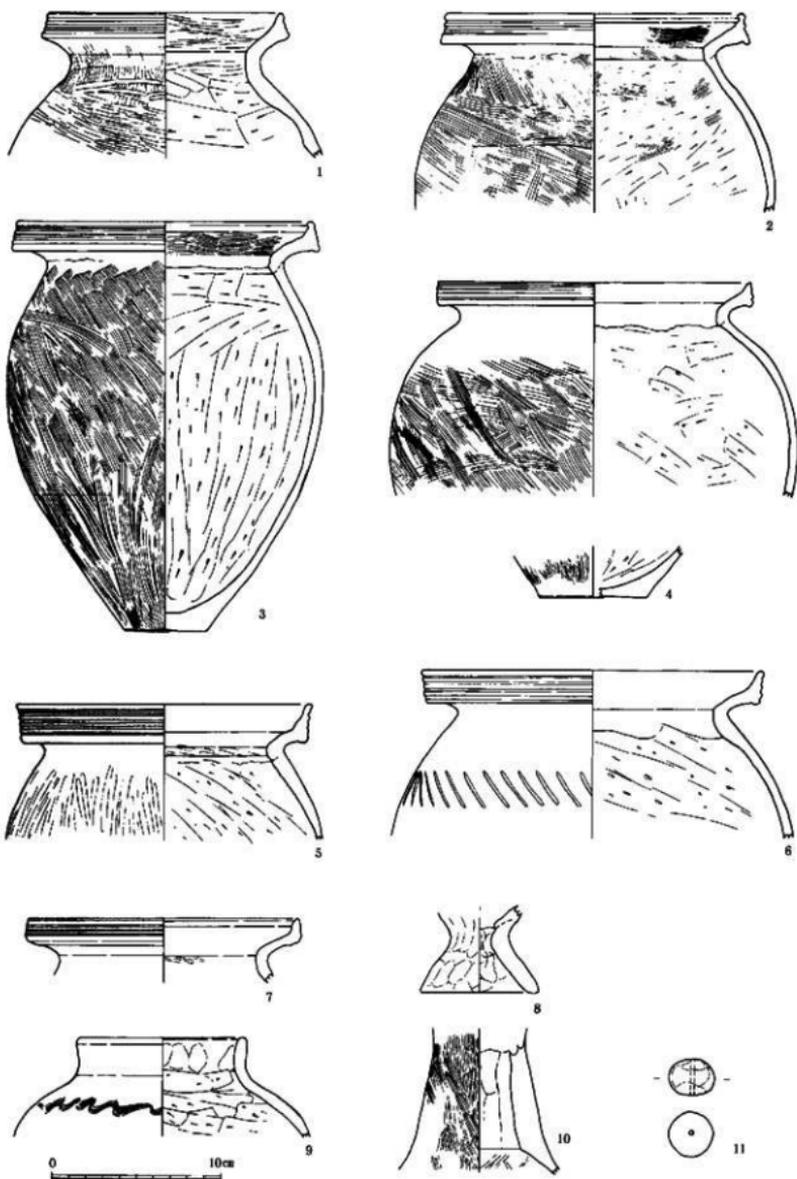
第12図 第1調査区出土土器〔1〕(S=1/3)(1~10 1号土坑)



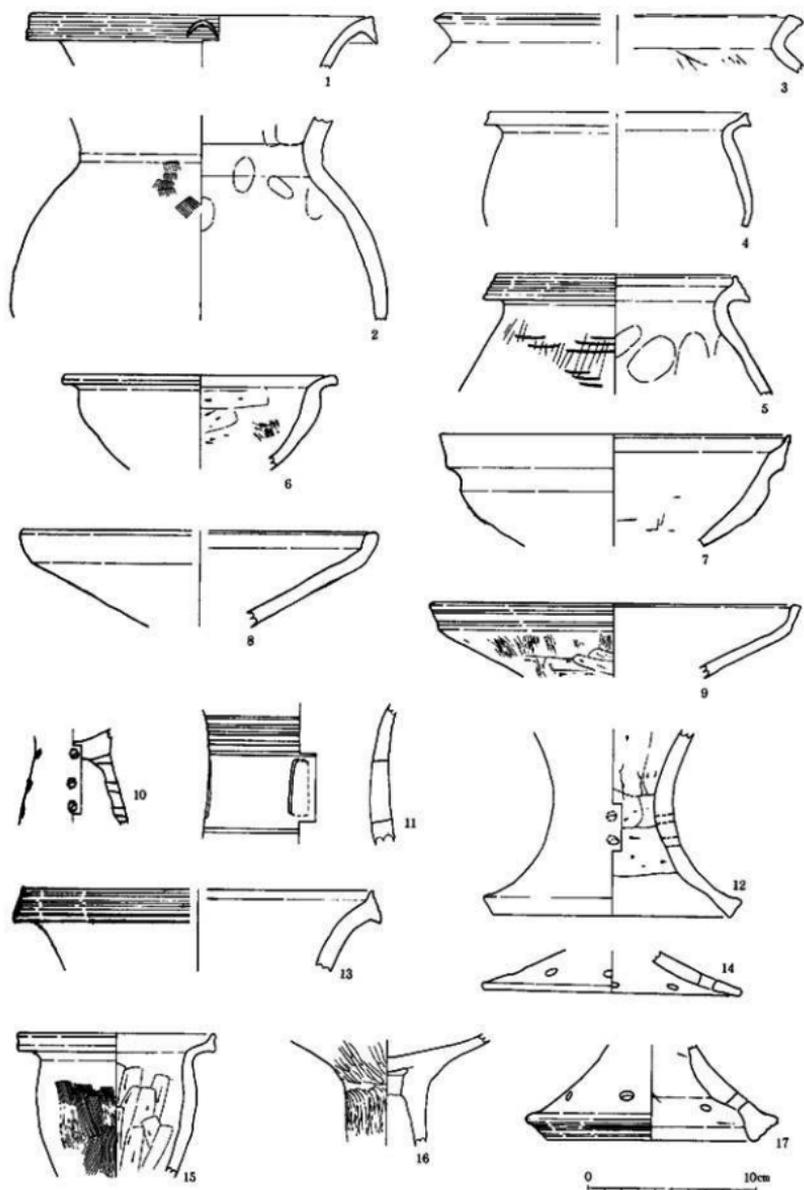
第13图 第1調査区出土土器〔2〕(S=1/3) (11、12 1号土坑 13~20 1号墓穴在位跡)



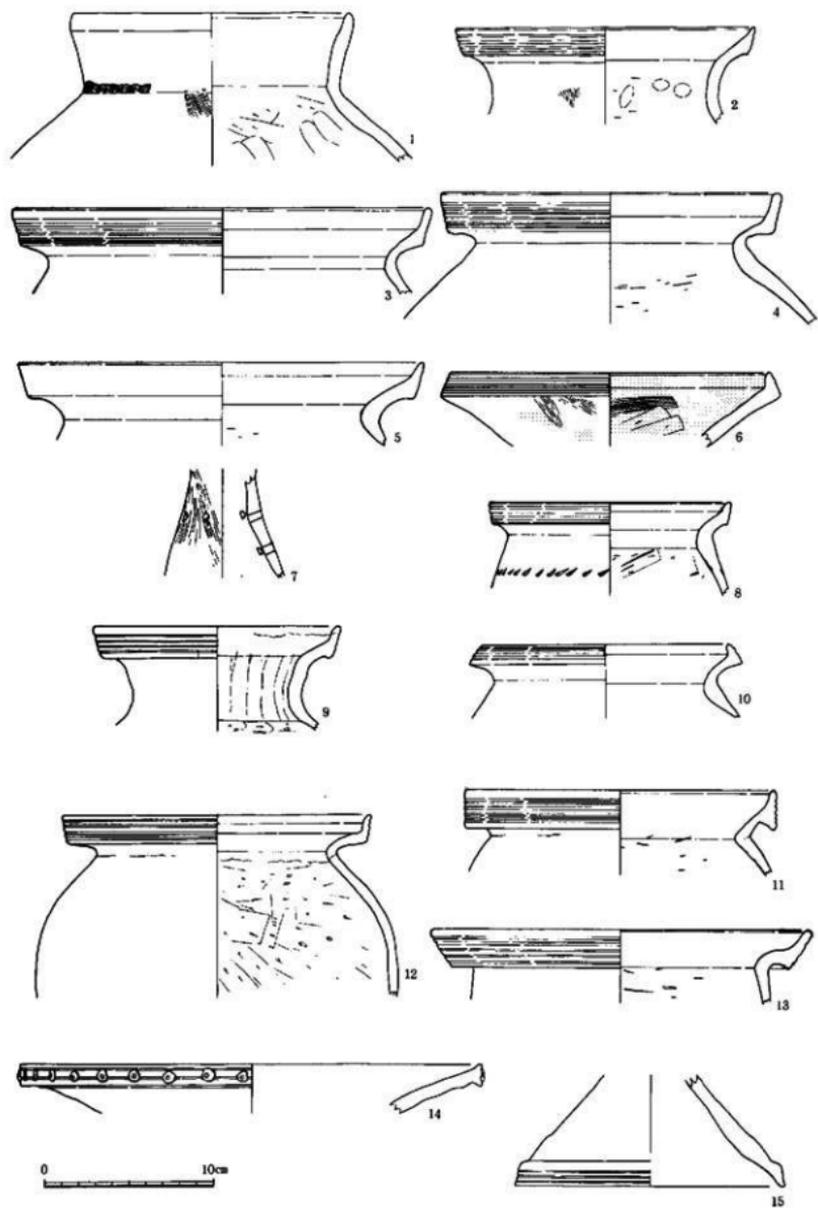
第14图 第1调查区出土土器〔3〕(S=1/3) (21~23 1号墓穴住居跡 24~29包含層)



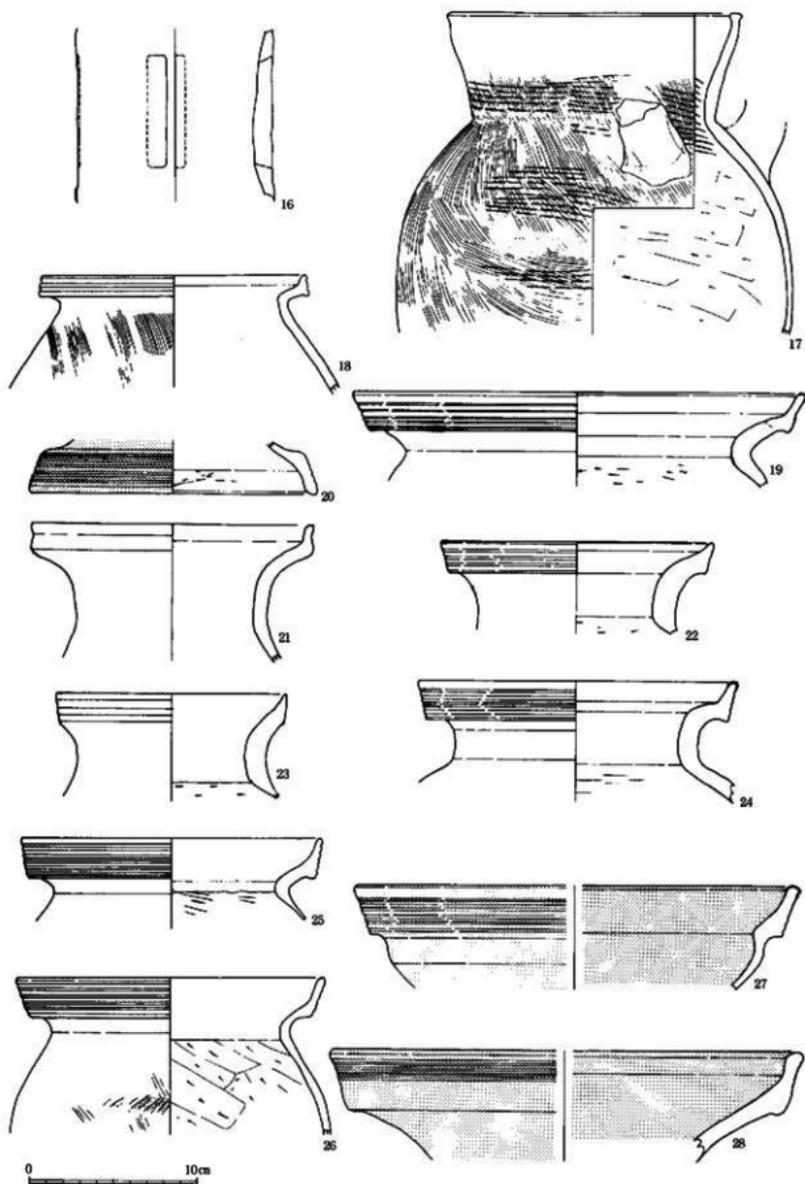
第15図 第1調査区出土土器〔4〕(S-1/3) (1~6 2号溝 7、8 6号溝 9~11 その他)



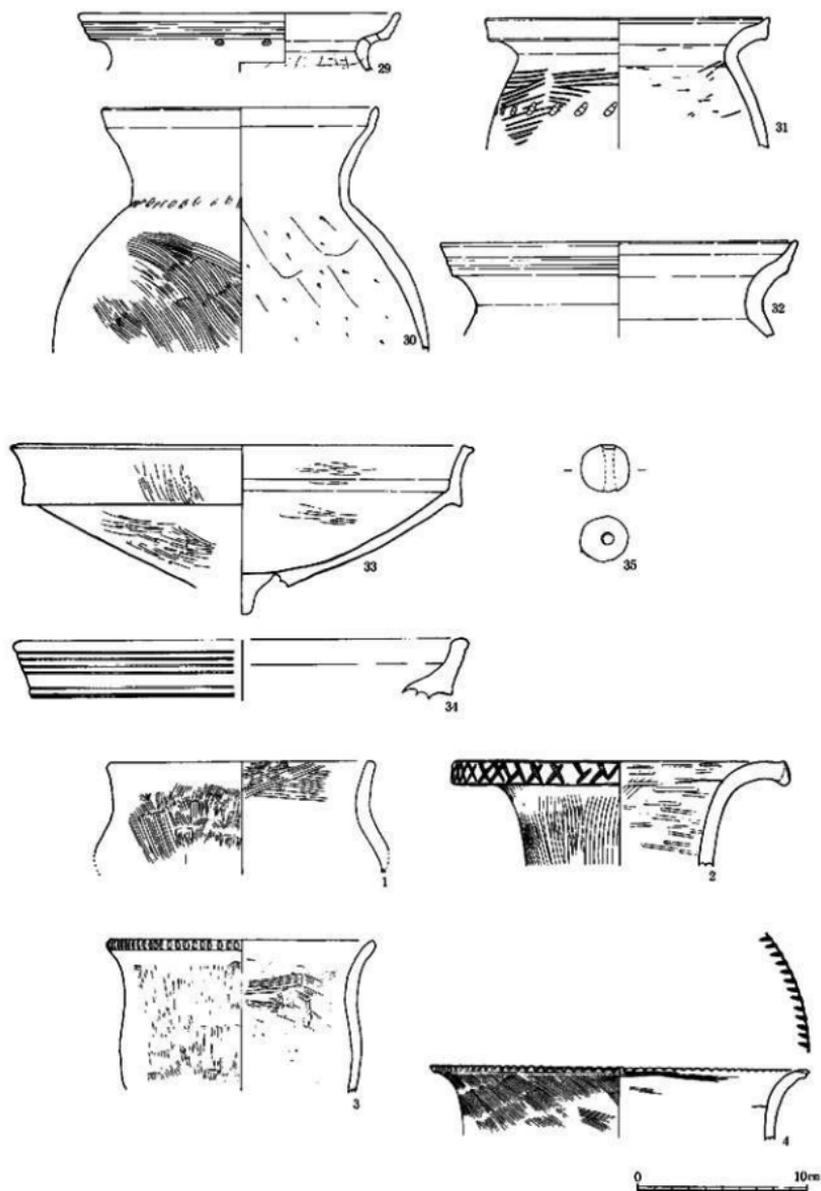
第16図 第2調査区出土土器 (S = 1 / 3) (1~12 1号土枕 13, 14 大甕 15~17 その他)



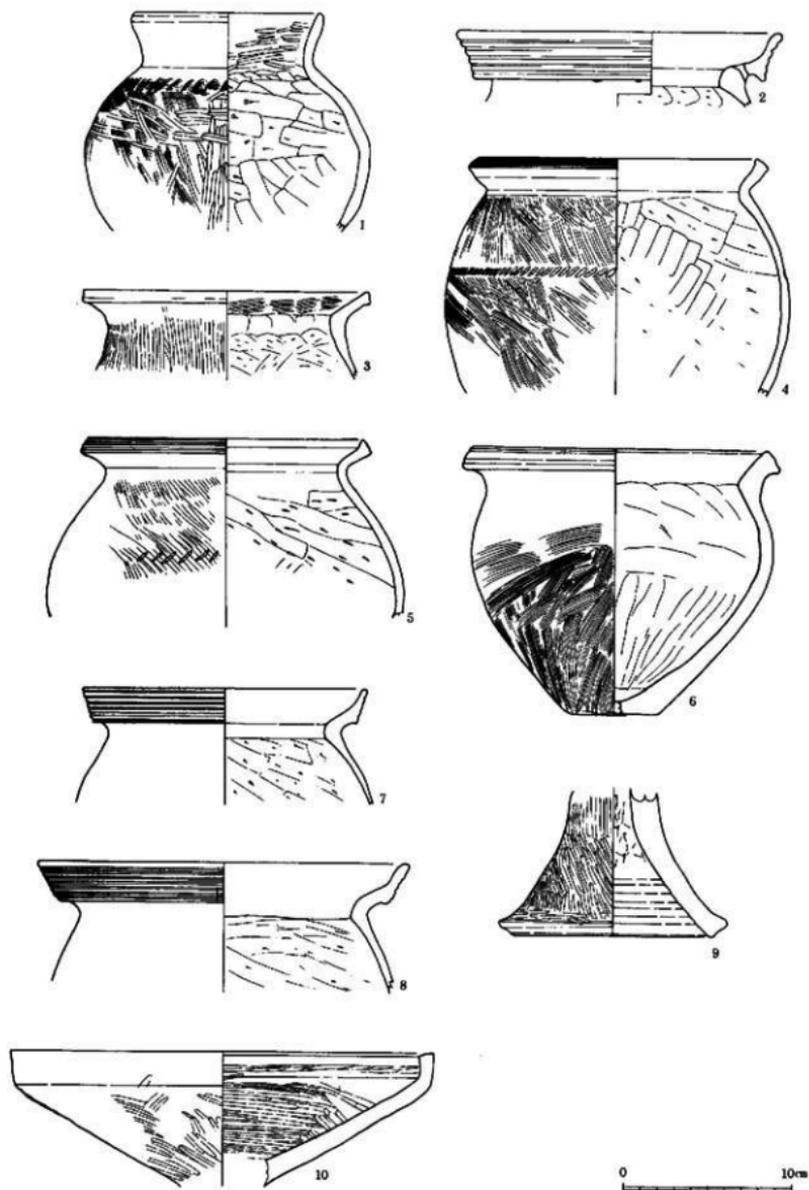
第17图 第3調査区出土土器〔1〕(S=1/3) (1~7 P-17 8 P-7 9~15 10号庫)



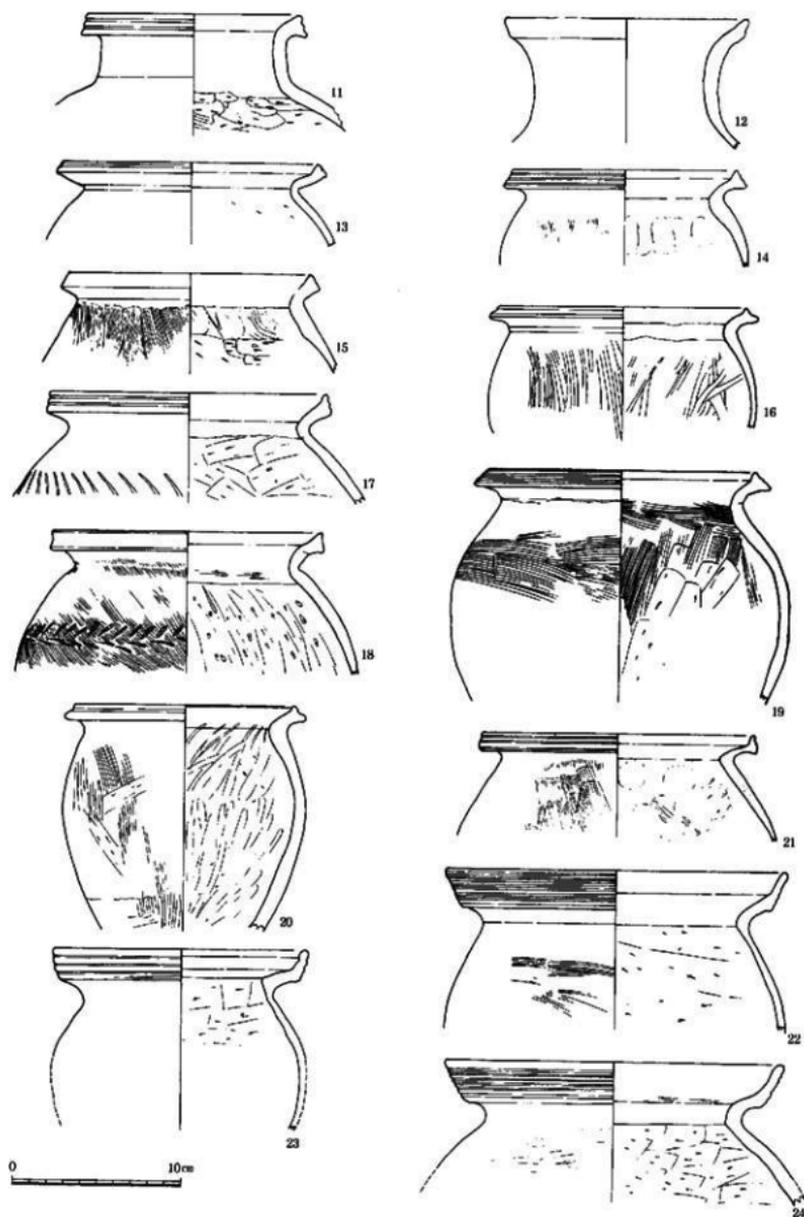
第18図 第3調査区出土土器〔2〕(S=1/3)
 (16 1、2号溝 17 1号溝 18~20 1号土坑 21 2号土坑 22~28 3号土坑)



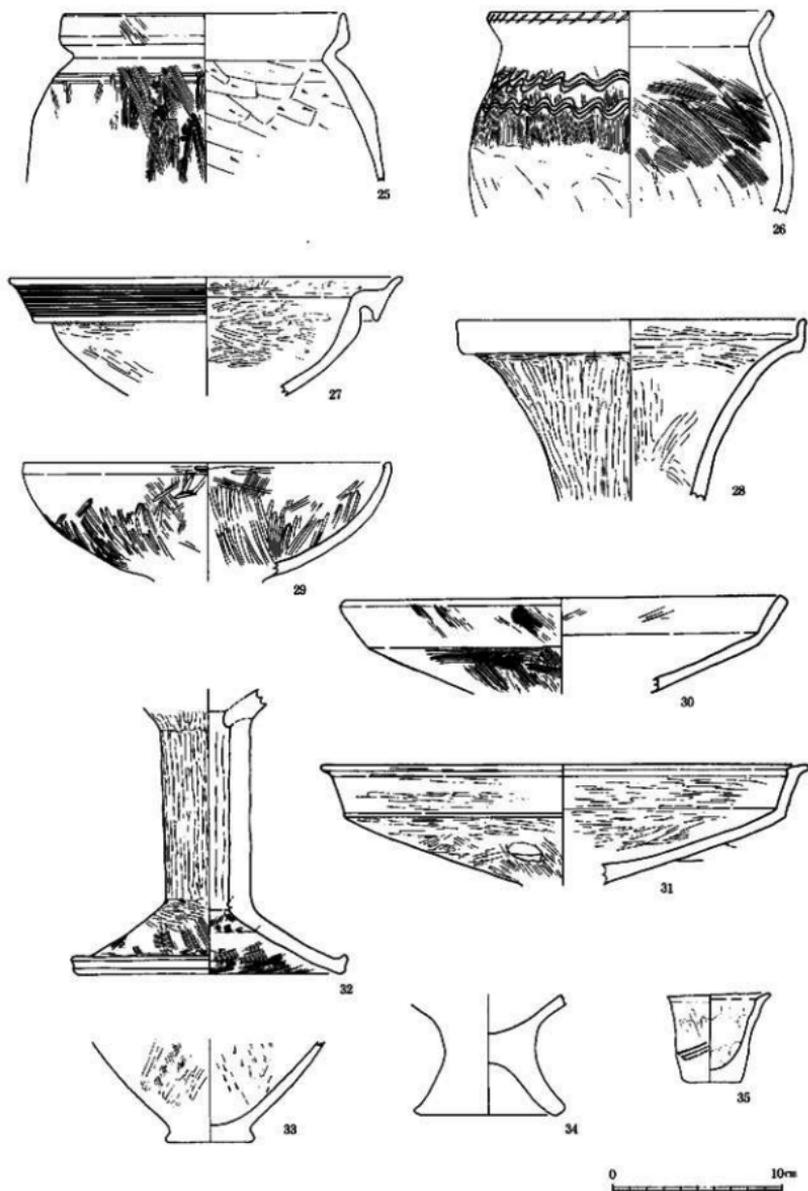
第19図 第3調査区出土土器〔3〕・第4調査区出土土器〔1〕(S=1/3)
 (29~32 4号土坑 33 5号土坑 34, 35 その他 1~4 中期旧河道)



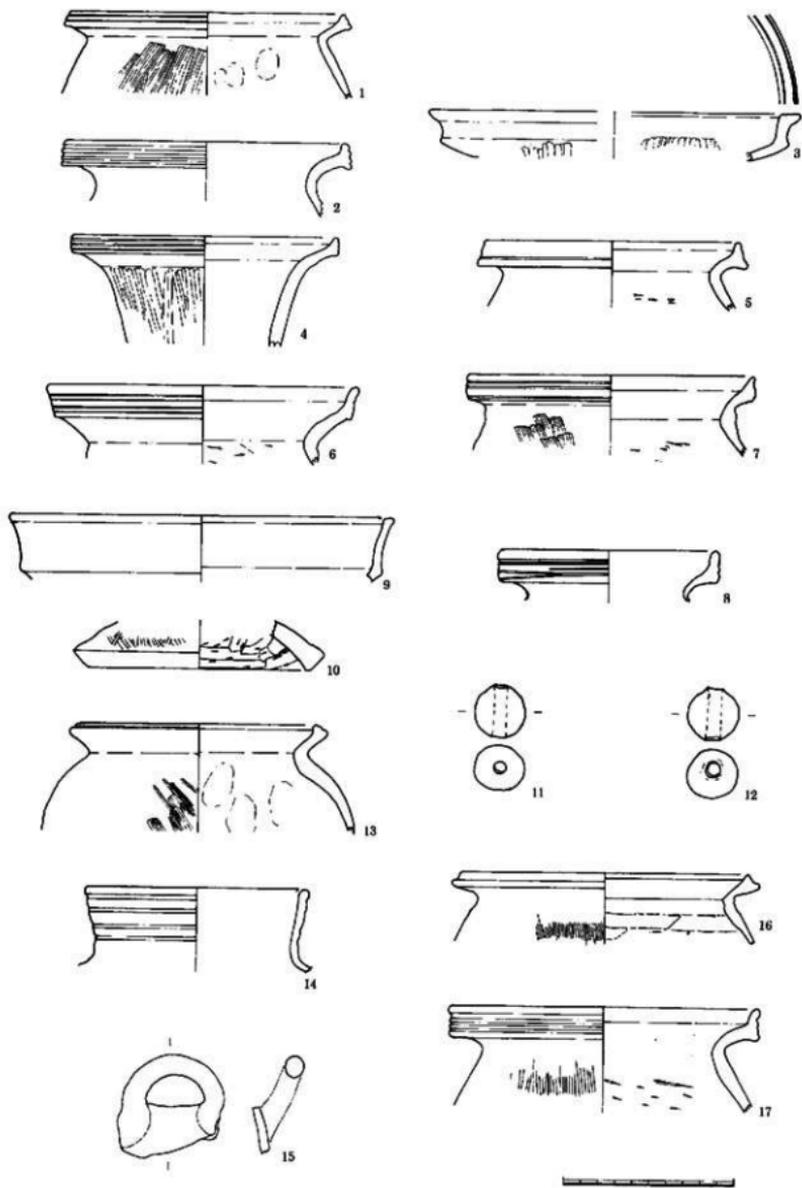
第20図 第4調査区出土土器〔2〕(S=1/3)(1~10号器)



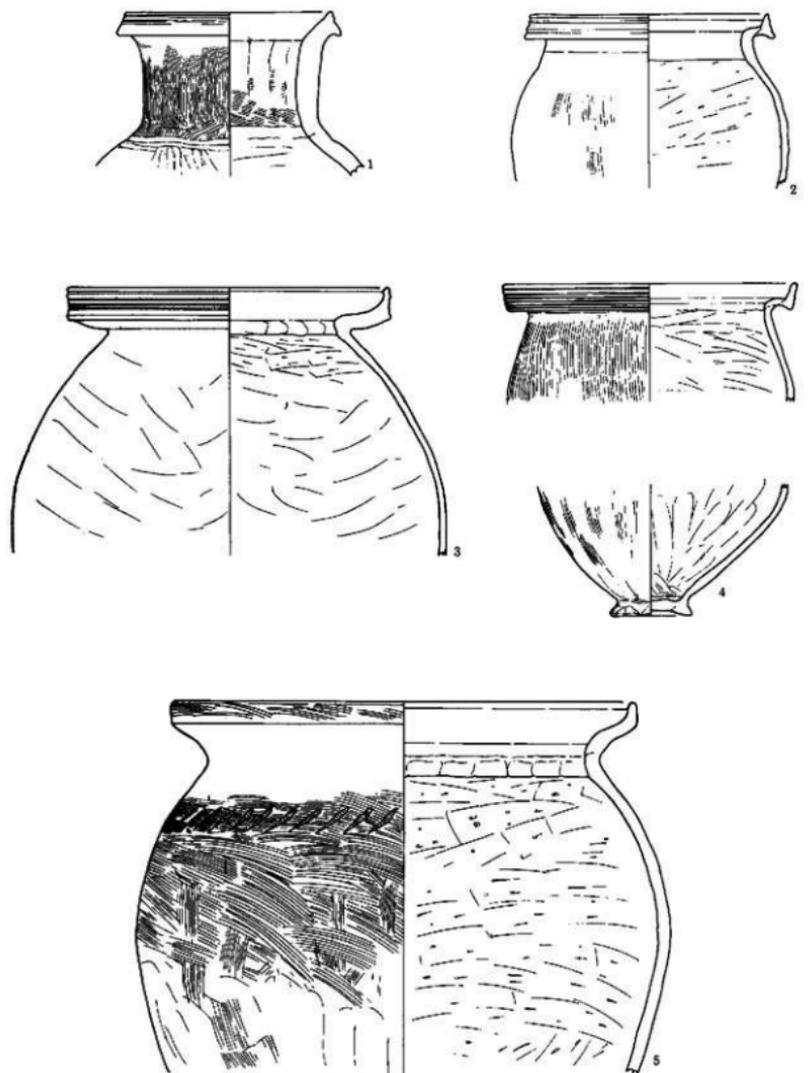
第21图 第4调查区出土土器〔3〕(S=1/3)(11~24 旧河道)



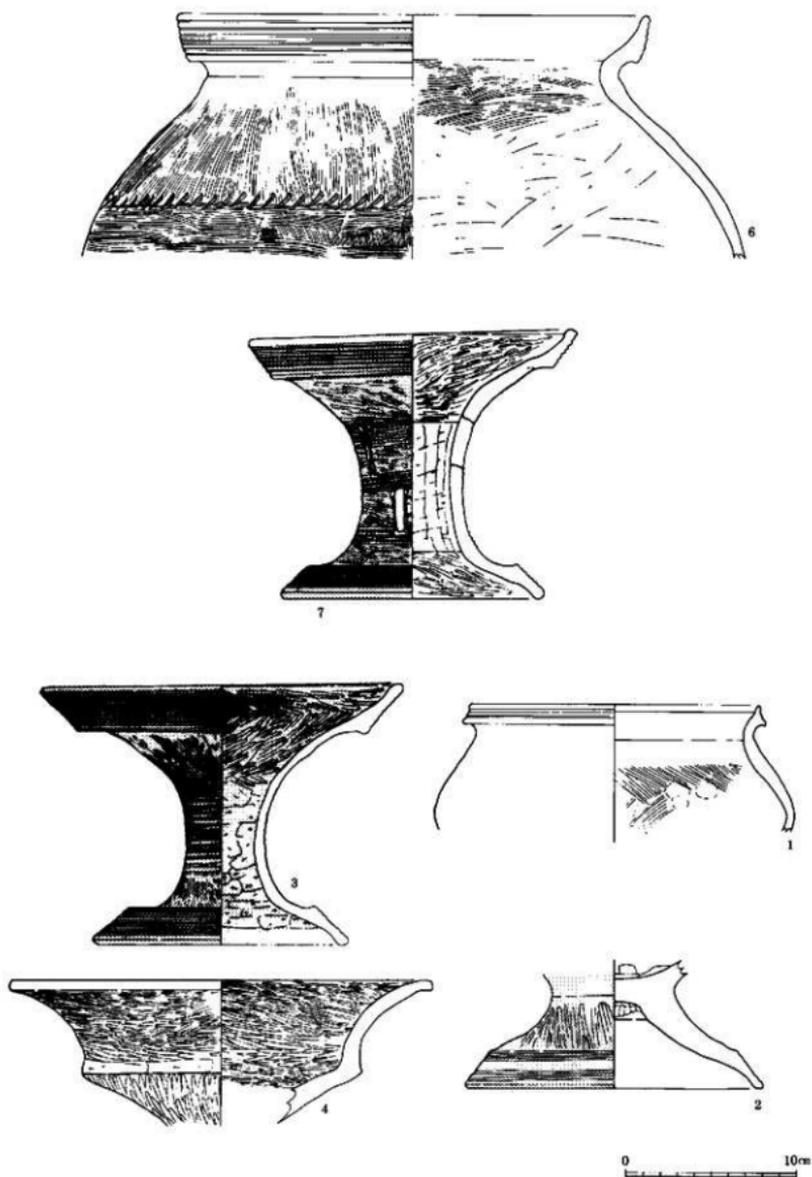
第22図 第4調査区出土土器〔4〕(S=1/3) (25~35 旧河道)



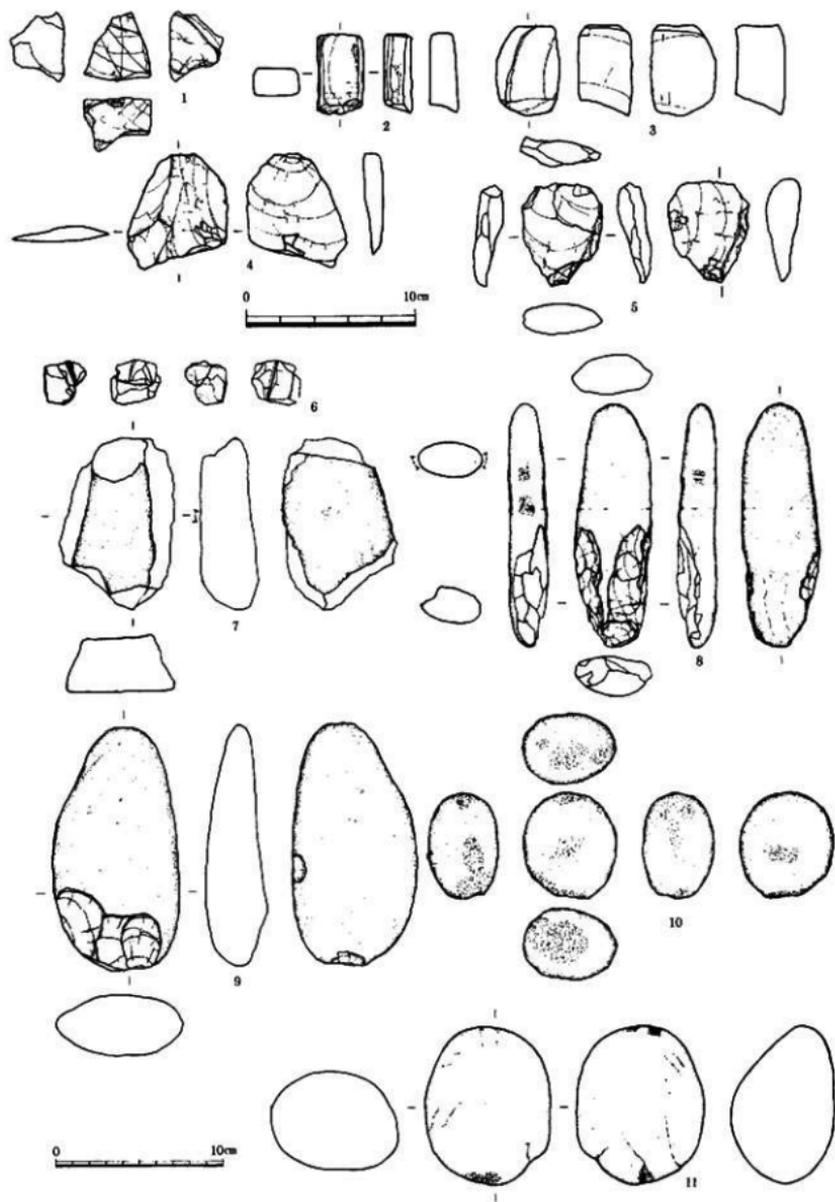
第23图 '94年度調査区出土土器 (S=1/3)
 (1~3 1号土坑 4~12 2号土坑 13 3号坑 14·15 P·9 16 P-13 17 P-15)



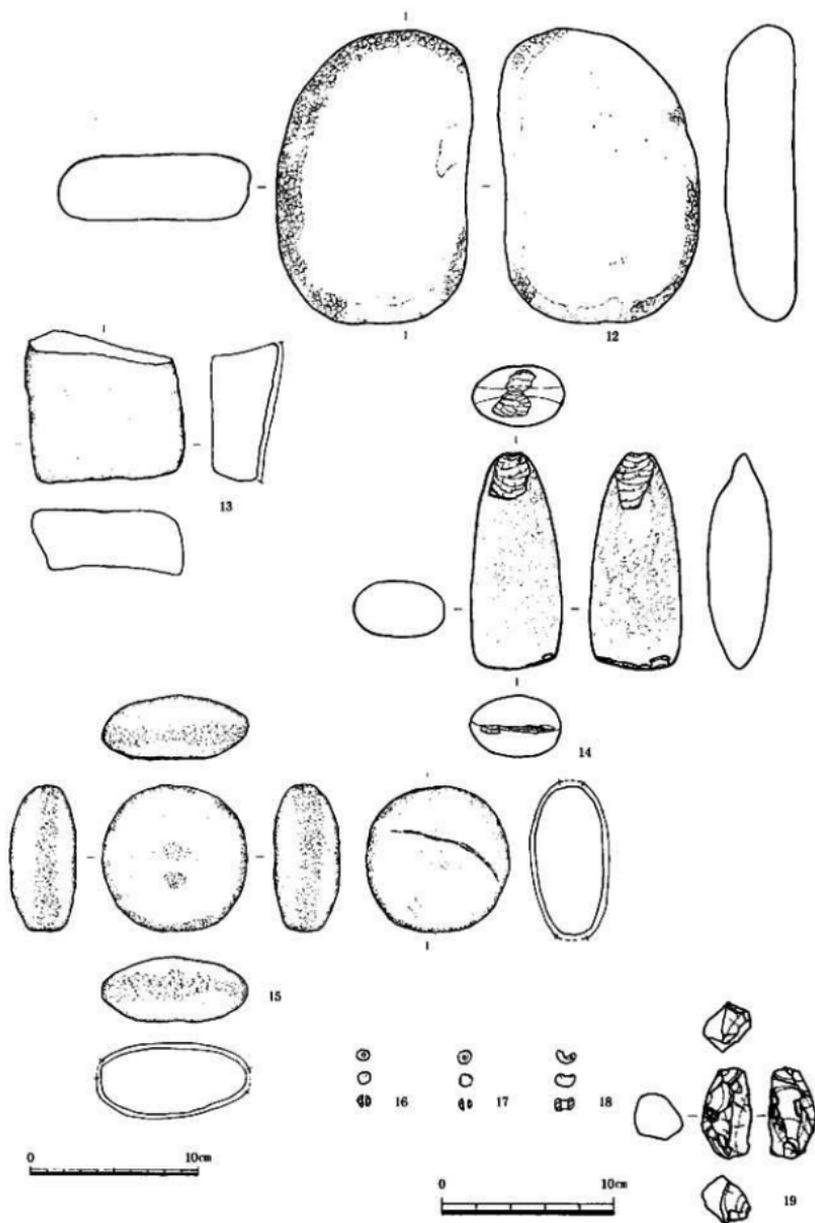
第24図 加賀市立ち会い調査出土土器〔1〕(S = 1/3)



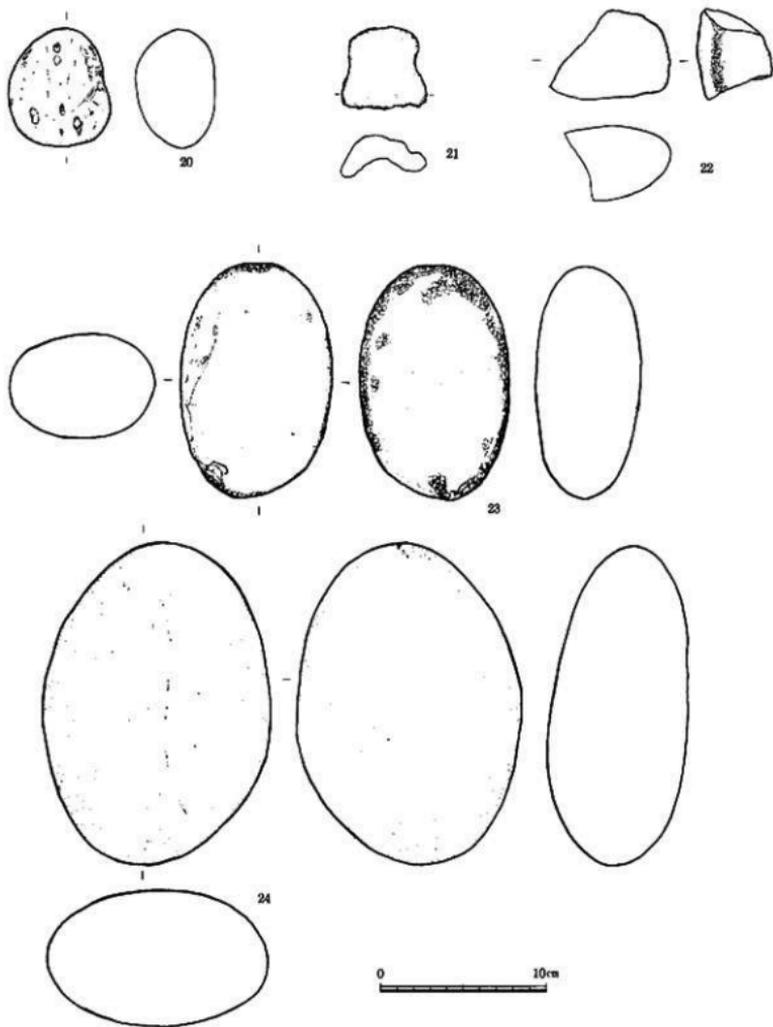
第25図 加賀市立ち会い調査〔2〕・揚水機場立ち会い調査出土土器 (S=1/3)
 (6, 7 加賀市立ち会い調査 1~4 揚水機場立ち会い調査)



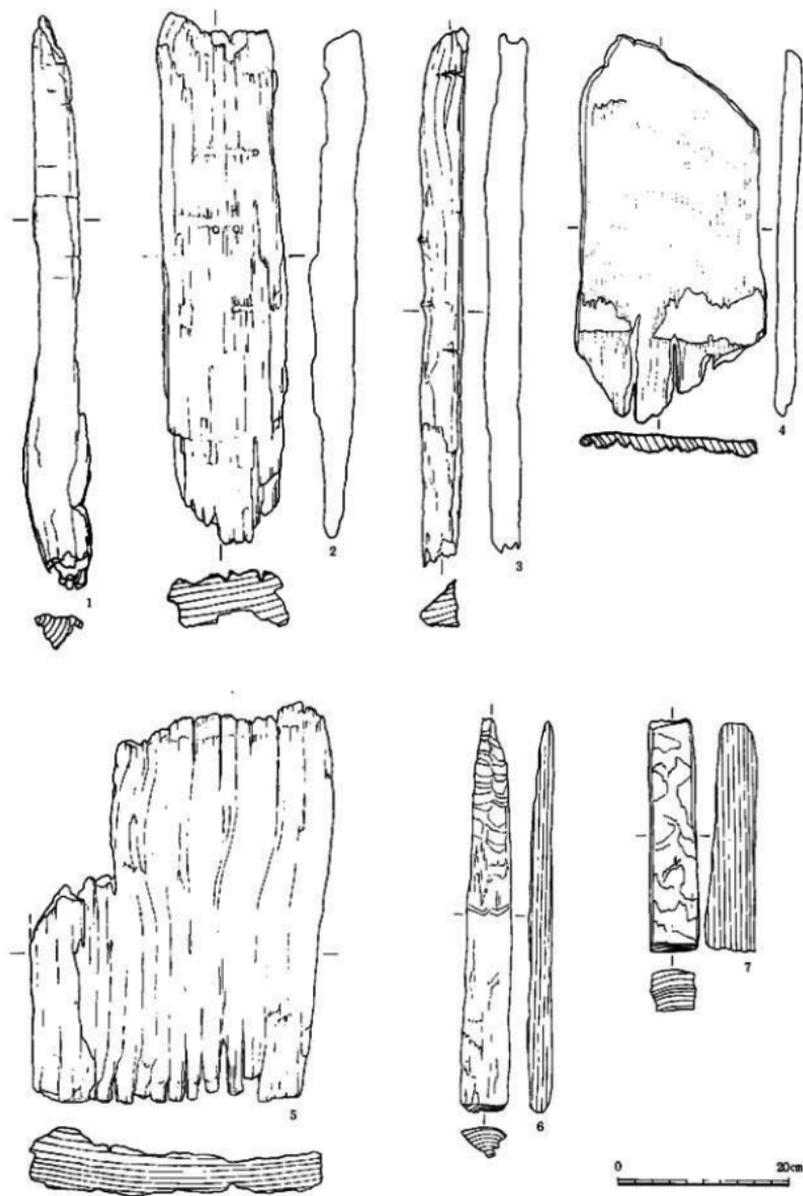
第26图 '95年度調査区出土石器 [1] (1~6 S=2/3) (7~11 S=1/3)
(1~11 第1調査区)



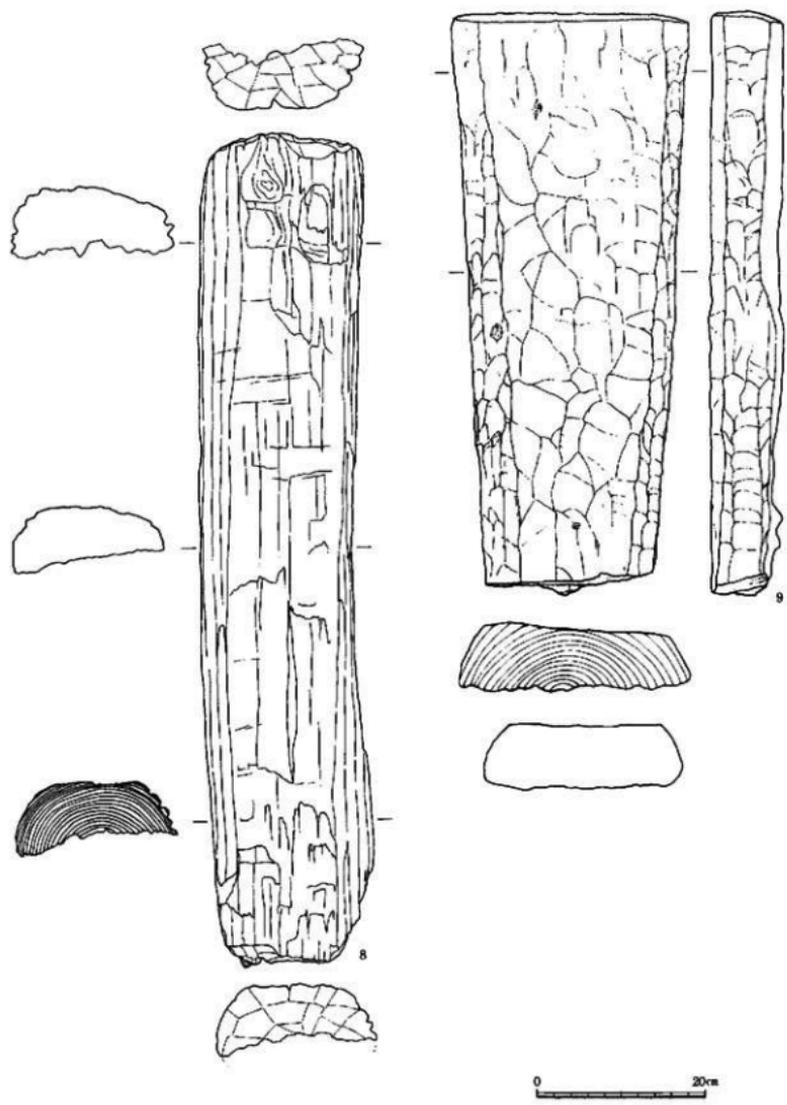
第27图 '95年度調査区出土石器〔2〕(12~15 S = 1/3) (16~19 S = 2/3)
 (12 第1調査区 13~19 第3調査区)



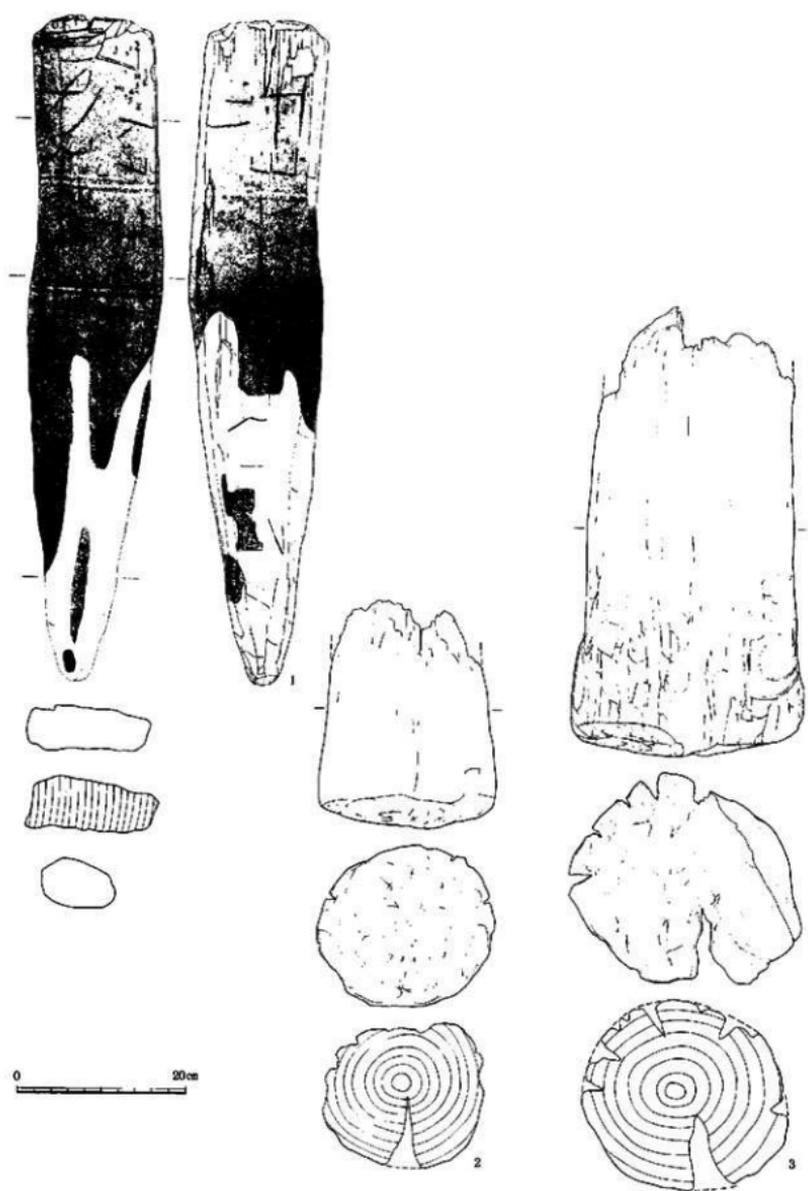
第28図 '95年度調査区出土石器〔3〕(S=1/3)(20~24 第4調査区)



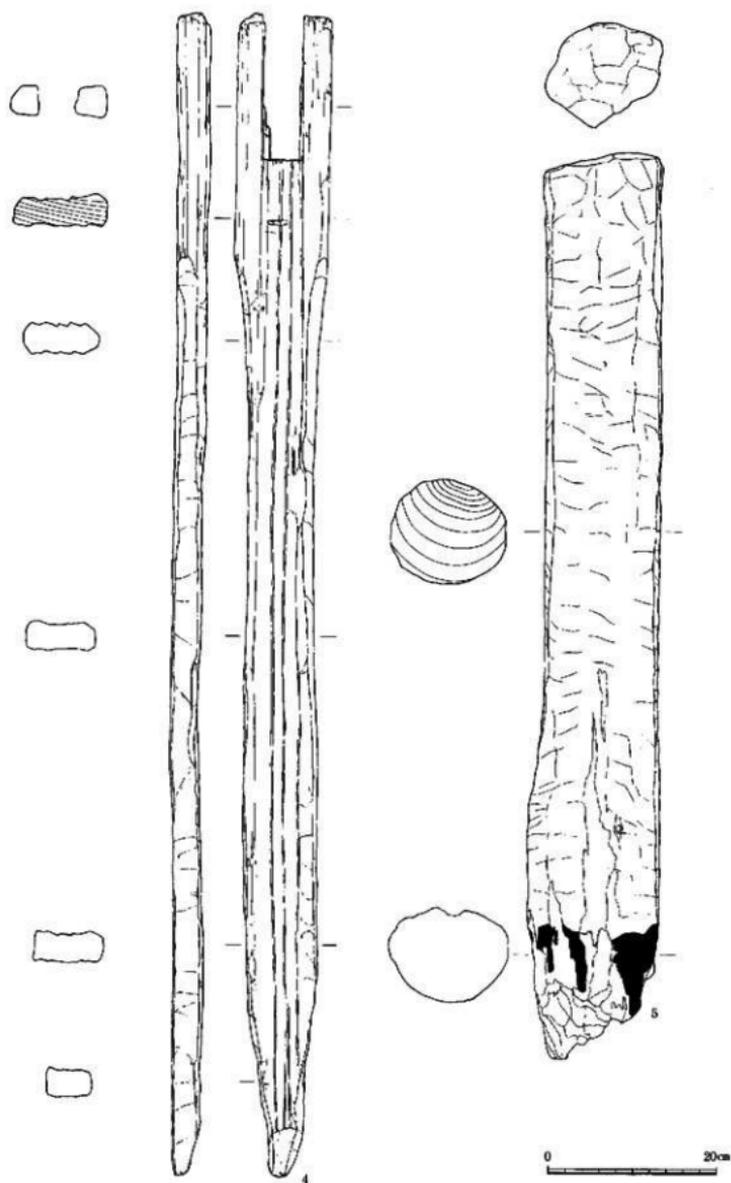
第29図 第3調査区P-10~12磁板〔1〕(S=1/6)



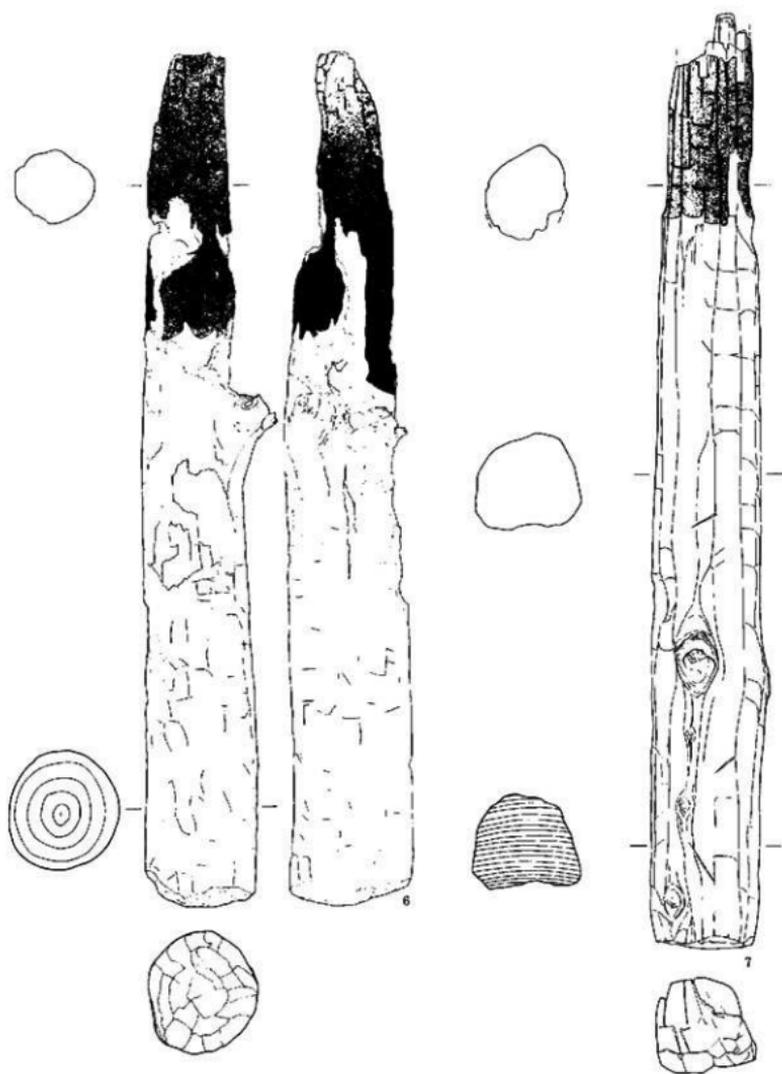
第30图 第3调查区P-10~12磁板〔2〕(S=1/6)



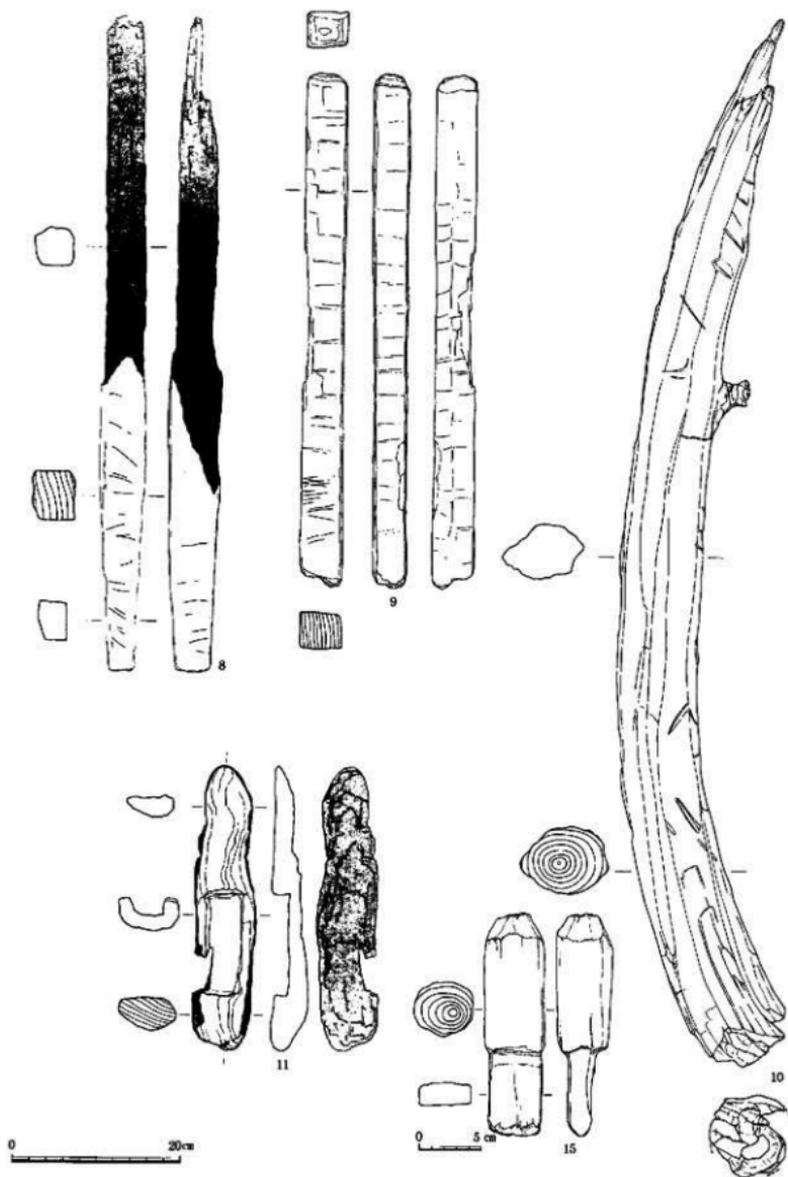
第31図 第4調査区出土木製品〔1〕(S=1/6) (1 後期旧河道 2 P-1 3 P-2)



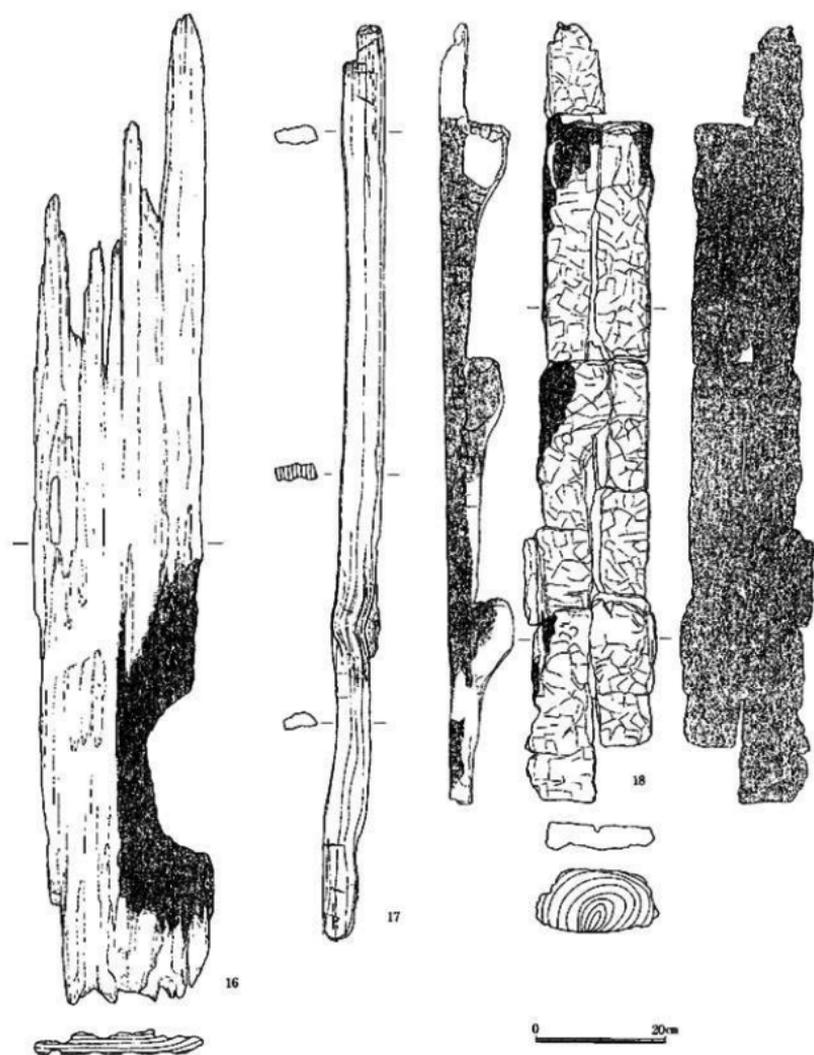
第32図 第4 調査区出土木製品〔2〕(S=1/6) (4、5 旧河道)



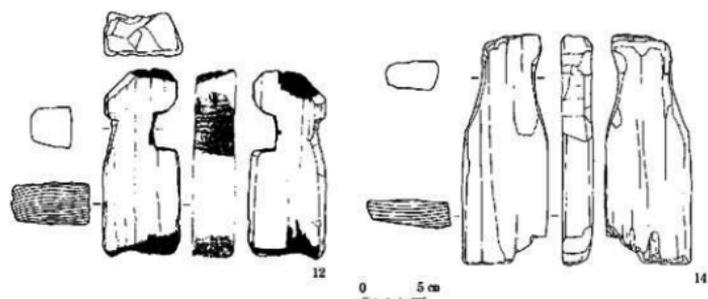
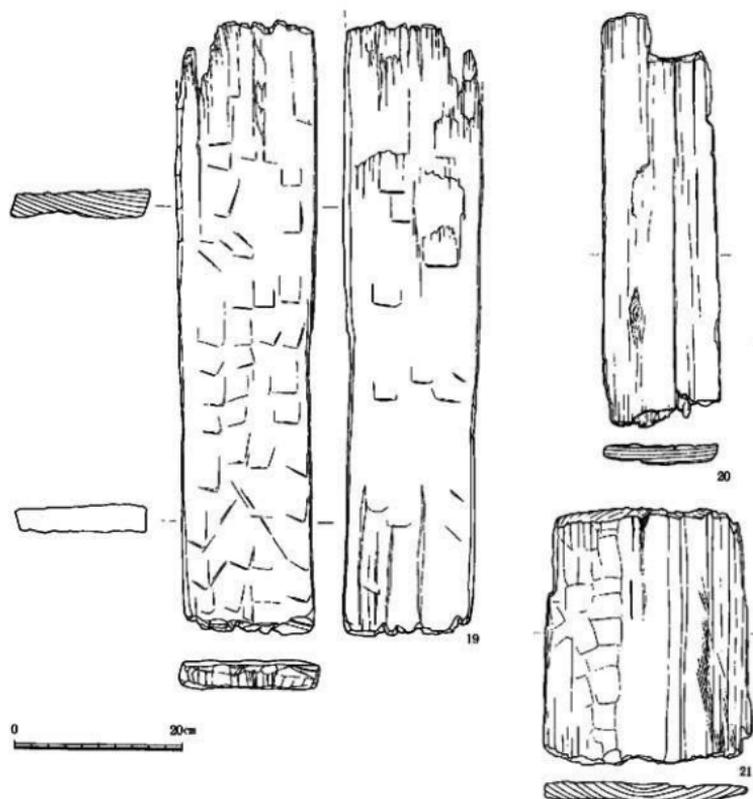
第33图 第4調査区出土木製品〔3〕(S=1/6)(6、7 後期旧河道)



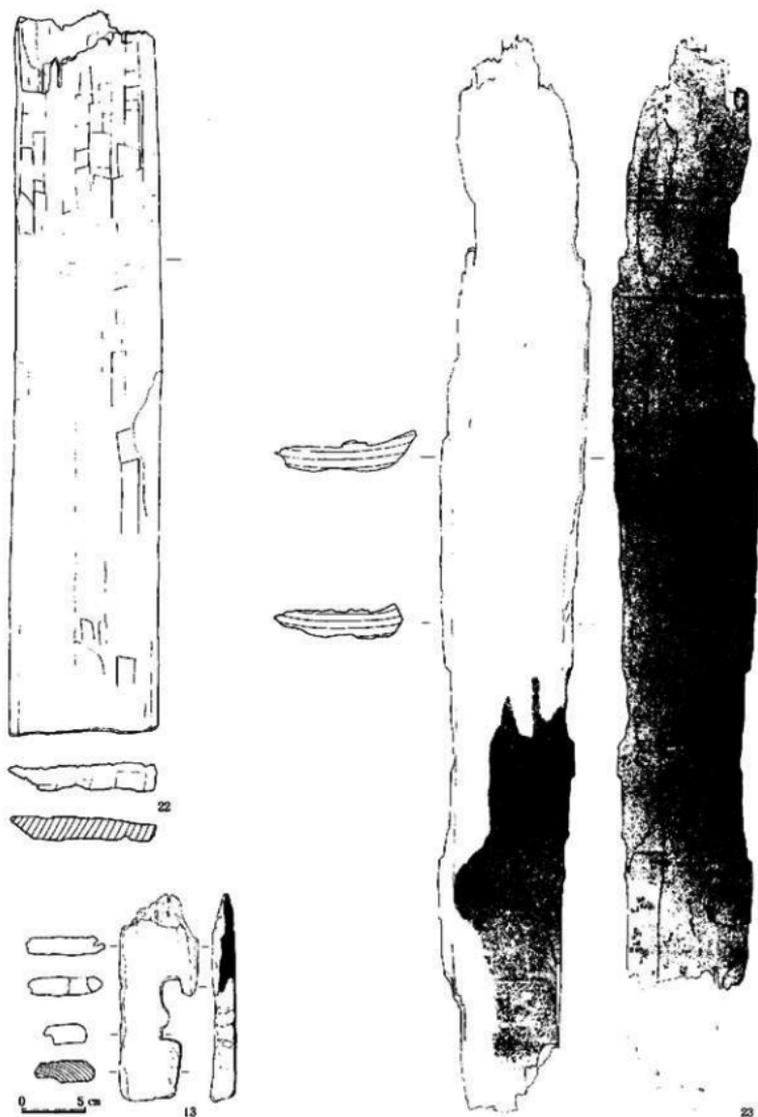
第34图 第4調査区出土木製品〔4〕(8~11 S=1/6 15 S=1/4)
 (15 1号溝 8、9、11 後期旧河道 10 中期旧河道)



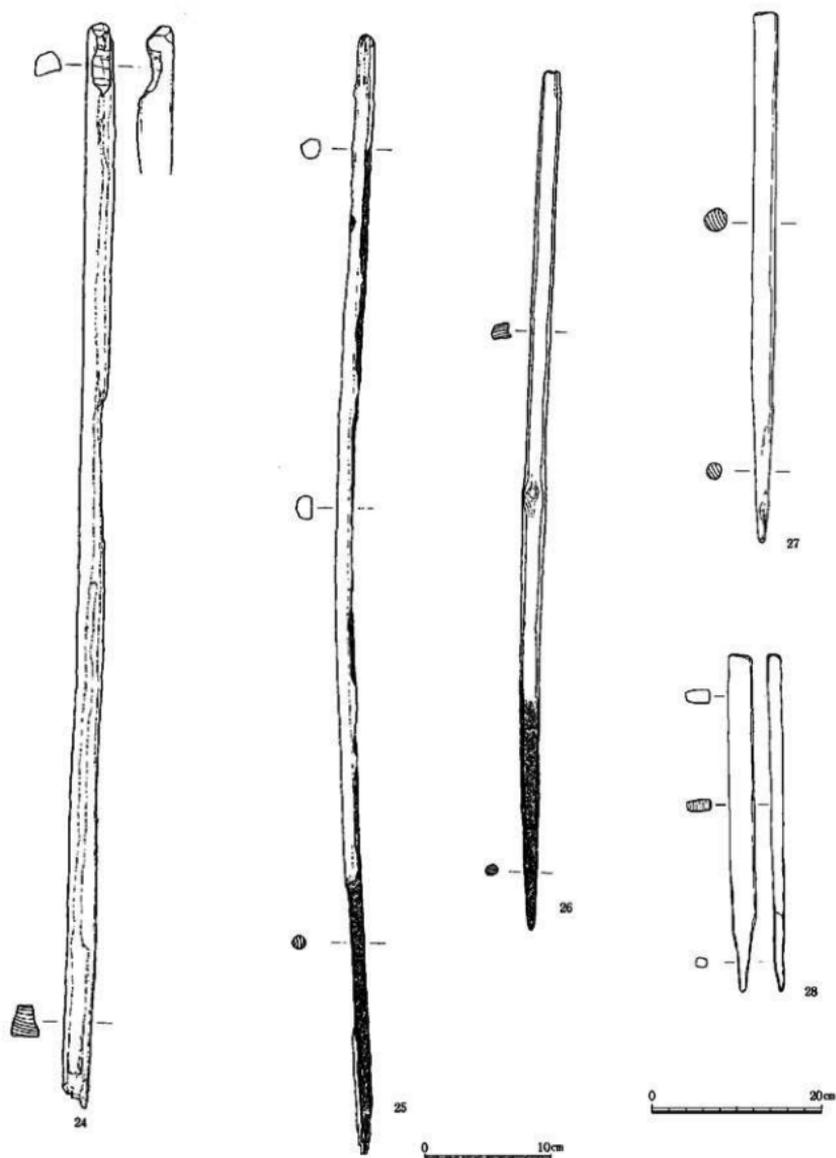
第35図 第4調査区出土木製品〔5〕(S-1/8) (17 後期旧河道 16, 18 1号溝)



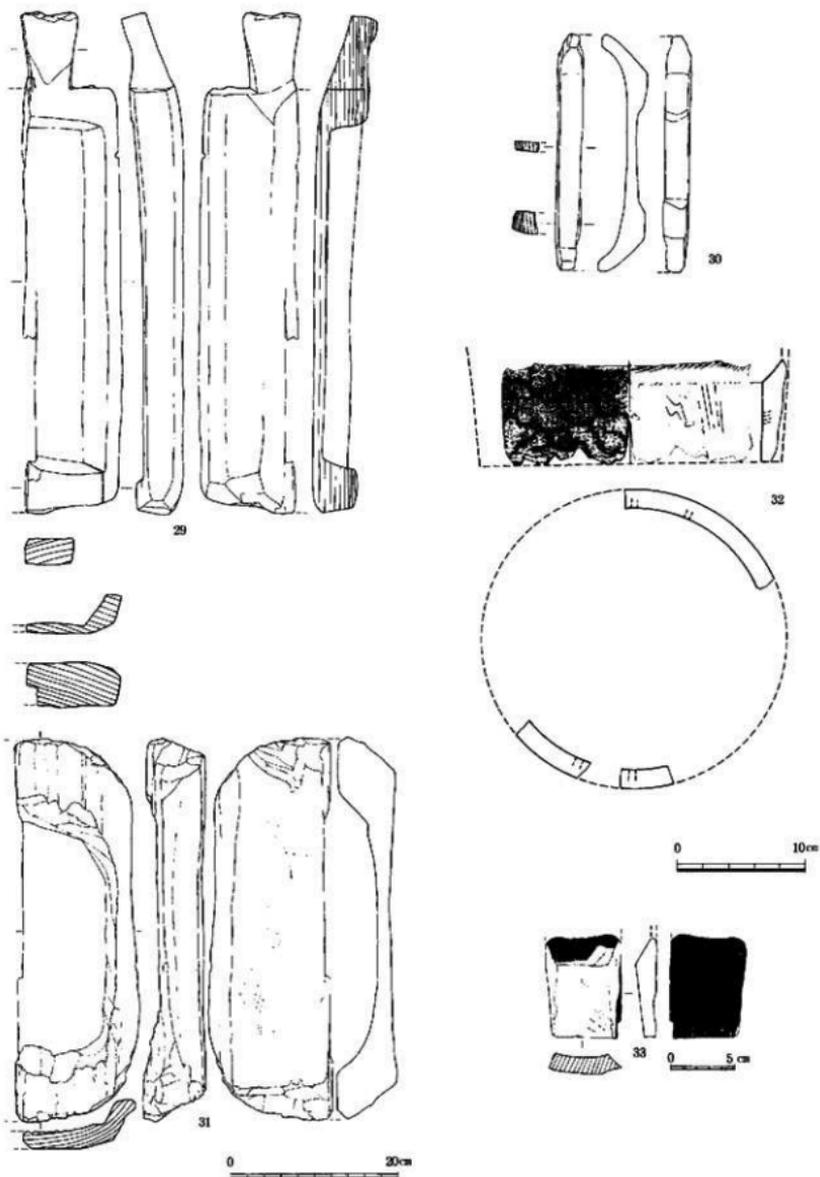
第36図 第4調査区出土木製品〔6〕(19~21 S=1/6 12,13 S=1/4)
 (12,14,20 後期旧河道 19 1号溝)



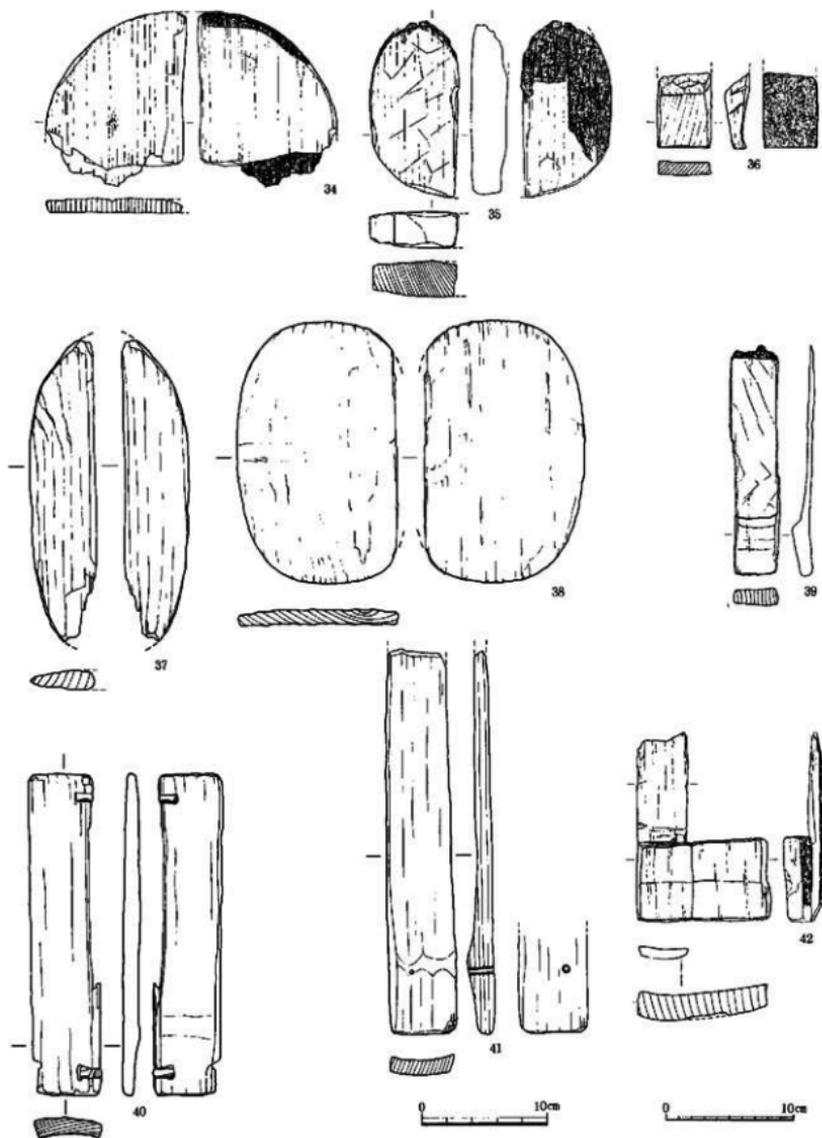
第37图 第4調査区出土木製品〔7〕(22、23 S=1/6 13 S=1/4)
(13、22、23 後期旧河原)



第38図 第4調査区出土木製品〔8〕(24~26 S=1/8 27,28 S=1/6)
 (24, 26, 28 後期旧河道 27 1号溝 25 中期旧河道)

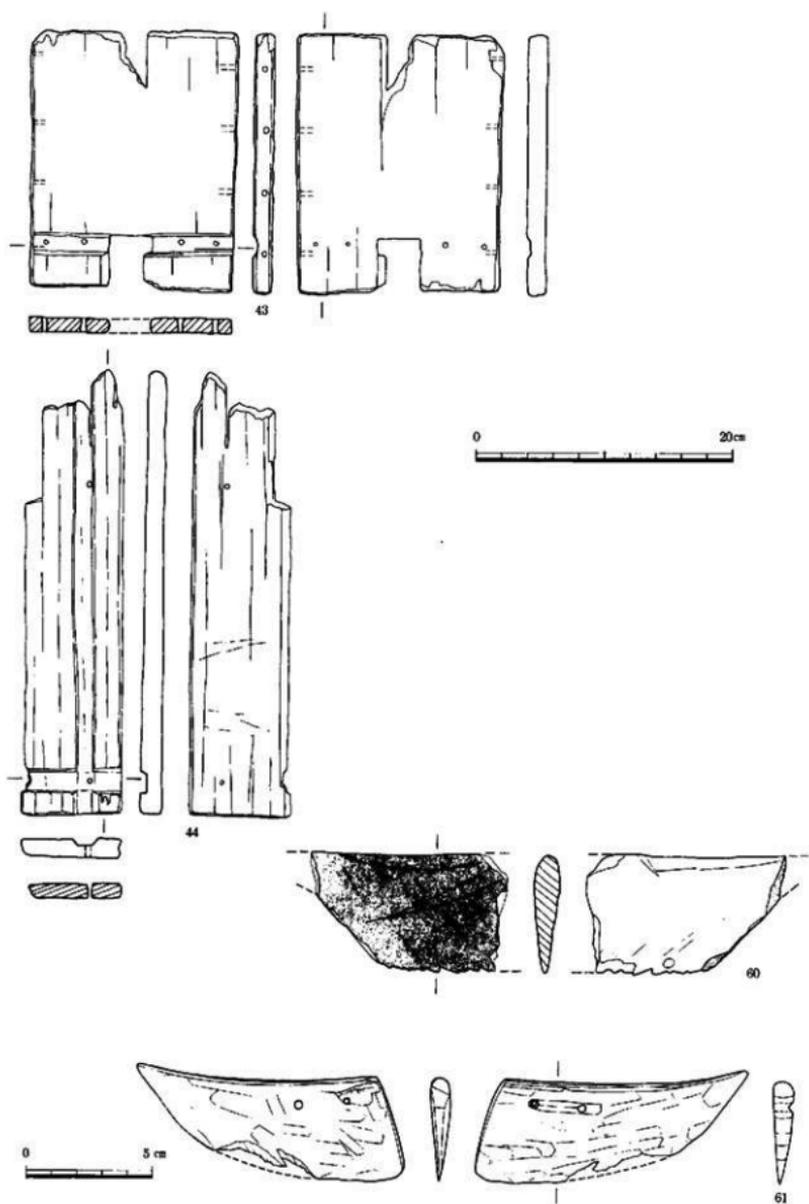


第39図 第4調査区出土木製品〔9〕(29~31 S = 1/6 32, 33 S = 1/4)
 (29, 31~33 1号溝 30 後期の河溝)

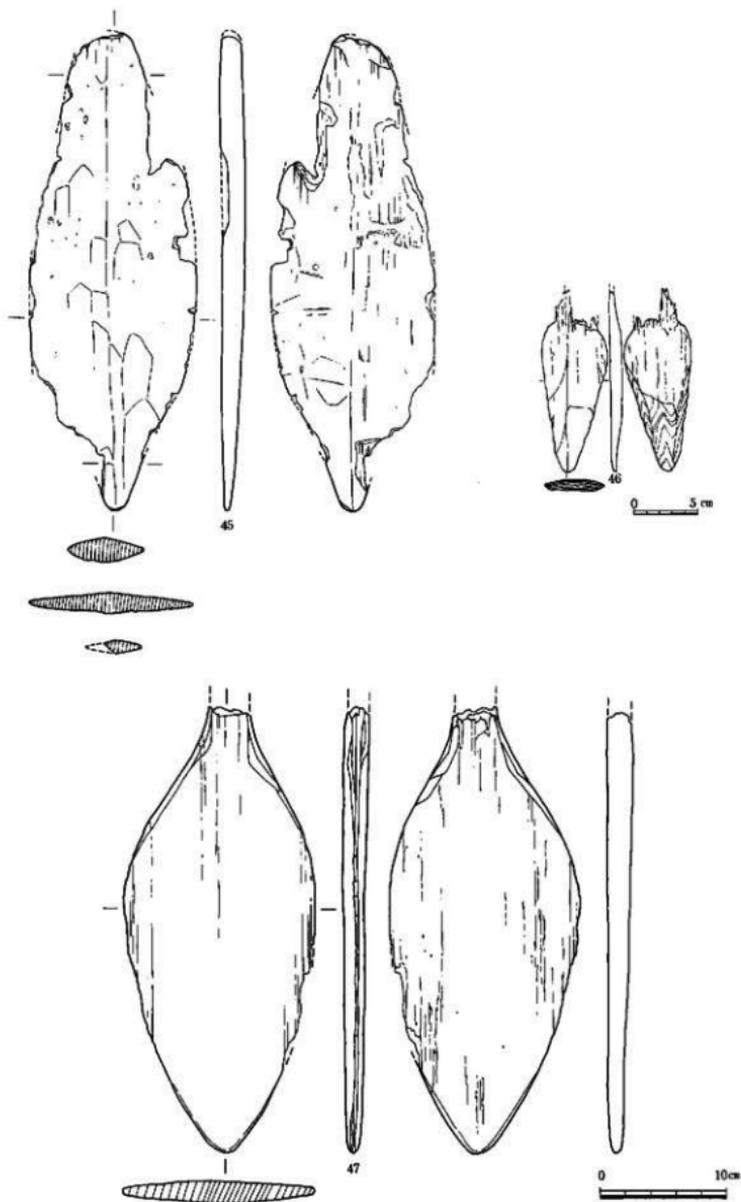


第40図 第4調査区出土木製品 [10] (S = 1/4)

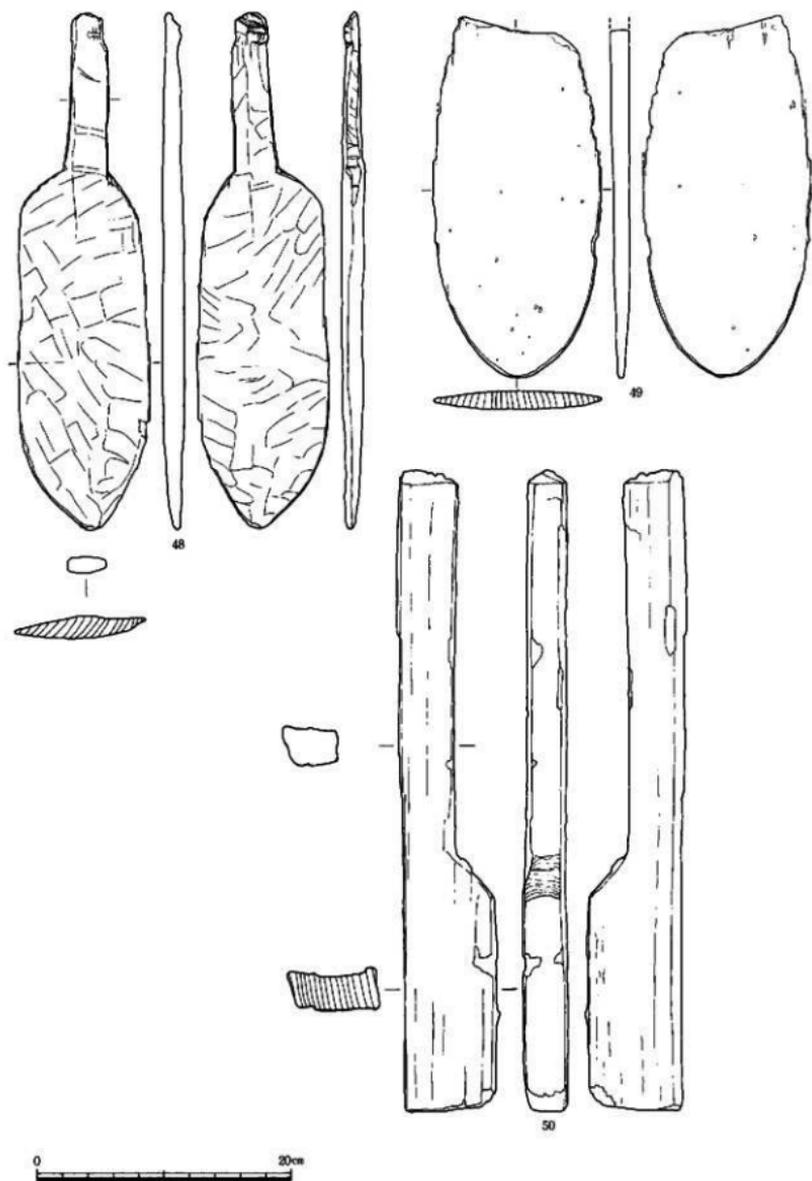
(35年度調査区1号溝 34、36~42 後期旧河道)



第41図 第4調査区出土木製品 [11] (43, 44 S = 1/4 60, 61 S = 1/2)
 (すべて後期旧河湾)

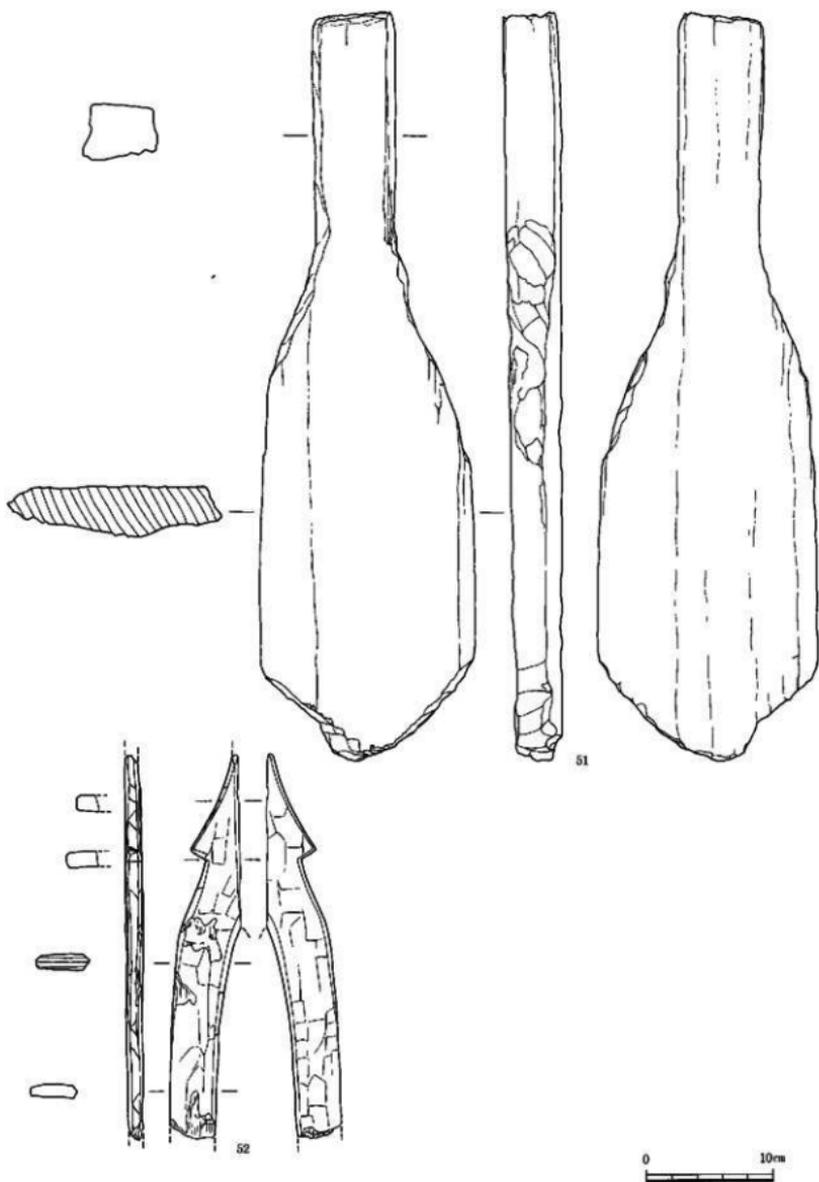


第42図 第4調査区出土木製品 [12] (S = 1 / 4)
 (45 1号器 46, 47 後期旧河道)

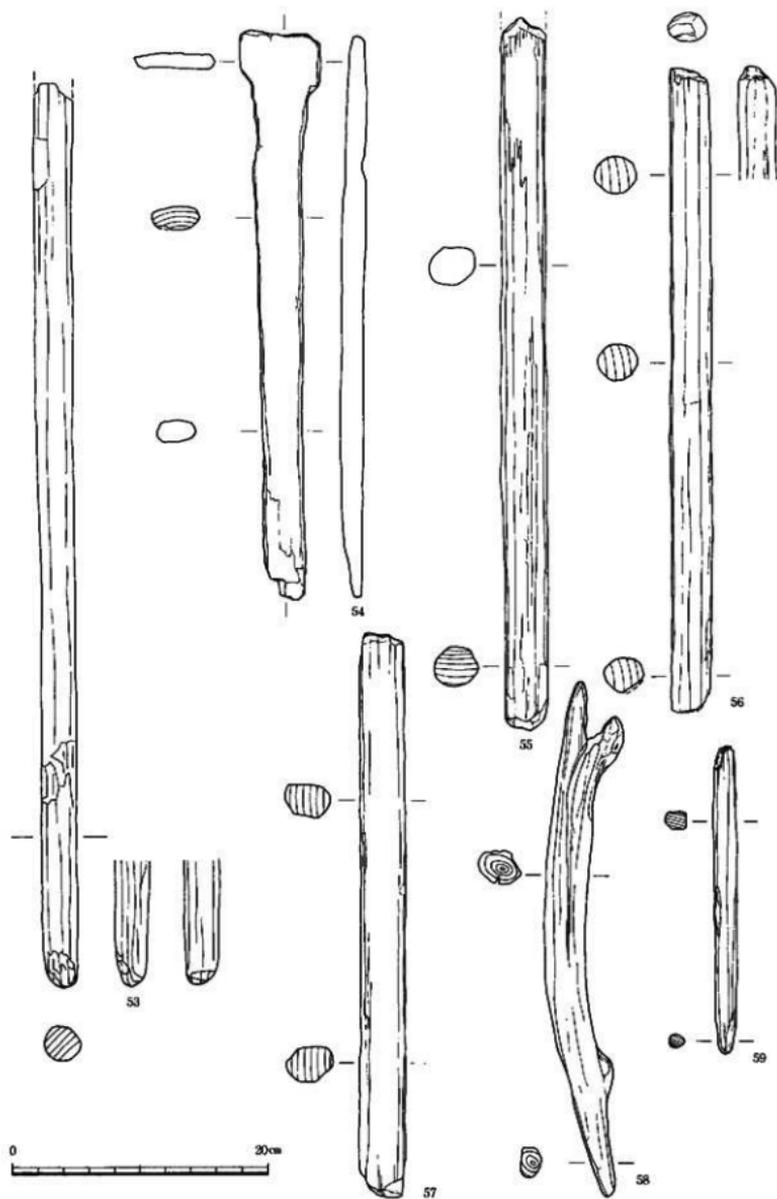


第43図 第4調査区出土木製品 [13] (S = 1/4)

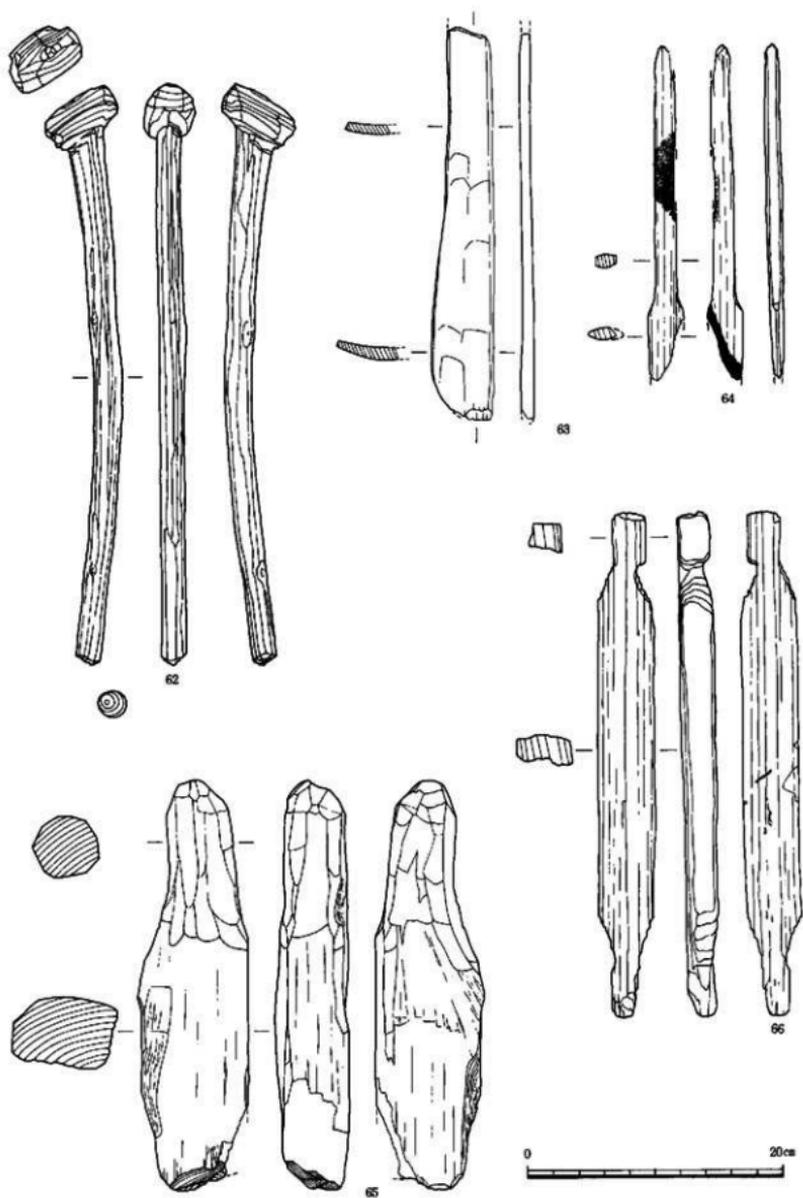
(48、49 1号群 50 後期旧河道)



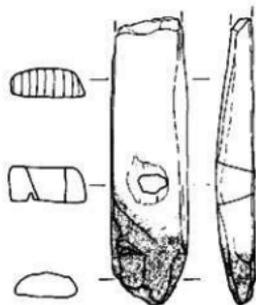
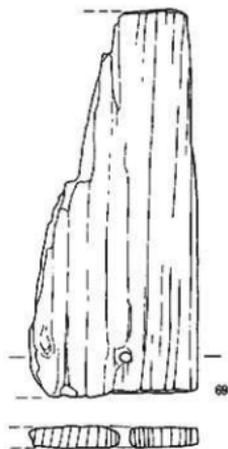
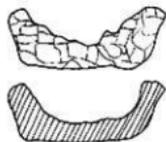
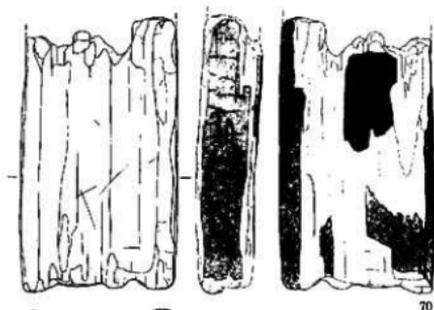
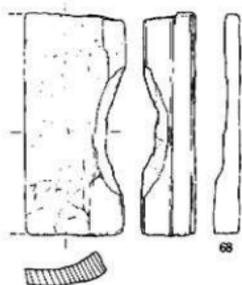
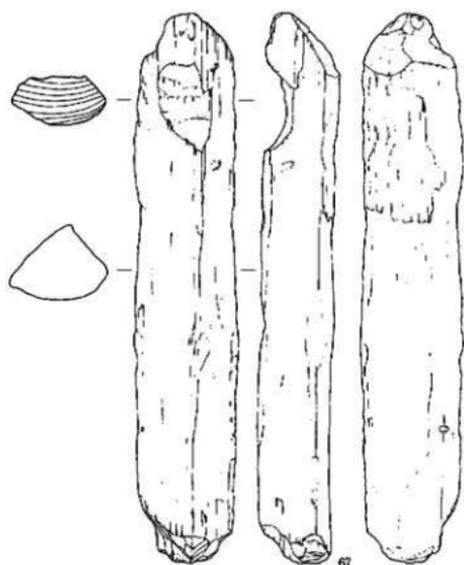
第44図 第4調査区出土木製品〔14〕(S=1/4)
 (51 1号標 52 後期旧河渡)



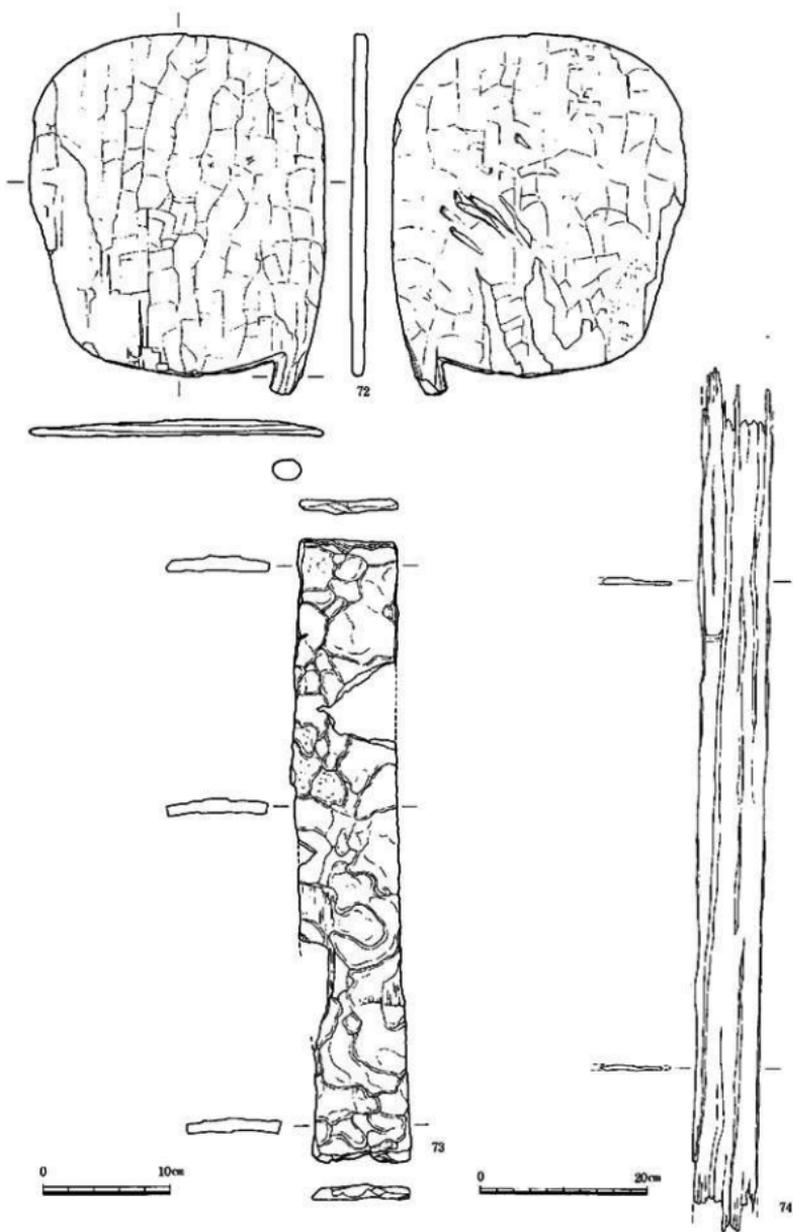
第45図 第4調査区出土木製品 [15] (S = 1/4)
 (すべて後期旧河遺)



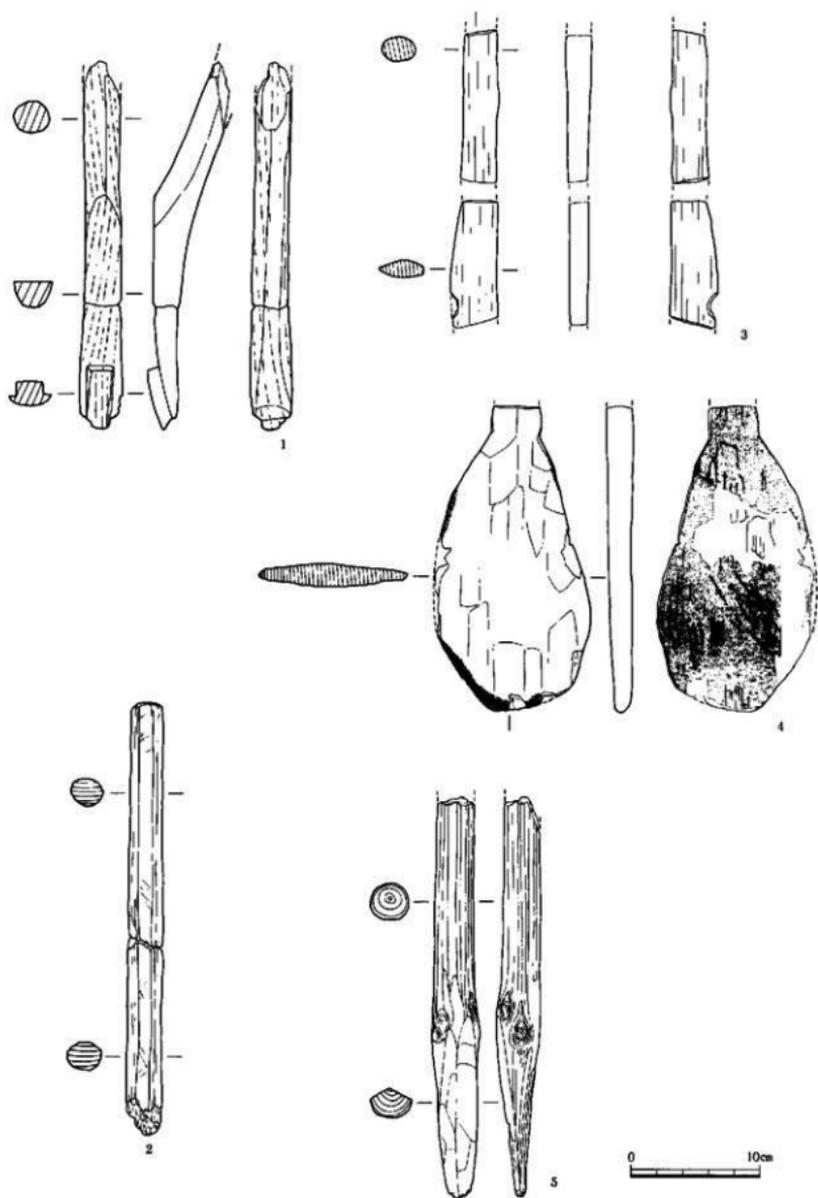
第46图 第4调查区出土木製品 [16] (S = 1/4)
 (62~65 後期[河遺 66 1号溝])



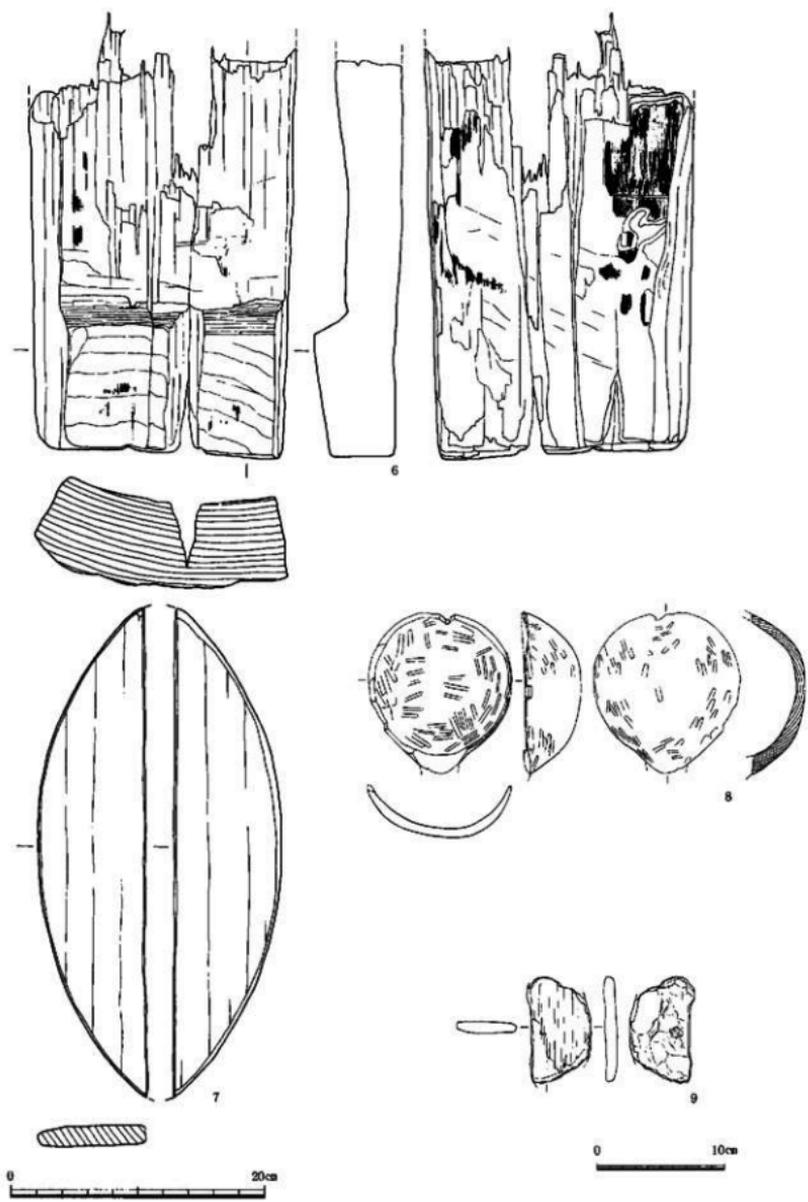
第47图 第4調査区出土木製品〔17〕(69、71 S=1/2 67、68、70 S=1/6)
(69、71 後期旧河道 67、68、70 1号溝)



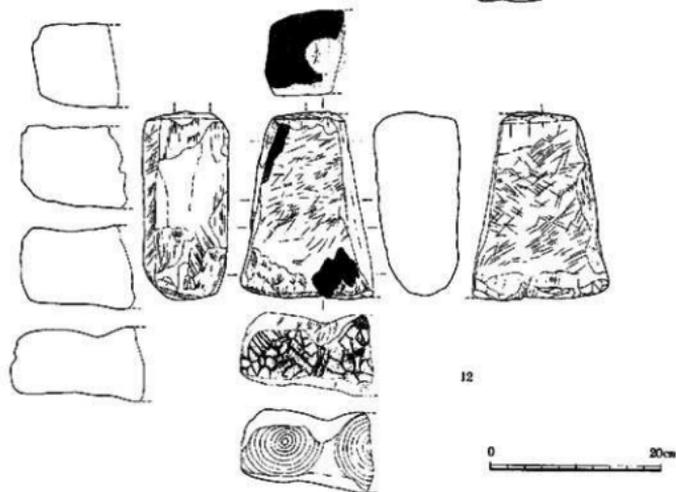
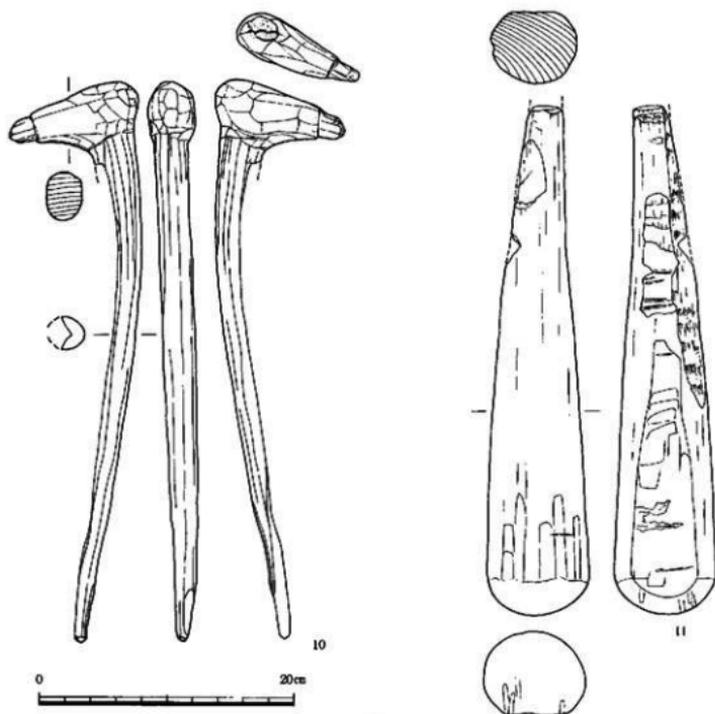
第48図 第4調査区出土木製品〔18〕(72、73 S=1/4 74 S=1/6)
(72~74 後期旧河道)



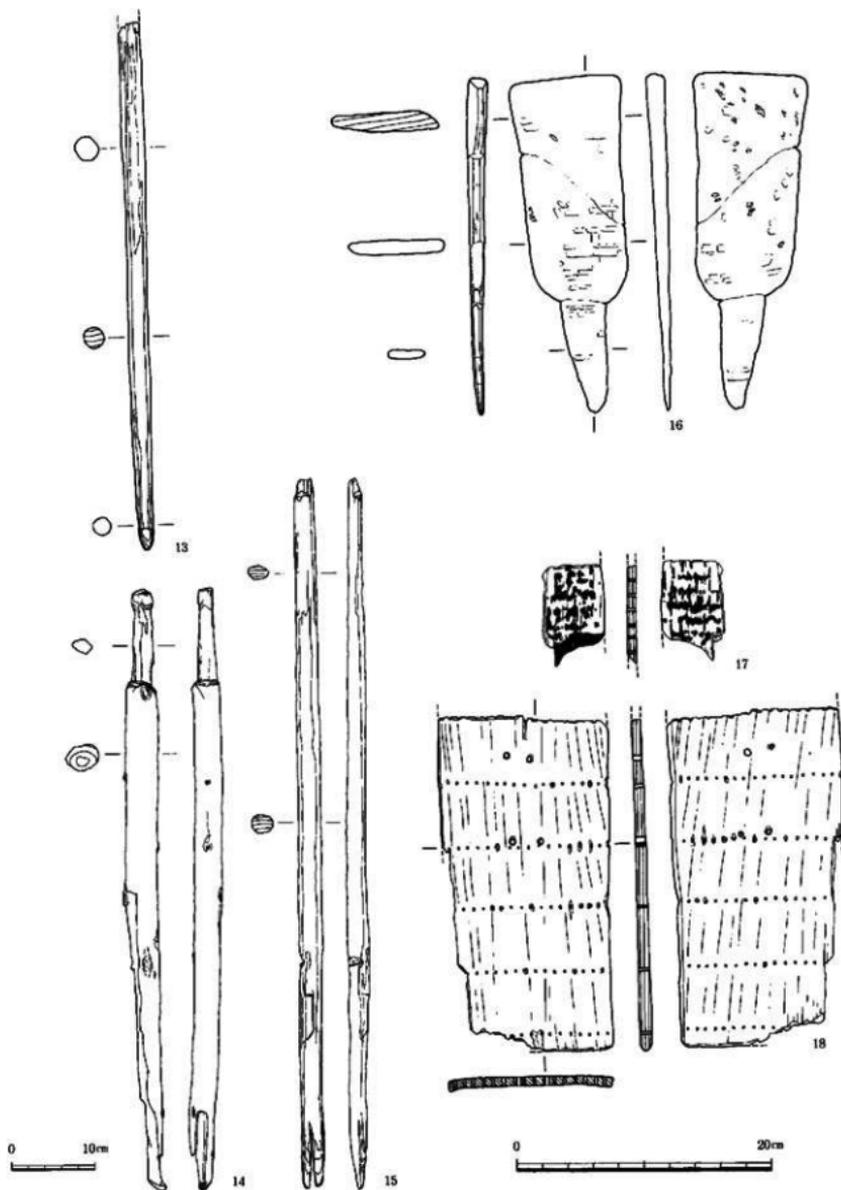
第49図 揚水機場立ち会い調査出土木製品〔1〕(S-1/4)



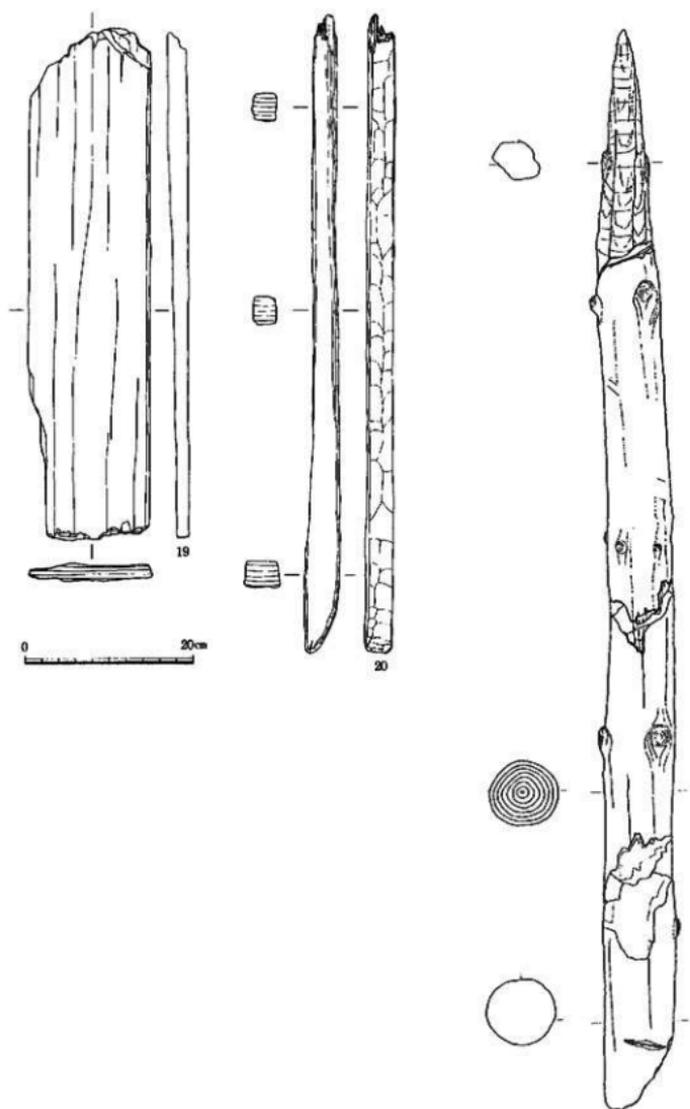
第50図 揚水機場立ち会い調査出土木製品〔2〕(S-1/4)



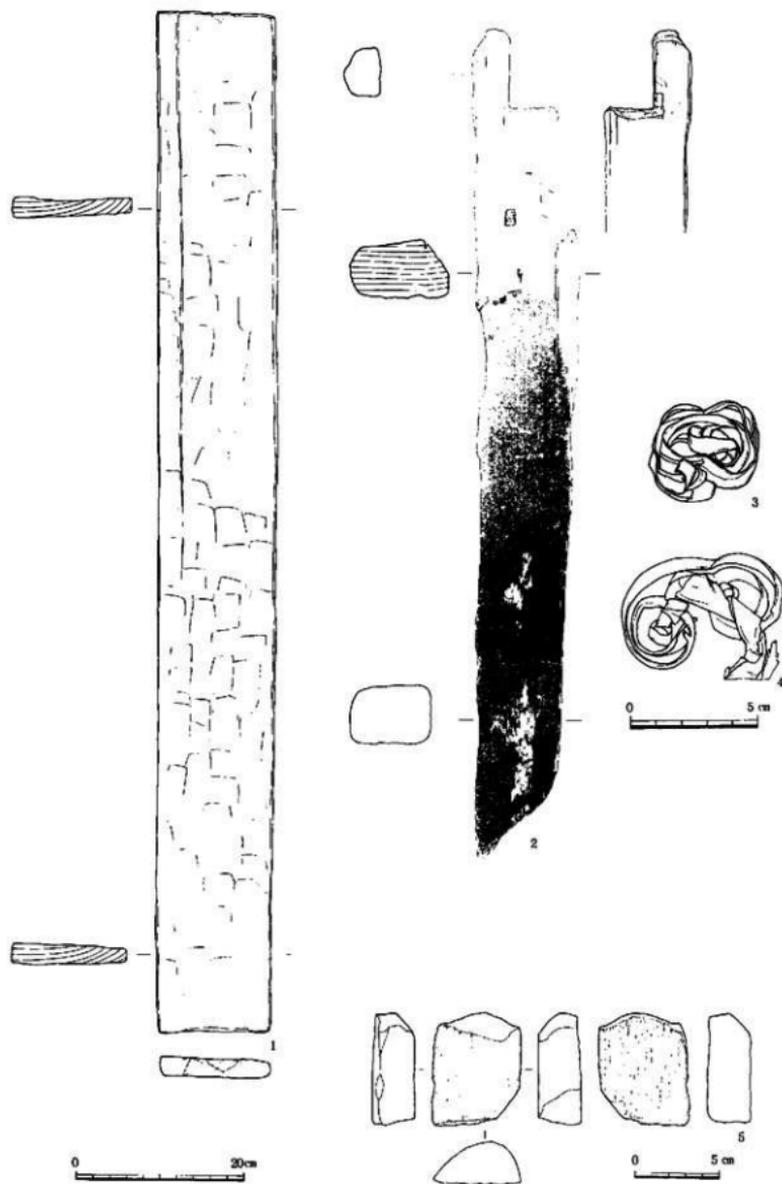
第51図 揚水機場立ち会い調査出土土製品〔3〕
 (10, 11 S = 1/4 12 S = 1/6)



第52図 揚水機場立ち会い調査出土木製品〔4〕
 (13、16~18 S=1/4 14、15 S=1/6)



第53図 揚水機場立ち会い調査出土木製品〔5〕
 (19、20 S = 1/6 21 S = 1/12)



第54図 '94年度調査区出土木製品および骨
 (1, 2 S=1/6 3, 4 S=1/2 5 S=1/3)

第2表 第1調査区出土土器観察表〔1〕

検出No.	出土地点	器種	注 量 (cm)			色 調 (内) (外)	焼成	調整(内)上位より (外)	胎 土	備 考
			口径	器高	底径					
第12821	1号土坑	壺	18.1			浅黄緑 *	良	ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒・細砂・赤色粒少量含む	
2	1号土坑	壺	16.9			浅黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ	1~2mmの砂粒少量含む	
3	1号土坑	壺	15.3			にぶい黄緑 *	良	ナデ 刺突文、ナデ	1~2mmの砂粒少量含む	
4	1号土坑	甕	27.2			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ	1~2mmの砂粒少量含む	
5	1号土坑	甕	14.0			にぶい褐色 *	良	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒・細砂少量含む	
6	1号土坑	甕	25.0			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒少量含む	
7	1号土坑	甕	19.8			にぶい黄緑 *		ハケ、ナデ 沈線、波状文、ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒・細砂少量含む	
8	1号土坑	甕	22.0			にぶい黄緑 *	良	? ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒少量含む	
9	1号土坑	甕	23.0			黒 にぶい黄	良	ハケ ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
10	1号土坑	甕	18.0			浅黄緑 にぶい黄	良	ハケ、ナデ ハケ	1~2mmの砂粒少量含む	
第138211	1号土坑	鉢	18.9	14.65	7.3	にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒・細砂少量含む	
12	1号土坑	底部			9.6	明黄褐 *	良	ハケ、ナデ ハケ	1~3mmの砂粒・細砂少量含む	
13	1号掘穴	壺				浅黄緑 *	良	? タタキ?	1~2mmの砂粒少量・赤色粒やや多く含む	
14	1号掘穴	壺	15.0			浅黄緑 *	良	胎による刺突文、ハケ、ナデ 胎による刺突文、ナデ	1~2mmの砂粒・赤色粒少量含む	
15	1号掘穴住居内土坑	壺	9.0			にぶい黄 *	良	ハケ、ナデ ハケ	1~2mmの砂粒少量含む	
16	1号掘穴	壺				浅黄緑 *	良	ハケ、ナデ? 波状文	1~2mmの砂粒・赤色粒少量含む	
17	1号掘穴	壺	21.0			浅黄緑 にぶい褐色	良	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒、少量含む	
18	1号掘穴住居内土坑	甕	17.4			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ、沈線 ハケ、ナデ	1~2mmの砂粒少量含む	
19	1号掘穴住居内土坑	甕	19.0			浅黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ	1~2mmの砂粒少量含む	
20	1号掘穴住居内土坑	甕	18.0			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ? ハケ、ナデ?	1~2mmの砂粒少量含む	
第14221	1号掘穴	鉢	19.0			浅黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	1mm程度の砂粒・赤色粒少量含む	
22	1号掘穴	鉢	14.6				良	ナデ ハケ、ナデ	1mm程度の砂粒少量含む	
第14223	1号掘穴住居内土坑	底部			5.8	にぶい黄緑 浅黄緑 浅黄緑	良	ナデ ハケ、ナデ	1~3mmの砂粒少量含む	
24	包含層	壺				浅黄緑 *	良	ナデ 胎	1mm程度の砂粒少量含む	
25	包含層	壺				にぶい黄緑 *	良	ハケ 胎り付け突筋、ハケ?	1~2mmの砂粒少量含む	
26	包含層	壺			3.2	黒 褐灰	良	ハケ、ナデ ナデ	1~2mmの砂粒少量含む	
27	包含層	壺	15.6			浅黄 *	良	ナデ ハケ	1~2mmの砂粒少量含む	
28	包含層	壺	19.6			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	1~3mmの砂粒やや多く含む	
29	包含層	甕	18.0			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ、キヤミ懸樋文、刺突文、斜行短線文、浮文	1mm程度の砂粒僅かに含む	
30	包含層	底部			8.6	浅黄緑 *	良			

第3表 第1調査区出土土器観察表〔2〕

神代No.	出土地点	器種	流量 (cm)			色調 (内) (外)	破壊	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第15図1	2号溝	壺	13.8	8.75		灰白 にぶい黄緑	良	ハケ、ナデ、ケズリ ハケ、ナデ、ケズリ	細砂・粗砂多 く2~4.5mm の粒・石英・ 炭石・雲母を 多く含む	
〃 2	2号溝	壺	17.3			にぶい黄緑	良	ナデ、ハケ、ケズリ ナデ、ハケ	1.5mm程度の 砂粒少量含む	
〃 3	2号溝	〃	17.6	24.7	4.9	にぶい黄緑 濁灰	良	ハケ、ナデ、ケズリ ナデ、ハケ	1.5mm程度の 砂粒少量含む	
〃 4	2号溝	〃	18.4		6.3	にぶい黄緑	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ	1.5mm程度の 砂粒目立つ	
〃 5	2号溝	〃	17.5			にぶい黄緑	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ミガキ	1mm程度の砂 粒多く含む	
〃 6	2号溝	〃	20.0			淡赤緑	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ	0.5mm~10mm 程度の砂粒多 く含む	
〃 7	6号溝	〃	16.0			にぶい黄緑	良	ナデ? ナデ、ハケメ?	細砂・粗砂多 く石英・炭石・ 雲母を含む	
〃 8	6号溝	台付鉢			6.8	濁灰 にぶい黄緑	良	指頸圧痕、摩耗の為不明	細砂・粗砂多 く石英・炭石 を含む	
〃 9	北側赤柱	壺	9.7			灰白 粥濁灰	良	指頸圧痕、ケズリ ナデ、炭状文	細砂・粗砂多 く石英・炭石 を含む	
〃 10	西側黄溝	高坏			(8.6)	にぶい黄緑 濁灰	良	ミガキ	細砂・粗砂多 く石英・炭石 を含む	
〃 11	惣倉庫	土甕		長さ 2.16	幅2.65					孔径0.2 cm

第4表 第2調査区出土土器観察表

神代No.	出土地点	器種	流量 (cm)			色調 (内) (外)	破壊	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第16図1	1号土坑	壺	20.3			濁灰 灰白	良	摩耗の為不明 浮文・摩耗の為不明	2.5mm以下の 砂粒を少し多 めに含む	
〃 2	1号土坑	〃				黄灰	やや良	指頸圧痕 ハケ、摩耗の為不明	3mm以下の砂 粒を少量含む	
〃 3	1号土坑	壺	(20.8)			灰白	良	摩耗の為不明		
〃 4	1号土坑	〃	(15.2)			灰白 粥濁灰	やや良	摩耗の為不明	4mm以下の砂 粒を少し多 めに含む	
〃 5	1号土坑	〃	14.2			灰黄濁	やや良	ナデ、指頸圧痕 ハケ、ナデ	2.5mm以下の砂 粒を少量含む	
〃 6	1号土坑	鉢	16.0			黄 にぶい黄緑	良	ナデ、ヘラケズリ、ハケ メ ナデ、その他、摩耗の為 不明	細砂・粗砂多 く石英・炭石 を含む	
〃 7	1号土坑	〃	20.9			黄濁 淡赤緑	良	ケズリ、摩耗割面の為不 明 摩耗の為不明	3mm以下の砂 粒を多めに含 む	
〃 8	1号土坑	高坏	(21.0)			灰白	良	摩耗の為不明	細砂・粗砂多 く石英・炭石・ 雲母・鏡子塊 を含む	
〃 9	1号土坑	〃	22.0			灰白 黒濁	良	摩耗の為不明 ハケ、ケズリ?	細砂・粗砂多 く炭土塊・炭 石を含む	
〃 10	1号土坑	〃				灰白	良	西方遺し孔三股以上?	細砂・粗砂多 く2~4.5mm の粒及び石英・ 炭石塊を含む	
〃 11	1号土坑	蓋台				にぶい赤緑 赤緑	良	摩耗の為不明 〃 炭塊	細砂・粗砂多 く石英・炭石 を含む	
〃 12	1号土坑	〃			14.0	淡赤緑	良	摩耗の為不明 〃 ケズリ	細砂・粗砂多 く石英・炭石・ 鏡子塊を含む	
〃 13	火葬	壺	(21.0)			淡黄 濁灰	やや良	摩耗割面の為不明 摩耗割面の為不明	4mm以下の砂 粒を少し多 めに含む	

探検No.	出土地点	器種	法量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第16図14	大溝	高坏			15.2	浅黄 #	良	摩耗の為不明 #	2.5mm以下の砂粒を少し多めに含む	
# 15	盛土・包含層	壺	11.6			にぶい黄緑 #	良	ナゲ、ヘラズリ ハケ、ナゲ	細砂・粗砂多く2.5~3mm位の赤土・石英・長石・雲母を含む	
# 16	盛土・包含層	高坏				灰白 #	良	ヘラナゲ、摩耗の為不明 ハケ、ヘラミガキ	細砂・粗砂多く石英、長石、雲母を含む	
# 17	盛土・包含層	#			12.6	浅黄緑 #	良	ケズリ 摩耗の為不明	2.5mm以下の砂粒を少し多めに含む	

第5表 第3調査区出土土器観察表

探検No.	出土地点	器種	法量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第17図1	Pit 17	壺	16.4			灰白 #	良	ヘラズリ、指環正広、摩耗ハケ 摩耗の為不明	細砂・粗砂多く石英・長石・雲母を含む	
# 2	Pit 17	#	17.5			浅黄緑 #	やや良	ケズリ、指環正広、摩耗の為不明 ナゲ、ハケ、摩耗の為不明	2mm以下の砂粒を少し多めに赤色粒を少量含む	
# 3	Pit 17	壺	24.6			浅黄緑 #	良	摩耗の為不明 #	2mm以下の砂粒を少し多めに赤色粒を少量含む	
# 4	Pit 17	#	19.7			浅黄緑 #	良	ケズリ、摩耗の為不明 摩耗の為不明	2.5mm以下の砂粒を少量含む	
# 5	Pit 17	#	24.1			浅黄緑 #	やや良	ケズリ、摩耗の為不明 摩耗の為不明	2mm以下の砂粒を少し多めに赤色粒を少量含む	
# 6	Pit 17	器台	18.7			にぶい橙 #	良	ロクロナゲ、ハケ、後ヘラズリ ハケ、その他摩耗の為不明	細砂・粗砂多く石英・長石・雲母を含む	
# 7	Pit 17	高坏				灰白 #	良	通し孔、その他摩耗の為不明 通し孔、ハケ	細砂・粗砂多く、石英・長石・雲母を含む	
# 8	Pit 17	壺	14.0			赭灰 #	やや良	ロクロナゲ、ケズリ ロクロナゲ、刺突文 摩耗の為不明	1mm以下の砂粒を少量、4mm位の砂粒を1つ含む	
# 9	10号溝	壺	14.6			浅黄緑 #	良	摩耗、ケズリ ミガキ?	0.5mm、10mm程度の砂粒多く含む	
# 10	10号溝	壺	14.5			灰白 にぶい黄緑 #	やや良	摩耗、刺突の為不明 #	2.5mm以下の砂粒を少し多めに含む	
# 11	10号溝	#	18.1			灰白 赭灰 #	やや良	ナゲ、ケズリ 摩耗の為不明	1.5mm以下の砂粒を少量含む	
# 12	10号溝	#	18.2			浅黄緑 #	良	1mm程度の砂粒多く含む	1mm程度の砂粒多く含む	
# 13	10号溝	#	22.1			浅黄緑 灰黄緑 #	やや良	ケズリ、摩耗の為不明 摩耗の為不明	3mm以下の砂粒を少量含む	
# 14	10号溝	器台	27.4			浅黄緑 #	良	ミガキ 不明	1mm程度の砂粒少量含む	
# 15	10号溝	#			16.0	灰白 #		ナゲ ナゲ		
第18図16	1・2号溝					浅黄緑 黄緑 #	良	摩耗剝離の為不明 #	2mm以下の砂粒を少量、2.5~3.5mm位の砂粒をわずかに赤色粒を少量含む	
# 17	1号溝	壺	17.1			にぶい橙 #	良	ロクロナゲ、タタキ、ケズリ タタキ、ハケ	1.5mm程度の砂粒少量含む	
# 18	1号土坑	壺	15.6			浅黄緑 黒緑 #	良	摩耗の為不明 剝離、縁がハケ、ロクロナゲ	細砂・粗砂多く2.3mm位の赤土・石英・雲母を含む	

神田No.	出土地点	器種	流量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第18回19	1号土坑	甕	16.8			灰白 *	やや良	ケズリ、ナデ、摩耗の為不明 ナデ、摩耗の為不明	2.5mm以下の砂粒を少量、5mm位の砂粒を一つ含む	
# 20	1号土坑	器台			19.0	灰白 *		ケズリ、摩耗の為不明 ナデの為不明	2mm以下の砂粒を少量含む	
# 21	2号土坑	甕	16.8			黄緑 *		ナデ ナデ	粗粒砂を含む	
# 22	3号土坑	*	16.2			灰白 洗黄緑	やや良	ケズリ、摩耗の為不明 ナデ、摩耗の為不明	1mm以下の砂粒を少量、2mm位の砂粒を2つ、5mm位の砂粒を一つ含む	
第18回23	3号土坑	*	12.2			黄灰 *		ナデ ナデ、ケズリ		
# 24	3号土坑	甕	19.0			洗黄緑 灰黄緑	やや良	ナデ、摩耗の為不明 摩耗の為不明	2.5mm以下の砂粒を少量含む	
# 25	3号土坑	甕	17.9			灰褐 *		ナデ、ケズリ ナデ	粗砂を含む	
# 26	3号土坑	*	18.2			灰白 にぶい黄緑	良	ナデ、ヘラケズリ 摩耗の為不明	細砂・粗砂多く、石英・長石・雲母を含む	
# 27	3号土坑	鉢	26.0			灰褐 *	やや良	摩耗の為不明 摩耗の為不明	1.5mm以下の砂粒を少量、2.5mmの砂粒を一つ含む	赤影
# 28	3号土坑	器台	27.9			灰白 *	良	赤影、摩耗の為不明 赤影、摩耗の為不明	細砂・粗砂多く、石英・長石・雲母・焼土塊を含む	
第19回29	4号土坑	甕	19.0			にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	1mm程度の砂粒少量含む	
# 30	4号土坑	*	16.2			灰白 *	良	ヘラケズリ、摩耗の為不明 ハケ、割突文、摩耗の為不明	細砂や中砂多く、粗砂中に多く、石英・長石・焼土塊を含む	
# 31	4号土坑	甕	17.6			灰白 *	良	ケズリ、ナデ ナデ、クダキ、割突文	2mm以下の砂粒を少量、赤色粒を少量含む	
# 32	4号土坑	*	21.0			灰 灰白	やや良	摩耗、割断の為不明 摩耗、割断の為不明	3mm以下の砂粒を少量、赤色粒を少量含む	凹
# 33	5号土坑	高坏	26.6			にぶい黄緑 *	良	ミガキ ミガキ	1mm程度の砂粒少量含む	
# 34	跡上中	甕	26.4			灰褐 *				
# 35	土溝			長さ 2.8	幅2.8	灰褐 *			粗砂を含む	孔径0.7cm

第6表 第4調査区出土土器観察表〔1〕

神田No.	出土地点	器種	流量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第19回1	中瀬・旧河道	甕	16.0			灰 *		ナデ、ハケ ハケ、ナデ	中粒砂と粗粒砂を少量含む	
# 2	中瀬・旧河道	*	19.4			にぶい黄緑 *	良	ミガキ ナデ	1~3mm位の砂粒をわずかに含む	
# 3	中瀬・旧河道	*	15.6			高黄 黒		ハケ、ナデ 割突文、ハケ	細粒砂を含む	
# 4	中瀬・旧河道	甕	22.4			にぶい黄緑 *	良	ハケ、ナデ ハケ	黄緑~1mmの砂粒を含む	

第7表 第4調査区出土土器観察表(2)

標位No.	出土地点	器種	重量 (g)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第20図1	1号溝	壺	10.8			黒灰白	良	ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ ナデ、ハケ、ヘラミガキ	細砂・粗砂多く 石英・長石を含む	
2	1号溝	〃	19.1			にぶい橙 〃	良	ハガキ?ケズリ ミガキ	2.5mm以上の 粒を含む	
3	1号溝	壺	16.8			にぶい橙 にぶい青	良	ハケ、ナデ、ケズリ ヨコナデ ハケ	0.5mm程度の 砂粒多く含む	
4	1号溝	〃	16.5	14.2		オリーブ黒 黒	良	ナデ、ヘラケズリ ナデ、ハケ	細砂・粗砂多く 石英・長石を含む	
5	1号溝	〃	16.4	10.4		赤黄灰 〃		ナデ、ケズリ ハケ、刺突文	粗砂粒を含む	
6	1号溝	〃	17.5	16.0	5.3	灰黄褐 〃	良	ナデ ヨコナデ、ナデ、ハケ	0.2~0.5mm 程度の砂粒多く含む	
7	1号溝	〃	26.8			にぶい黄橙 〃	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
8	1号溝	〃	22.0			にぶい黄橙 〃	良	ヨコナデ、ナデ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
9	1号溝	高坏			11.65	灰白 〃	良	ナデ、指頭庄痕 ナデ、ヘラミガキ	細砂・粗砂多く 2~4mmの 粒・石英・長 石も含まれる	
10	1号溝	〃	25.3			灰白 にぶい橙	中不良	ハケ、ミガキ ミガキ、ナデ	2.5mm以下の 砂粒を少し多 めに含む	
第21図11	後田川遺 (下層)	壺	12.6	7.8		桃褐 〃		ナデ、ケズリ ミガキ	粗砂粒を含む	
12	後田川遺 (上層)	〃	14.2			桃黄灰 灰白		ヨコナデ ヨコナデ	中砂粒を含む	
13	後田川遺 (上層)	壺	15.0			黄橙 〃		ナデ、ケズリ ナデ	粗砂粒を含む	
14	後田川遺 (下層)	〃	13.2			茶褐 〃		指頭庄痕、ナデ ハケ、ナデ	中砂粒を含む	
15	後田川遺 (下層)	〃	14.3			灰灰		ナデ、指頭庄痕、ケズリ ナデ、ハケ		
16	後田川遺 (上層)	〃	14.5			茶褐 〃		ナデ、ケズリ ナデ、ハケ	粗砂粒を含む	
17	後田川遺 (上層)	〃	16.5			にぶい黄橙 〃	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、キザミ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
18	後田川遺 (中層)	〃	16.0			にぶい黄橙 深赤橙	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ、キザミ、 ナデ	2.0mm程度の 砂粒少量含む	
19	後田川遺 (上層)	〃	15.6			黒褐 黒	良	ナデ、ハケ、ヘラケズリ ナデ、ハケ	細砂・粗砂多く 石英・長石を含む	
20	後田川遺 (上層)	〃	13.2			にぶい黄橙 〃	良	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ、ハケ、ナデ	1.5mm~2.0 mm程度の砂粒少 量含む	
21	後田川遺 (下層)	〃	16.0			灰褐 黄褐		指頭庄痕、ナデ ハケ	粗砂粒、細粗 砂粒を含む	
22	後田川遺 (上層)	〃	30.0			明桃灰 黄褐	良	ナデ、ヘラケズリ ナデ、ハケ	細砂・粗砂多く 石英・長石・長 石・黄土も含む	
第22図23	後田川遺	〃	15.0			灰黄褐 〃	良	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ	1.5mm程度の 砂粒少量含む	
24	後田川遺 (中層)	壺	19.8			にぶい橙 〃	良	ナデ、ケズリ ミガキ	1.5mm程度の 砂粒少量含む	
第22図25	後田川遺 (上層)	〃	16.6			灰褐 にぶい黄橙	良	ナデ、ハケ ナデ、ヘラケズリ	細砂・粗砂多く 石英・長石・ 黄土も含む	

神田No.	出土地点	器種	法量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第22図25	後旧河道 (上層)	甕	16.6			にぶい黄褐色	良	ヨコナデ、ハケ、ナデ キザミ、波状文、ハケ、 ナデ	1.5mm程度の 砂粒少量含む	
27	後旧河道 (上層)	鉢	23.4			にぶい黄褐色	良	ミガキ ミガキ	1.0～1.5mm の砂粒多く含む	
28	後旧河道 (上層)	器台	20.6			にぶい褐色	良	ミガキ ミガキ	0.5mm程度の 砂粒多く含む	
29	後旧河道 (上層)	高坏	22.0			にぶい黄褐色	良	ヘラミガキ ヘラミガキ	細砂・粗砂を 多く含む	
30	後旧河道 (上層)	〃	16.0			にぶい黄褐色	良	ハケ、その他摩耗の為不明 ハケ		
31	後旧河道 (上層)	〃	28.8			にぶい黄褐色	良	ミガキ ミガキ		把手
32	後旧河道 (上層)	〃		15.9		にぶい黄褐色	良	ナデ、ハケ ハケ、ミガキ	0.5～1.0mm 程度の砂粒多く含む	
33	後旧河道 (上層)	底部			5.0	灰褐色		ケズリ ハケ、ミガキ		
34	後旧河道 (上層)	台付き鉢			8.2	黄灰		ナデ	粗砂粒を多く 含む	
35	後旧河道 (上層)	小型土器	6.0	5.4	3.0	系褐		赤銅正灰、ナデ ナデ		

第8表 '04年度調査区出土土器観察表

神田No.	出土地点	器種	法量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第23図1	2区 1号土坑	甕	16.2			灰褐色		ナデ、指おさえ、ケズリ ハケ	粗粒砂含む	
2	2区 1号土坑	〃	16.5			黄褐色		ナデ ナデ	粗粒砂含む	
3	2区 1号土坑	高坏	18.0			灰褐色		ヨコナデ、ナデのちヘラ ミガキ ヨコナデのちヘラミガキ	中粒砂含む	口縁部赤彩
4	1、2区 2号土坑	甕	15.6			黄褐色		ヨコナデ ナデ、ミガキ	粗粒砂含む	
5	1、2区 2号土坑	甕	14.6			灰褐色		ヨコナデ	粗粒砂含む	(外)すず付層
6	1、2区 2号土坑	〃	18.4			灰褐色		ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ	粗粒砂含む	(外)すず付層
7	1、2区 2号土坑	〃	16.8			灰赤褐色		ナデ、キザミ ヘラミガキ、ナデ	極粗粒砂含む	(外)赤彩
8	1、2区 2号土坑	〃	12.5			黄灰		ナデ、ケズリ ナデ	細粒砂含む	
9	1、3区 2号土坑	高坏	22.0			灰白灰		ナデ ナデ	粗粒砂含む	
10	1、2区 2号土坑	〃			12.9	灰灰		ケズリ	粗粒砂含む	
11	1、2区 2号土坑	土師		長さ 3.1	幅 3.0	系褐				孔径0.8 cm
12	1、2区 2号土坑	〃		長さ 3.2	幅 3.0	黄灰				孔径0.9 cm
13	8、9区 3号溝	甕	13.8			系褐、灰褐色		ヨコナデ、指おさえ ハケ	粗粒砂含む	
14	2区 Pit 9	甕	12.5			黄灰		ナデ ナデ	粗粒砂含む	
15	2区 Pit 2	壺 把手				黄灰			粗粒砂含む	
16	11区 Pit 13	甕	16.9			黄灰		ハケ ナデ、ケズリ	粗粒砂含む	
17	1区 Pit 15	〃	18.0			黄灰		ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	粗粒砂含む	

第9表 加賀市立ち会い調査出土土器観察表

神代No.	出土地点	器種	法量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第24回1	溝	釜	13.3			にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ナデ、ハケ、 ナデ ヨコナデ、ハケ、ミガキ	0.5mm程度の 砂粒少量含む	
2	溝	釜	14.0			にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
3	溝	*	19.0			にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ナデ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
4	溝	*	17.4	4.8		にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケ、ナデ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
5	溝	*	27.6			にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ハケ、ヨコナデ、キザミ、 ハケ、ナデ	2.0mm程度の 砂粒少量含む	
第25回6	溝	*	27.6			にぶい黄緑 *	良	ヨコナデ、ハケ、ナデ ヨコナデ、ハケ、キザミ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	
7	溝	甗台	19.1	16.3	15.8	灰褐色に ぶい橙	良	ミガキ、ナデ 沈泥、ミガキ	1.0mm程度の 砂粒少量含む	二方造し 二段 外面赤彩

第10表 湯水農場立ち会い調査出土土器観察表

神代No.	出土地点	器種	法量 (cm)			色調 (内) (外)	焼成	調整(内)(上位より) (外)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
第25回1	湯水農場	甗	17.0			高濃 灰濁		ハケ、ケズリ、指掘肝風、 ハケ目のちナデ ナデ	中砂粒含む	
2	湯水農場	台付き鉢	17.5			灰白 にぶい赤	良	ヘラケズリ、ナデ、ヘラ ミガキ ナデ、ヘラミガキ	細砂粒多く 石灰、長石を 含む	
3	湯水農場	甗台	21.2	15.75	14.6	赤 *	良	ヘラミガキ、ヘラケズリ、 ナデ ハケ、沈泥	細砂粒多く 石灰、長石を 含む	
4	湯水農場	高坪	25.2			にぶい黄緑 *		ヘラミガキ ヘラミガキ、ヘラミガキ のちヘラケズリ	細砂粒多く 石灰、長石、 雲母炭塊を含む	

第11表 95年度調査区出土石器計測表

神代No.	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	備考
第25回1	第1調査区 10号溝	玉木製品	2.05	2.0	1.6	4.9	緑色硬灰岩	
2	第1調査区 包舎溝	玉木製品	2.35	1.45	0.85	5.1	*	
3	第1調査区 包舎溝	玉木製品	2.7	1.95	1.6	10.8	*	
4	第1調査区 1号土坑	割片	3.4	3.0	0.7	5.8	玉髓	
5	第1調査区 包舎溝	石鏃?	(3.0)	2.35	0.9	(6.3)	*	
6	第1調査区 1号土坑	砥石	(2.65)	(2.9)	2.5	(16.8)		
7	第1調査区 1号壺穴住居跡	砥石	(10.3)	(6.4)	3.4	(236.3)		
8	第1調査区 1号溝	砥石	14.7	4.6	2.4	(213.5)		
9	第1調査区 8号溝	砥石	14.6	7.6	3.6	530.1		
10	第1調査区 包舎溝	砥石 (ハンマー)	6.4	5.55	4.3	218.4		
11	第1調査区 東庭側溝	砥石 (ハンマー)	9.7	7.7	6.2	623.1		
第27回12	第1調査区 1号壺穴住居跡 床面出土	砕石?	17.7	14.9	4.2	1502.2		
13	第2調査区 大溝	砥石	(9.1)	(9.0)	4.0	(500.3)		
14	第3調査区 3号土坑	磨製石斧	13.1	5.45	3.7	419.7		
15	第3調査区 10号溝	磨石	8.9	8.6	4.0	472.1		

検体No.	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	備考
第27図16	第3調査区 3号土坑	ガラス玉	0.3	0.38		0.1		
" 17	第3調査区 pit11	ガラス玉	0.3	0.36		0.1		
" 18	第3調査区 pit10カ11	ガラス玉	0.38	0.54		(0.1以下)		
" 19	第3調査区 包含層	玉末製品	2.7	1.4	1.5	6.8	緑色凝灰岩	
第28図20	第4調査区 夜間田河道	磁石	7.2	6.1	4.7	42.6		
" 21	第4調査区 夜間田河道	磁石	5.0	5.1	2.55	48.0	砂岩	
" 22	第4調査区 夜間田河道	磁石	5.45	7.2	4.5	153.9		
" 23	第4調査区 夜間田河道	磁石	14.2	9.15	6.3	1146.1		
" 24	第4調査区 夜間田河道	台石	19.4	13.7	7.5	3072.6		

第12表 第3調査区P-10~12礎板計測表

検体No.	出土地点	名称	法量 長さ×幅×厚さ (cm)	備考
第29図1	pit10~12	礎板1	69.3×(8.0)×(6.0)	
" 2	pit10~12	礎板2	61.7×(14.6)×5.5	
" 3	pit10~12	礎板4	63.6×(5.2)×4.2	
" 4	pit10~12	礎板5	46.8×22.5×31.2	
" 5	pit11~12	礎板6	47.5×34.3×7.5	
" 6	pit10~12	礎板8	46.4×(5.9)×4.0	
" 7	pit10~12	礎板11	28.0×(5.9)×5.9	
第30図8	pit10~12	礎板7	101.0×19.4×6.8	
" 9	pit10~12	礎板10	70.0×28.4×8.2	

第13表 第4調査区出土木製品計測表

検体No.	出土地点	名称	法量 長さ×幅×厚さ (cm)	備考
第31図1	夜間田河道2	枕	(80.4)×16.2×6.7	炭化
" 2	pit2	柱段	(27.5)×21.3×19.5	
" 3	pit1	柱段	(54.4)×25.4×27.4	
第32図4	夜間田河道	建築部材	140.8×11.2×3.8	
" 5	夜間田河道	柱	(107.2)×16.0×12.8	炭化
第33図6	夜間田河道	柱	(105.1)×13.5×15.0	炭化
" 7	夜間田河道	柱	(113.3)×12.9×11.5	炭化
第34図8	夜間田河道	建築部材	(78.85)×5.5×6.4	炭化
" 9	夜間田河道	建築部材	(61.45)×5.1×4.7	
" 10	夜間田河道	建築部材	126.7×20.0×10.0	
" 11	夜間田河道	建築部材	(34.25)×7.7×4.45	炭化
第36図12	夜間田河道	不明	(15.05)×6.1×3.4	炭化
第37図13	夜間田河道	不明	(16.58)×6.28×2.0	炭化
第38図14	夜間田河道	不明	(18.3)×(6.8)×2.3	
第34図15	1号溝	建築部材	17.8×4.9×4.45	
" 16	1号溝	建築部材	(159.2)×(26.60)×4.1	炭化
第35図17	夜間田河道	建築部材	146.8×9.0	
" 18	1号溝	榑	(124.7)×20.7×11.1	炭化
第36図19	1号溝	板	(74.1)×16.9×2.5	

押収No.	出土地点	名称	法 量 (cm)		備 考
			長さ × 幅 × 高さ	厚さ	
第36820	後田 期遺	板	(49.6) × (14.0) × 2.65		
" 21	後田 期遺	板	31.15 × 24.8 × 2.4		
第37822	後田 期遺	板	(67.3) × 17.5 × 2.9		
" 23	後田 期遺	板	(129.55) × (17.7) × 5.2		炭化
第38824	後田 期遺	不明	(171.6) × 4.1 × 5.6		
" 25	中期旧河道	棒	179.0 × 3.3 × 3.7		炭化
" 26	後田 期遺	不明	(136.3) × 4.25 × 2.6		炭化 細かい
" 27	1号溝	不明	63.85 × 2.6		
" 28	後田 期遺	棒	(40.6) × 3.05 × 1.8		
第39829	1号溝	棒	60.5 × (12.2) × 7.5		
" 30	後田 期遺	棒	28.5 × (3.0) × 2.9		
" 31	1号溝	棒	46.35 × (14.8) × (7.4)		
" 32	1号溝	棒	長さ 23.6 (8.1)		炭化
" 33	1号溝	棒	(8.3) × (5.9) × 1.7		炭化
第40834	94年度1号溝	桶底板	(13.8) × (10.0) × 1.15		炭化
" 35	1号溝	桶底板	(14.0) × (7.15) × 2.9		炭化
" 36	後田 期遺	桶	(6.0) × 4.25 × 1.9		炭化
" 37	後田 期遺	桶(底板)	(23.6) × (5.1) × 1.6		
" 38	後田 期遺	桶(底板)	20.8 × (12.8) × 1.1		
" 39	後田 期遺	桶	(18.35) × (4.05) × 1.6		炭化
" 40	後田 期遺	桶	25.7 × (5.3) × 1.4		板皮どめ
" 41	後田 期遺	桶	(30.8) × (5.4) × 2.0		
" 42	後田 期遺	桶	(15.15) × (10.50) × (3.0)		炭化
第41843	後田 期遺	不明	20.9 × 16.2 × 1.5		組み合わせの蓋か
" 44	後田 期遺	不明	(35.5) × 8.0 × 1.7		"
第42846	後田 期遺	ヘラ	(39.0) × 12.8 × 2.1		
" 47	河道中層上面	ヘラ	(14.5) × 5.2 × 0.9		
第43848	1号溝	ヘラ	(35.6) × 5.2 × 2.1		
" 49	1号溝	ヘラ	41.3 × 11.4 × 1.8		
" 50	後田 期遺	ヘラ 未完成品か	(23.9) × 13.3 × 1.6		
第44851	1号溝	ヘラ 未完成品	51.2 × (7.5) × 3.5		
" 52	後田 期遺	ナスビ形 鏝	60.0 × 17.15 × 4.7		
第45853	後田 期遺	網	(30.65) × (15.7) × 1.4		
" 54	後田 期遺	網	(72.3) × 3.1 × 3.2		
" 54	後田 期遺	網	(45.5) × 6.4 × 2.0		
" 55	後田 期遺	網	(57.0) × (13.7) × 3.2		
" 56	後田 期遺	網	(51.0) × 4.3 × 2.9		
第45857	後田 期遺	網	(45.5) × 3.6 × 2.7		
" 58	後田 期遺	棒	41.2 × 4.6 × 2.8		

検出No.	出土地点	名称	法 量 長 寸 × 幅 × 厚 寸 (cm)	備 考
第45089	後田河	網	(24.5) × 1.75 × 1.45	
第41890	後田河	木包丁	(4.8) × (7.8) × 1.1	炭化
〃 61	後田河	木包丁	4.2 × 10.6 × 0.8	炭化
第46092	後田河	炭状鉄屑 網	46.3 × 3.0 × 2.0	頸部 (6.1) × 4.0 × 4.1
〃 63	後田河	ヘラ (木杓子)	(31.2) × (5.0) × 0.8	
〃 64	後田河	ヘラ	(26.6) × 2.7 × 1.2	炭化
〃 65	後田河	横槌	32.7 × 8.7 × 5.8	
〃 66	1号溝	鐵巻具	40.2 × 4.4 × 2.1	
第47057	1号溝	不明	66.4 × 12.4 × 8.6	
〃 66	1号溝	不明	26.8 × (11.8) × 4.2	
〃 69	後田河	不明	15.5 × (6.6) × 0.9	
〃 70	1号溝	不明	(34.5) × 18.7 × 7.5	炭化
〃 71	後田河	不明	(11.5) × 3.0 × (1.5)	炭化
第48972	後田河	不明	(27.2) × (23.3) × 12.5	炭化
〃 73	後田河	ケヤキ樹皮 容器か	50.9 × (8.5) × 1.3	
〃 74	後田河	杉樹皮	(105.3)	

第14表 排水機場立ち会い調査出土木製品計測表

検出No.	出土地点	名称	法 量 長 寸 × 幅 × 厚 寸 (cm)	備 考
第4929	排水機場立ち会い	網柄	(29.3) × 3.3 × 3.3	
〃 2	排水機場立ち会い	網	(34.55) × 28.0 × 2.2	
〃 3	排水機場立ち会い	ヘラ	(23.3) × (3.8) × 2.0	
〃 4	排水機場立ち会い	ヘラ	(24.3) × (12.5) × 2.1	炭化
〃 5	排水機場立ち会い	握り棒	(32.0) × 3.8 × 3.5	
第5026	排水機場立ち会い	網	(35.6) × (21.3) × 7.1	漆? 付着
〃 7	排水機場立ち会い	横槌	(30.0) × (6.5) × 1.6	
〃 8	排水機場立ち会い	杓子	(12.7) × 11.4 × 0.41	上層
〃 9	排水機場立ち会い	不明	(8.45) × (5.05) × 1.05	
第51210	排水機場立ち会い	炭状鉄屑 網	44.7 × 5.3 × 2.6	頸部 10.2 × 3.6 × 5.1
〃 11	排水機場立ち会い	杵	(40.7) × 7.95 × 6.6	
〃 12	排水機場立ち会い	掘り矢	(22.7) × (15.4) × 10.3	炭化
第52913	排水機場立ち会い	網	(78.85) × 6.9 × 1.7	
〃 14	排水機場立ち会い	不明	(72.3) × 4.55	
〃 15	排水機場立ち会い	不明	(85.7) × 2.95	上層
〃 16	排水機場立ち会い	不明	(26.5) × (9.1) × 1.7	表面面に格子状に樹皮? 付着
〃 17	排水機場立ち会い	網	8.0 × 4.9 × 0.7	赤彩、炭化
〃 18	排水機場立ち会い	網	(27.0) × (13.5) × 1.0	
第53219	排水機場立ち会い	板	62.1 × 14.6 × 2.5	
〃 20	排水機場立ち会い	部材	(77.1) × 4.3 × 3.3	
〃 21	排水機場立ち会い	杭	256.35 × 16.6	

第15表 '94年度調査区出土木製品および骨計測表

種別No.	出土地点	名称	法 量		備 考
			長さ × 幅 × 厚さ	(cm)	
第54図 1	1号溝	板	125.6 × 14.6 × 2.65		
≡ 2	9号溝	建築部材	(100.4) × (12.3) × 7.3		炭化
≡ 3	1号溝	板皮	(3.95) × (4.45) × (3.7)		
≡ 4	≡	板皮	(6.3) × (6.45) × (5.5)		
≡ 5	≡	タジラの骨?	(6.7) × (2.6) × (2.6)		

第4章 まとめ

今回の調査は現八日市川左岸部について、極小の面積であったが広範囲に調査区が設定されたため、これまで不明であった遺跡の展開が少しではあるが判明した。この2年間の調査成果から、現時点でわかっている猫橋遺跡の様相についてまとめてみたい。

まず、分布調査で遺跡西側のおおよその範囲が確定できた。おおむね遺跡地図の範囲と同じと言える。試掘坑の資料を基に作成した旧地形復元図からすると、集落域は旧河道の蛇行する地点に張り出す微高地上に展開している。第55図に集落域の位置を想定してみた。発掘調査で遺構の捉えられた地点もあるが、まだまだ不明な地点が多い。

A地点は平成8年度の分布調査で確認された遺跡で古墳時代の遺跡である。これより北側は橋立丘陵裾部を除いておそらく当時の柴山溝であった可能性が高い。B地点は揚水機場の立ち会い調査時に確認された部分で、当初の分布調査で遺跡の範囲外とされた地点である。遺構の存在は確認したものの、その展開は不明である。この部分は橋立台地から延びる微高地か、あるいは砂州の可能性があり、県道に沿って宅地となっているため、すでに削平されてしまっている可能性がある。

C地点は昭和38年の河川改修時に最も遺物が多く出土した地点で、'94・'95年の調査地点、加賀市の立ち会い調査地点を含む。竪穴住居跡、土坑、溝などの遺構が確認され、加賀市の立ち会い調査地点を含めて考えれば、集落群の中でもっとも大きく展開している可能性が高い。現八日市川右岸の状況は不明であるが、左岸の発掘調査では、弥生時代後期猫橋式の遺物が主体となっている。

D地点も試掘調査では遺跡の範囲外となっているが、微高地上の地形が確認できることから集落域を想定した。近くの試掘坑からは旧河道あるいは溝と思われる鞍部から少量の遺物が出土している。

E地点は今回の調査で初めてその様相が捉えられた。やや上手の張り出しに近い地点で弥生時代中期小松式、磯部式、後期猫橋式の遺構が確認できた。下手の方は不明である。

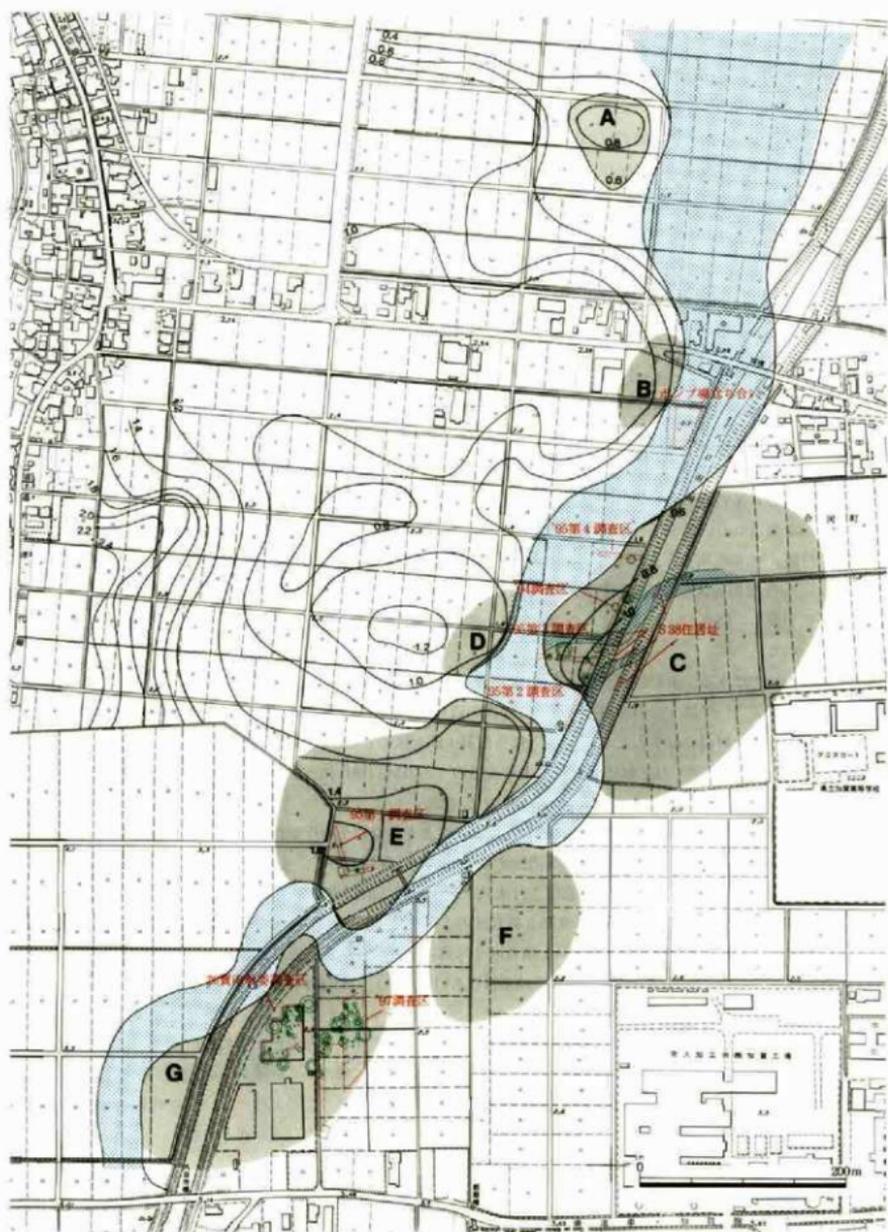
F地点は実体が不明である。小さな張り出しがありそうなことと現地踏査で遺物が採集できたことから集落域を想定した。採集された遺物の中には古代の須恵器が含まれている。

G地点は加賀市教育委員会の調査地点（田嶋他1993）と、'97年度調査地点を含み様相が見えつつある。加賀市教育委員会調査地点では古墳時代初頭白江式が主体で竪穴式住居、平地式住居、掘立柱建物、土坑などが確認されている。'97年度調査地点は農道建設に伴う調査で竪穴式住居、平地式住居、土坑、掘立柱建物、井戸、溝などが確認されている。出土遺物は弥生時代中期から古墳時代後期にかけてのものが出土している。AからG地点までのあり方からすればG地点の反対側にも集落域の展開が予想される。

集落域となっている地点は前述したとおり微高地で、おそらく八日市川によって形成された自然堤防であろう。上流の弓波遺跡まで遺跡が連なっており、同様な地形の地点で集落が展開しているであろう。ただし弓波付近では橋立丘陵からの張り出しや、他の地形的な要因で集落域が選定されている可能性がある。

細かい時期差の検討が必要であるが、現段階では河道の両岸で同一時期の集落が展開している。集落の連続性について考えると、今のところ弥生時代では小松式が最も古く、また、戸水B式段階の遺構が確認されていない。戸水B式期の遺構は土器がC地点から散発的に出土していることから、この付近にその存在が考えられる

これまでの調査では弥生時代の集落につきものの墓域が捉えられていない。95年度調査第3調査区



第55図 猫橋遺跡の旧地形復元図

10号溝が方形周溝葬の可能性を持つもののはっきりと断定するには至らない。水田についてはおおむね自然堤防の後背地に展開していたと思われるが、分布調査、発掘調査とも捉えていない。既に削平されている可能性が高い。

遺構個々については調査区の狭さもあり検討できるような資料が得られていない。弥生時代中期については現地調査で遺構を捉えることが難しく、また、まだ断片的でありはっきりしない。弥生時代後期の遺構については住居、土坑、溝の類別が増えた。住居は壁溝らしいものが捉えられ、おおむね竪穴式と考えられるものが主体となっている。平面形については全体を捉えたものがないためはっきりとしなが、主柱穴の配列からすれば円ないしは多角形と考えられる。主柱穴は楕円形柱穴に礎板を敷くもの、敷かないものと、円形柱穴に枕木を置くものなどが確認されている。柱の本数については全体を確認できていないので不明であるが、6～8本程度と考えられるものが多い。炉跡や貯蔵穴などその他の遺構については捉えられていない。

土坑では'94年度調査区の2号土坑が貯蔵穴の可能性はある他は、その性格を捉えきれない。'95年度調査区で検出された土坑の多くは、坑底の安定しない不整形なものが多い。これらは土器片が一定量出土する傾向がある。廃棄土坑であろうか。

溝は'94年度調査区および'95年度第3調査区で確認されている竪穴住居跡の壁溝、平地式建物の外周溝と考えられるもの以外では、調査面積から性格の捉えられるものは少ない。'95年度第3調査区10号溝はコの字状を呈しており、前述したとおり方形周溝葬の周溝の可能性が高い。'94年度調査区9号溝、'95年度第4調査区1号溝は上幅2m前後、深さ1m前後でよく似た規模の溝である。

'94年度調査区1号溝は上幅20m弱で大きい。旧河道から分流する河道跡と考えてよいと思われる。昭和38年の調査で住居址とされたものは出土遺物の傾向や土層からしておそらくこの様な河道跡と思われる。

遺物では土器、土製品、石器、石製品、鉄器、ガラス製品、木製品などがある。

土器については今回の調査で弥生時代中期の資料が得られた。量的には少なくともその様相について触れるだけの材料にはまだ足りないが、'95年度第1調査区のもは遺構からまとまって出土している。1号土坑、1号竪穴住居跡の資料は、甕形土器のさざ波状口縁作出方法や甕形土器の組成から時期差と考え、前者を小松式に、後者を磯部式に対比した。

弥生時代後期猫橋式については'94年度、'95年度とも多量の土器片が得られたが、溝、および河道の資料がほとんどで土器群の様相を把握するには難しい資料である。強いていえば'94年度調査区10号溝、1号土坑、'95年度第2調査区1号土坑、第4調査区旧河道の一部がやや古く、'95年度第1調査区2号溝がそれに続き、'95年度第3調査区の5号土坑をのぞく他の土坑などがやや新しい印象を受ける。有段口縁の甕は'95年度第1調査区2号溝の土器群を伴々と観ると猫橋式の後半にはすでに成立していたこととなる。甕、壺は多種多様なものがあり、完形個体の少ない現状では分類しきれなかった。

高坏は脚端部が屈曲してさらに延びるものが含まれておらず、ほとんどが猫橋式の範疇に収まるものと思われる。高坏も多様な形態があるが坏部だけを観ると、脚部から直線あるいは緩く内湾気味に開き、口縁部が屈曲して立ち上がり、口縁端部にやや広い面を持つものと持たないものが主体となっている。どちらも外傾化するものが新しい印象を受ける。脚部、およびその組み合わせについてはこれも資料が少なくよく解らない。

器台はいわゆる鼓形器台が今回の調査でも全形のわかるものが得られた。同様な個体は金沢市西念・南新保遺跡(楠他1996他)で出土しているが、本遺跡のもは口径に対し、器高がやや高い。また、

脚部内面をケズリ後磨きあげるものとそうでないものがあり、後者の方に退化の傾向がみられる。現状では口縁部が直立し、口縁端部に面を持つものが古く、以後外傾化し、端部を丸く仕上げるものに変化するように思われる。'94年の調査で出土した大形のもの、まだ県内では他に好例を知らない。この他の器種については資料が乏しくよく解らない。土製品では球状の上蓋が多く出土している。

石器は磨製石斧、錐が1点ずつ出土した以外は、磨石類、砥石、台石などが主体である。本遺跡では顕著なくぼみを持つ磨石類が少ない。石製品は緑色凝灰岩の剥片や摺り切り溝の痕跡を持つ管玉の未製品が出土している。剥片の集中地点や製作に関係した遺構はまだ捉えられていない。また、道具のセットも揃ってはいない。この他、図示していないが大小の円礫が出土している。搬入されていることは間違いないが用途は不明である。ガラス製品は'95年度第3調査区からガラス玉が出土している。鉄器は'94年度調査区1号溝から鏝が1点出土しているのみである。

木製品は多くの資料が得られた。少量の建築部材をのぞいてすべて竈橋式に属するものと考えられる。建築部材は板材や棒が主体であるが、'94年度の調査で高床式倉庫の部材と考えられるものが出土している。'95年度の調査では柱や梯子が出土した。容器では刺り抜き桶の破片や底板が多く、また、各種の槽がある。'95年度の調査では目釘止めの組み合わせ式の箱と考えられるものがある。食器では杓子がある。農具ではナスビ形の二又鍬が'95年度の調査でも出土した。竈橋遺跡からの出土は3点目となるが、鍬・鋤の類は少ない。この他、組み合わせ鋤の柄や掘り棒、木包丁、杵がある。工具では袋状鉄斧の柄、横槌、掛け矢などが出土している。掛け矢は作業台としても利用されているが、又木を利用しており木の特性を生かしたものと見えよう。武器では'94年度調査で弓が得られた他、'94、'95年度とも櫛が出土している。

この他、用途不明のものがある。へらとしたものは完形のもので長さ40cm、幅10cm、厚さ1.6cmで、30cm程の紡錘形の部分に10cmほどの持ち手状の柄がつく形態をとる。先端は尖りやや薄く仕上げられ、使用による摩滅と考えられる痕跡が認められる。使用材は針葉樹（おそらく杉）と広葉樹の2種があり、柾目材を使用するものが多い。鋸あるいは鋤の類と考えたいところだが、針葉樹製のものがあることから躊躇せざるを得ない。この類ではないとしたとき民具資料等で捜すと、管見では鋤頭と呼ばれる鋤の泥落とし用具がもっとも近い。が、これも遺跡出土のものがやや大きくこれと断定するには至らない。また、麦タキと呼ばれる小麦打ちの道具にも類似しているがこれもわからない。いわゆるふくし状木製品としておくのが妥当なところなのであろう。そうした場合対応する容器は人形の刺り抜き桶となるのであろうか。

掘り機場立ち会い調査出土の第59図16は表裏に格子状の樹皮製品が張り付いている。木本体は表面右側縁から割れており本来の形状は不明である。先端部は薄く仕上げられている。樹皮は編み物と思われるが、木製品と一体の製品なのか別体なのか判断が付かない。側面には現状では付着していない。残りが悪く格子本来の幅がよく解らないが、1cmに満たないものと思われる。

第60図20は、現存長264cm、径18cmで木の前部の方を尖らせている。本来的にはもっと長いと思われる。杭と考えるとこの辺では白重で沈下してしまうと思われる。

樹皮では樺、杉、桜が出土している。樺の方は両端がきれいに加工されており、容器の破片の可能性がある。杉は'94年度の調査でも出土しているが、多目的に用いられるため用途の特定はできない。なお木製品の樹種同定は今回時間的な制約から実施していない。

この他、昭和38年の調査では、骨角器が出土している。'94年の調査でも骨が出土している。

以上、簡単に2年間の調査で得られたことをまとめてみた。調査者の力量不足から満足のいく記録資料が得られたとは言えないし、報告書も同様である。前年度の報告をふまえてもう少し納得のいく報告を

作成するつもりであったが果たせなかった。審の中の発掘調査に出させていただいた作業員の方や、整理作業に協力いただいた方々に申し訳なく思う。木製品については伊藤常次郎氏と名久井文明氏からいろいろと教えを賜ったが、これもまた生かせなかった。今後、機会があればもう一度考えてみたい。

引用・参考文献

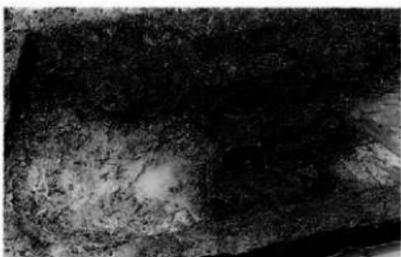
- 朝日新聞金沢支局 1986 『常次郎氏の春夏秋冬』朝日新聞社
石川県農林水産部耕地整備課編 1986 『土地分類基本調査 小松』石川県
1988 『土地分類基本調査 大取寺・三国・永平寺(石川県分)』石川県
伊藤雅文他 1991 『畝田遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
上野与一 1967 『加賀市片山津町竈橋遺跡出土遺物図集 木器、土器編』大谷高校地歴クラブ紀要』第2号
大場繁雄編 1963 『片山津玉造遺跡の研究』加賀市教育委員会
加賀市史編纂委員会編 1978 『加賀市史 通史編』上巻
株式会社クボタ編 1992 『アーバンクボタ』31
橋 正勝他 1996 『西念・南新保遺跡Ⅳ』金沢市教育委員会
小森秀三 1978 『弓波魂寺範圍確認発掘調査報告書』加賀市教育委員会
竹内理三編 1981 『角川日本地名大辞典』17石川県 角川書店
田嶋正和他 1993 『竈橋遺跡』加賀市教育委員会
新木英道他 1995 『谷内・杉谷遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター
中屋克彦他 1994 『戸水B遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
名久井文明 1993 『東日本における樹皮利用の文化—加工技術の体系と伝統—』『国立民族学博物館研究報告』
18巻2号
1994 『民俗例から遡源する縄文時代の樹皮製容器に関する試論』『先史考古学論集』第3集
奈良国立文化財研究所編 1993 『木器集成図録 近畿古代編』
日本常民文化研究所編 1973 『民具マンスリー』六巻1号
福島正美 1987 『古崎・次場遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
福島正美他 1988 『古崎・次場遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
本田秀生 1997 『竈橋遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
正岡睦夫・松本岩雄編 1992 『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社
増山 仁 1989 『小松式の再検討—小松市八日市地方遺跡出土土器の再整理—』『北陸の考古学Ⅱ』石川考古
学研究会
望月精司他 1995 『念仏林南遺跡Ⅱ』石川県小松市教育委員会
山田昌久・岡澤祥子編 1997 『人類誌集報 1997』漆利用の人類誌・飛騨山峡の人類誌研究グループ
湯尻修平他 1977 『加賀市弓波遺跡分布調査報告書』石川県教育委員会
脇田雅彦 1995 『館蔵民具選』第1集 岐阜県歴史資料館

圖 版



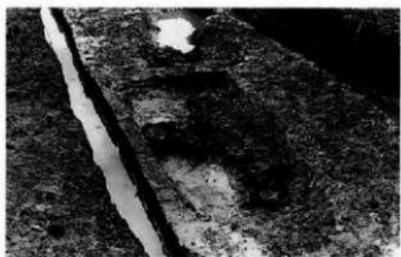
图版 1

第1调查区1号沟



图版 2

第1调查区2号沟土器出土状态



图版 3

第1调查区2号沟土器出土状态



图版 4

第1调查区2号沟土器剖面



图版 5

第1调查区2号沟



图版 6

第1调查区作业風景



图版 7

第1调查区6号沟



图版 8

第1调查区7号沟

図版
9



第1調査区1号竪穴住居跡（北から）

図版
10



第1調査区1号竪穴住居跡内土坑

図版
11



第1調査区1号竪穴住居跡（南から）

図版
12



第1調査区8～12号溝

図版
13



第1調査区A～F区全景（南から）

図版
14



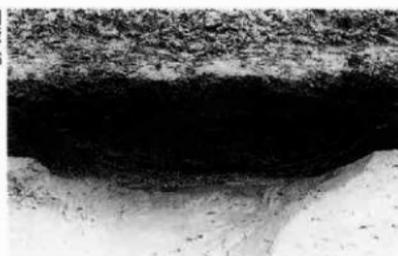
第1調査区A～F区全景（北から）

図版
15



第1調査区1号土坑遺物出土状態

図版
16



第1調査区1号土坑土層断面



図版
17

第1調査区1号土坑



図版
18

第1調査区F~G区全景(東から)



図版
19

第2調査区作業風景



図版
20

第2調査区2号土坑土層断面



図版
21

第2調査区大溝土層断面



図版
22

第2調査区全景(南から)



図版
23

第2調査区全景(北から)



図版
24

第3調査区作業風景

図版
25



第3調査区1号溝土器出土状況

図版
26



第3調査区P-10~12土層断面(北西から)

図版
27



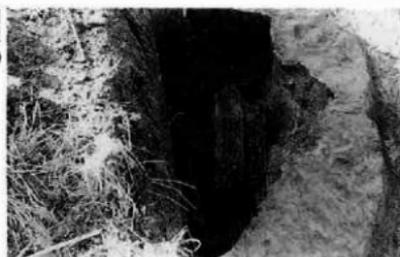
第3調査区P-10~12礎板(北西から)

図版
28



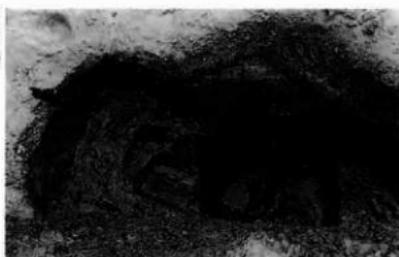
第3調査区P-10~12礎板(北から)

図版
29



第3調査区P-10~12土層断面(北西から)

図版
30



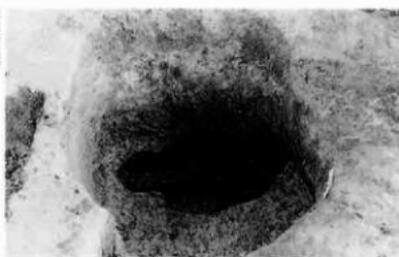
第3調査区P-10~12

図版
31



第3調査区P-1土層断面

図版
32



第3調査区P-1



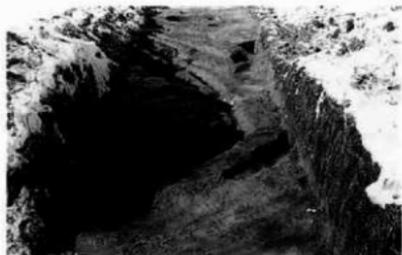
図版
33

第3調査区P-8土層断面



図版
34

第3調査区P-8



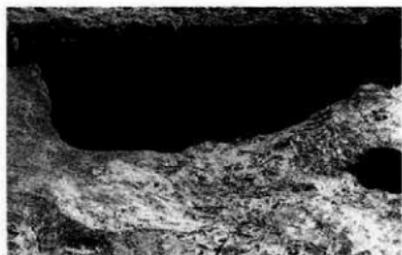
図版
35

第3調査区竖穴住居跡(東から)



図版
36

第3調査区竖穴住居跡(西から)



図版
37

第3調査区1号土坑



図版
38

第3調査区2号土坑



図版
39

第3調査区3号土坑土層断面



図版
40

第3調査区3号土坑

図版
41



第3調査区4号土坑土層断面

図版
42



第3調査区4号土坑

図版
43



第3調査区5号土坑土層断面

図版
44



第3調査区5号土坑

図版
45



第3調査区10号溝土層断面(南から)

図版
46



第3調査区10号溝土層断面(北から)

図版
47



第3調査区10号溝

図版
48



第3調査区P-15



第3調査区A-C区全景（西から）

図版
49



第3調査区D・E区全景

図版
50



第4調査区P-1

図版
51



第4調査区P-2

図版
52



第4調査区竪穴住居跡（北から）

図版
53



第4調査区A区全景

図版
54



第4調査区旧河道土層断面

図版
55



第4調査区旧河道土層断面

図版
56

图版
57



第4調查区1号溝土層断面

图版
58



第4調查区1号溝

图版
59



第4調查区旧河道土層断面

图版
60



第4調查区旧河道土層断面

图版
61



第4調查区旧河道土層断面

图版
62



第4調查区西侧坑列

图版
63

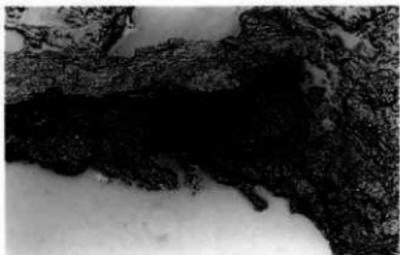


第4調查区後期旧河道木製品出土状态

图版
64



第4調查区後期旧河道木製品出土状态



图版
65

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



图版
66

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



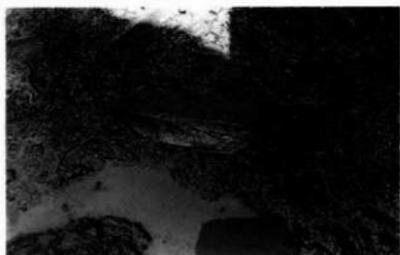
图版
67

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



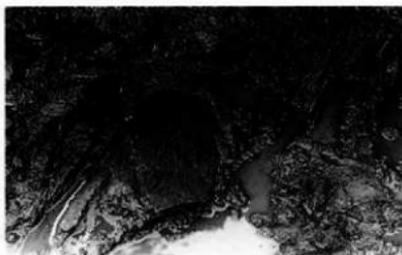
图版
68

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



图版
69

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



图版
70

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



图版
71

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態



图版
72

第4 调查区後期旧河道木製品出土状態

図版
73



第4調査区後期旧河道木製品出土状態

図版
74



第4調査区後期旧河道木製品出土状態

図版
75



第4調査区旧河道（東から）

図版
76



第4調査区旧河道（西から）

図版
77



揚水機場立ち合い調査と猫橋（南から）

図版
78



揚水機場立ち合い調査

図版
79

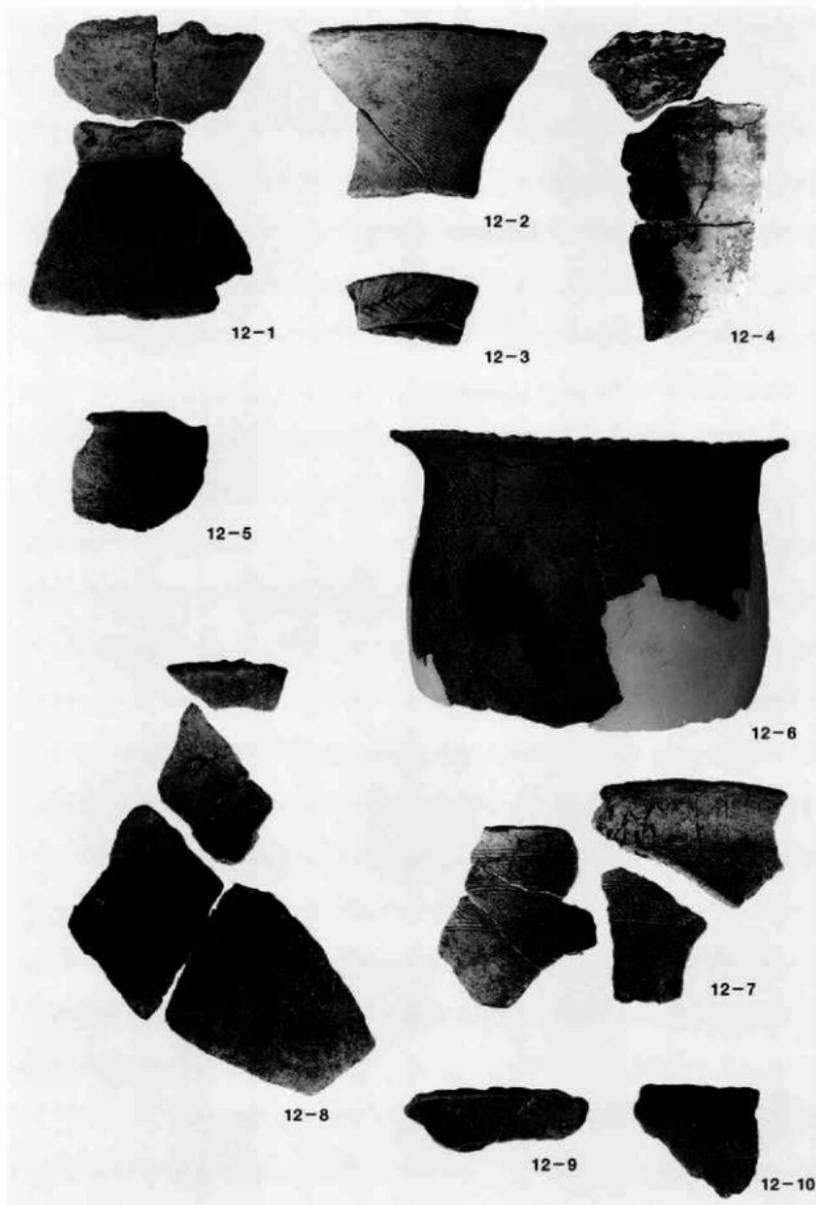


揚水機場立ち合い調査

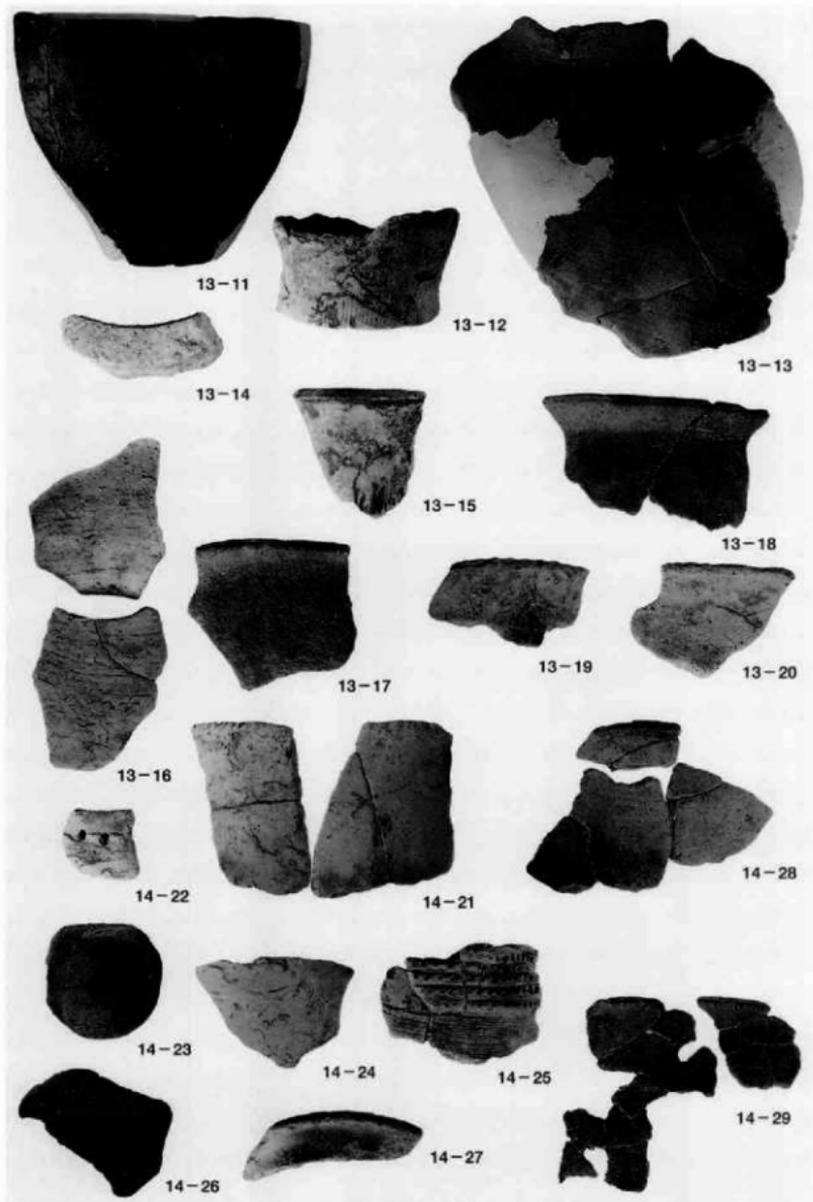
図版
80



揚水機場立ち合い調査



图版81 新橋遺跡出土土器(1)



图版82 新桥遗址出土土器〔2〕

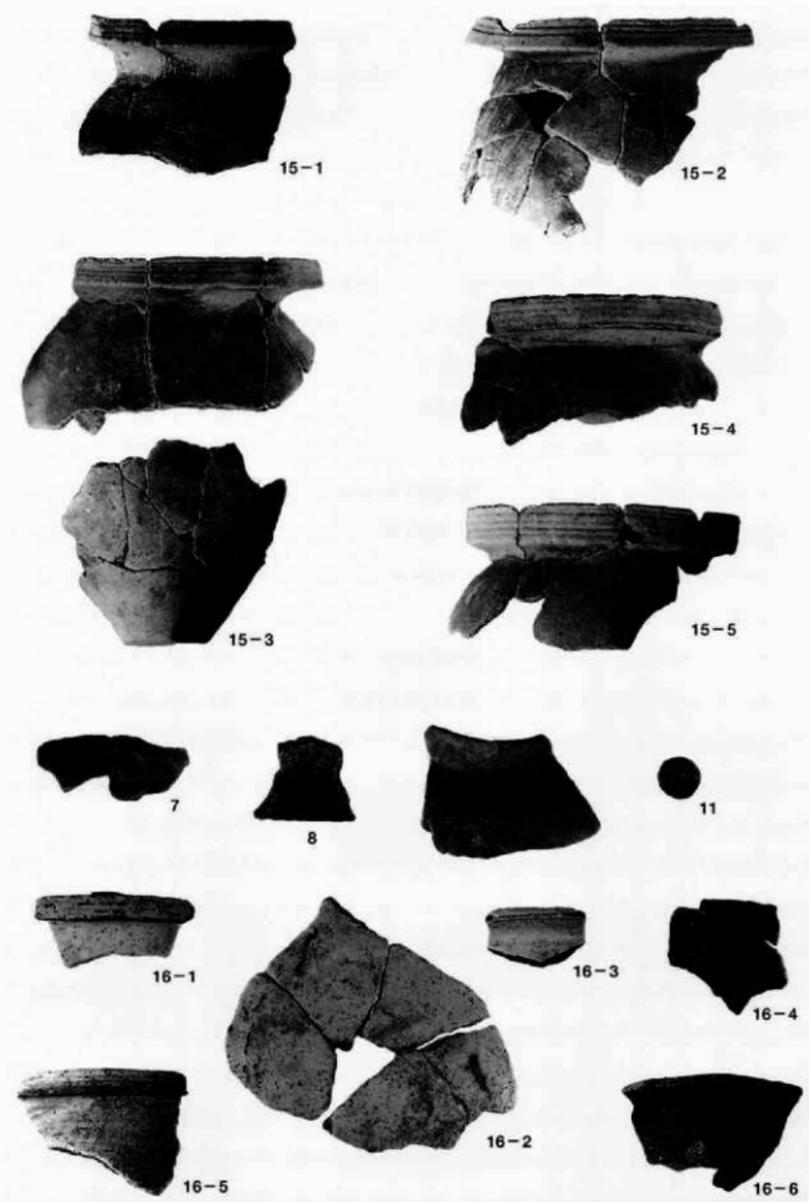
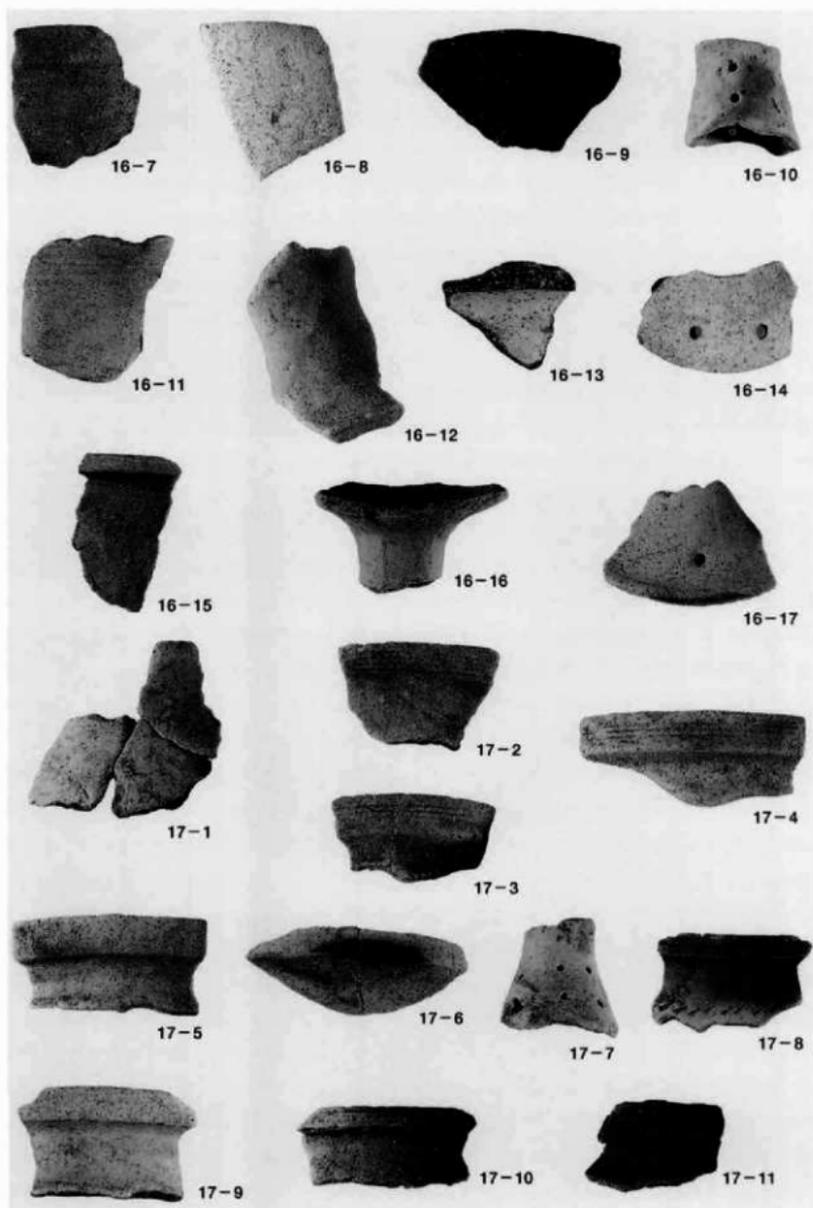
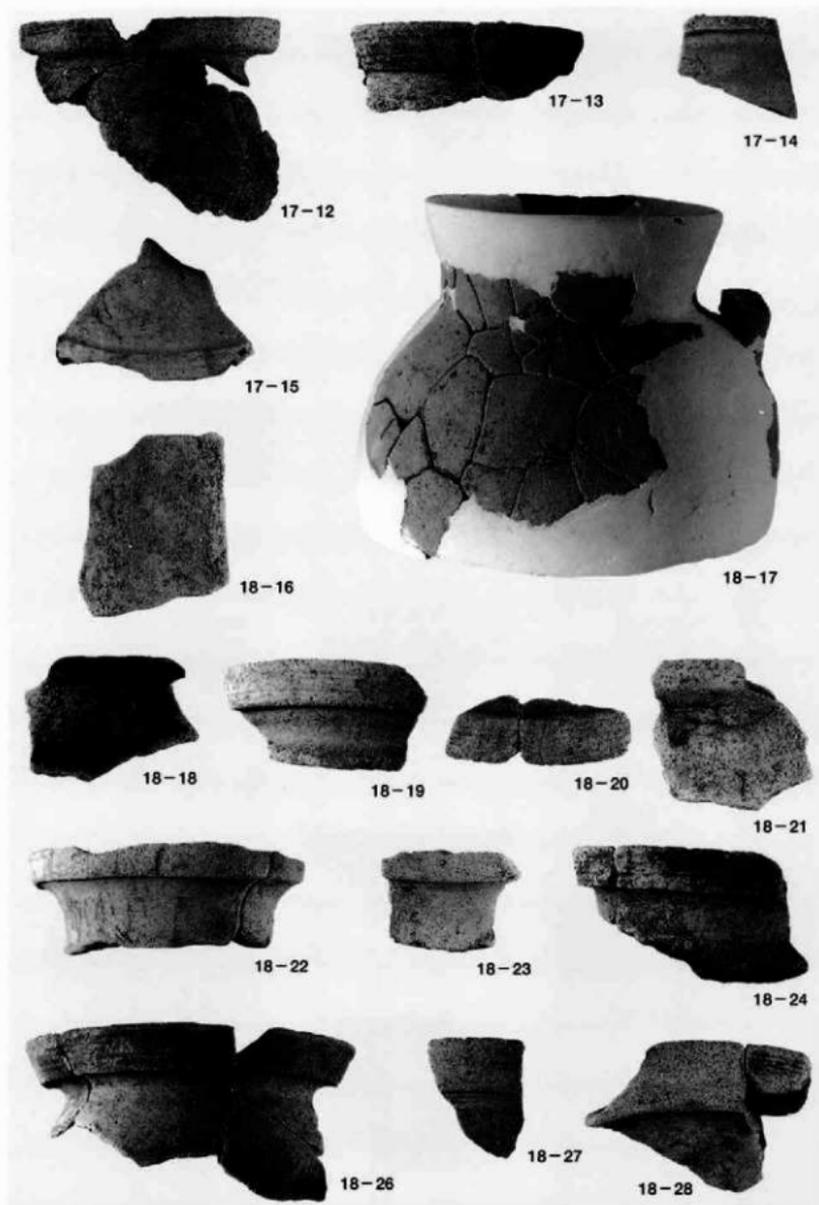


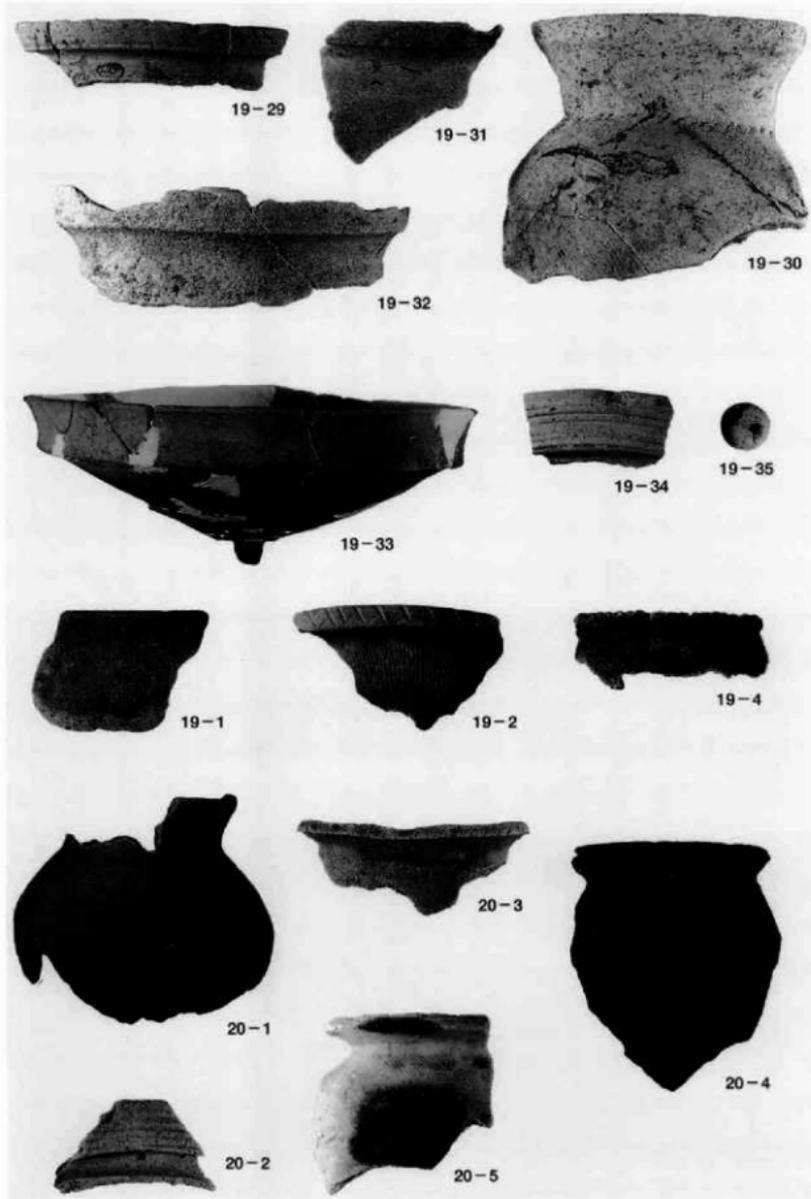
図563 箱橋遺跡出土土器〔3〕



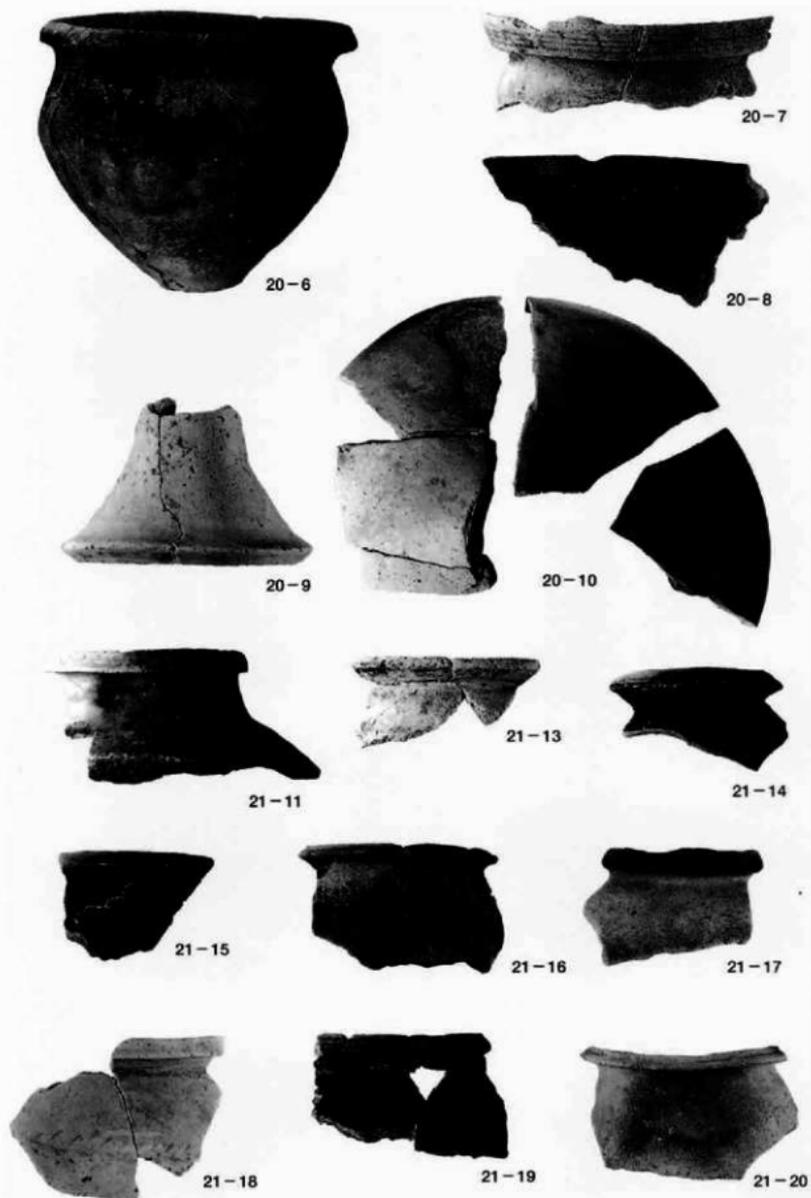
图版84 翁橋遺跡出土土器〔4〕



图版85 猫桥遗址出土土器 [5]



图版86 双火遗址出土土器〔6〕



图版87 猫橋遺跡出土土器〔7〕



22-21



21-22



21-23



21-24



22-25



22-26



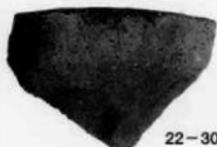
22-27



22-28

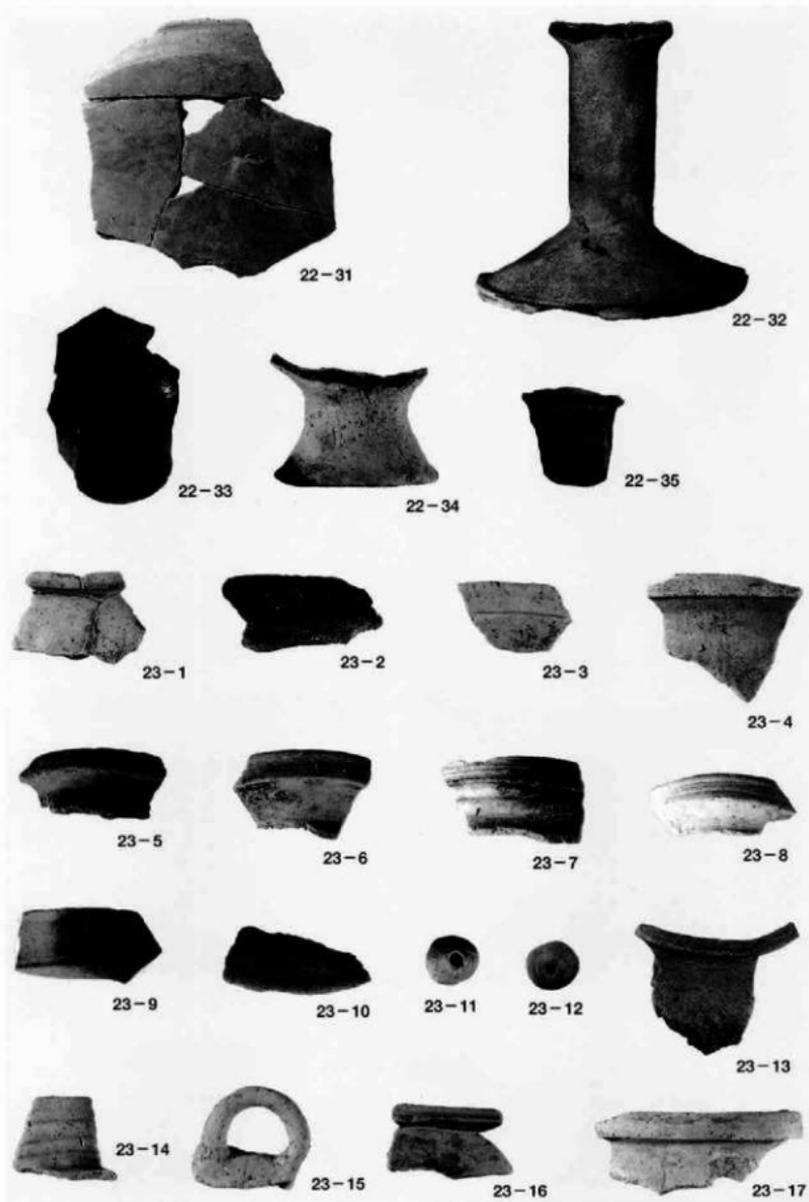


22-29



22-30

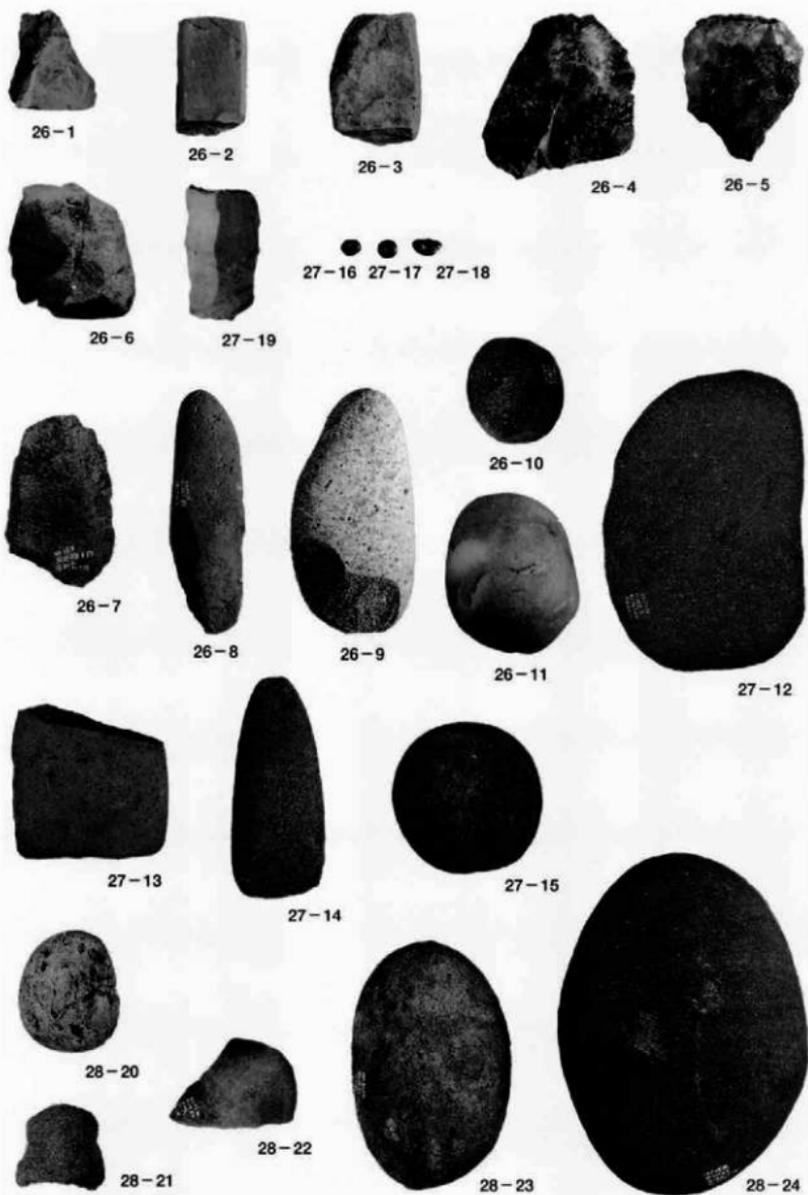
图版88 猫橋遺跡出土土器〔8〕



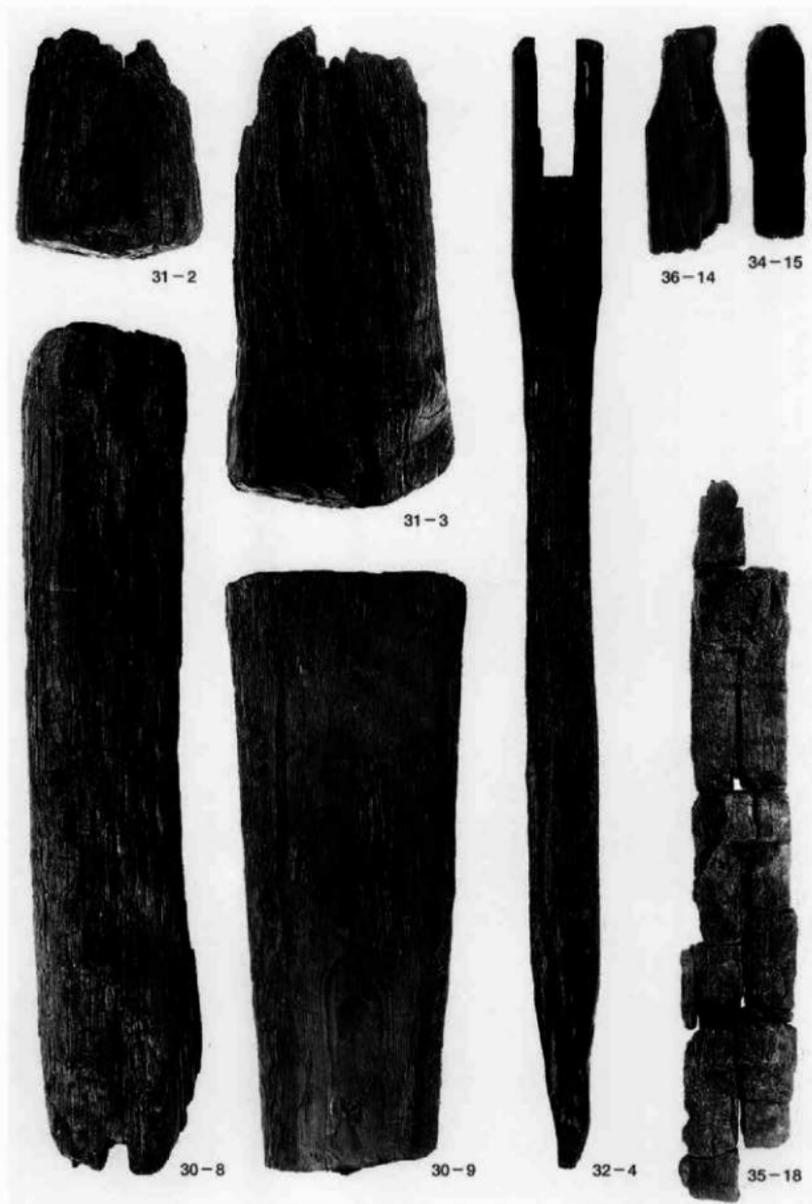
图版89 新橋遺跡出土土器〔9〕



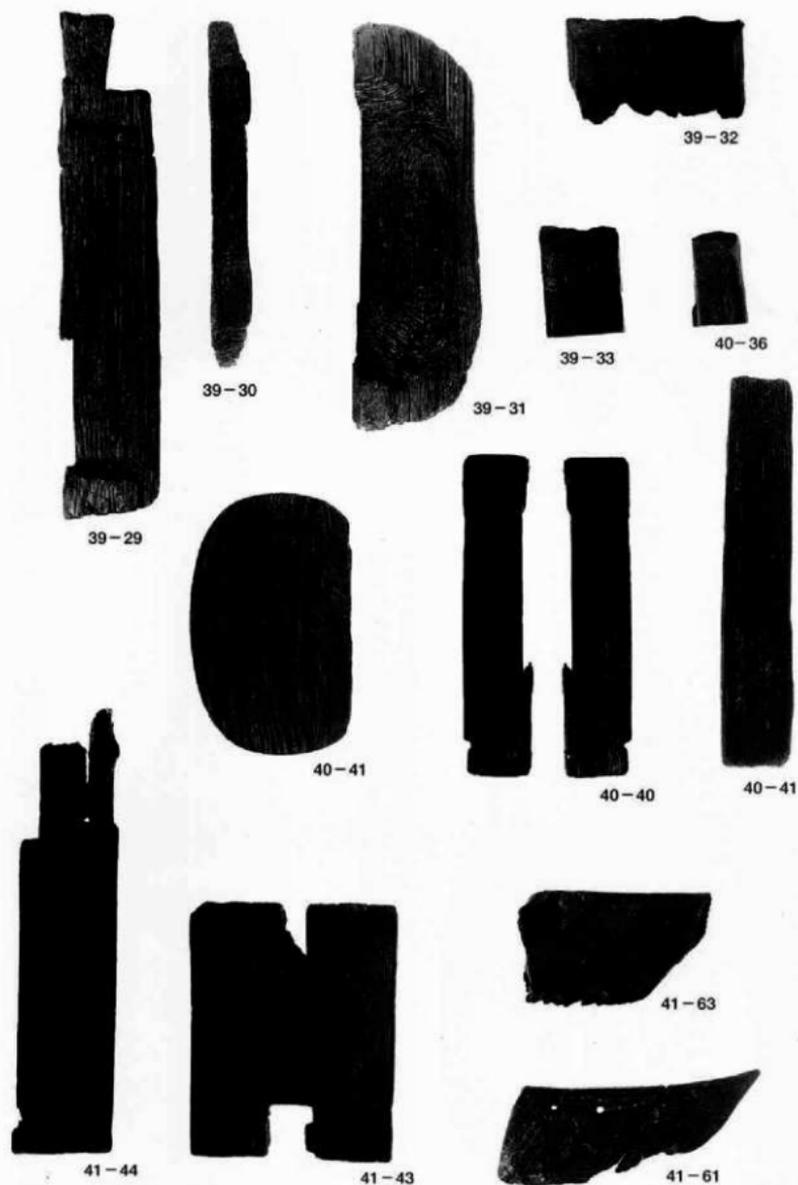
图版90 嘉禧遺跡出土土器 (10)



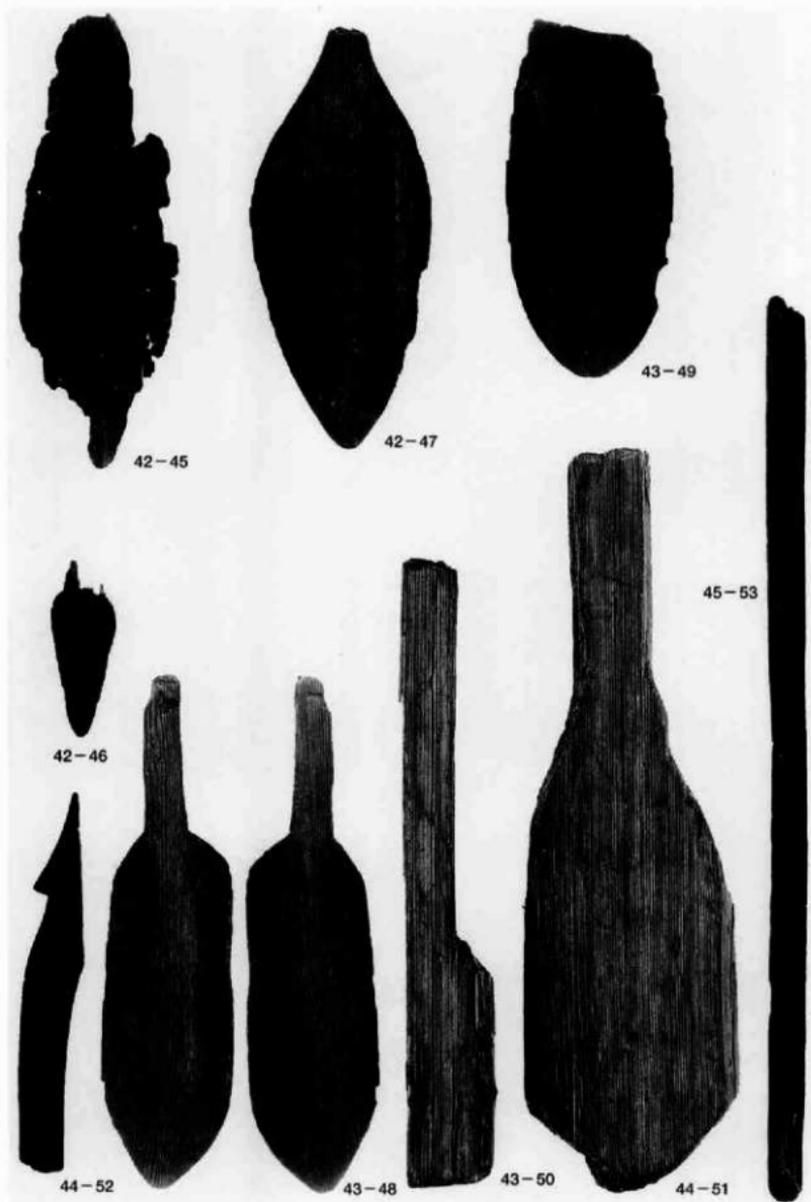
图版91 新橋遺跡出土石器



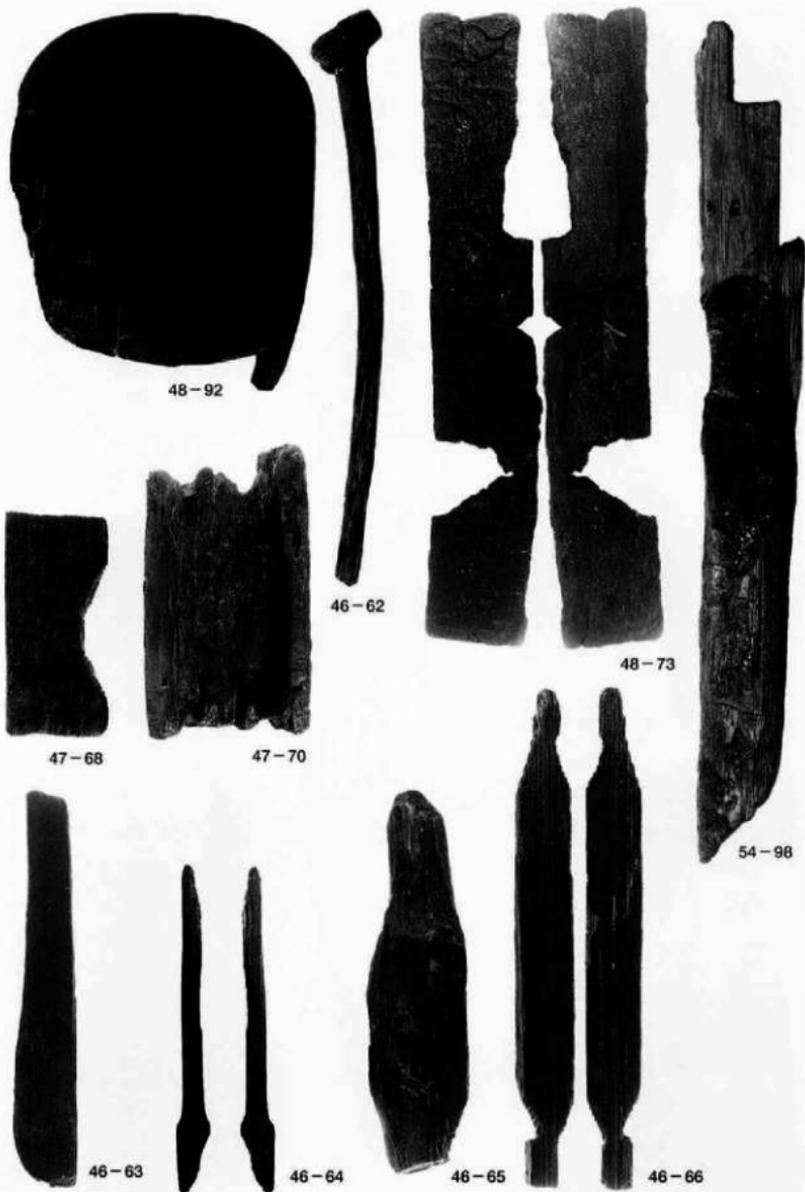
图版92 新桥遗址出土木制品〔1〕



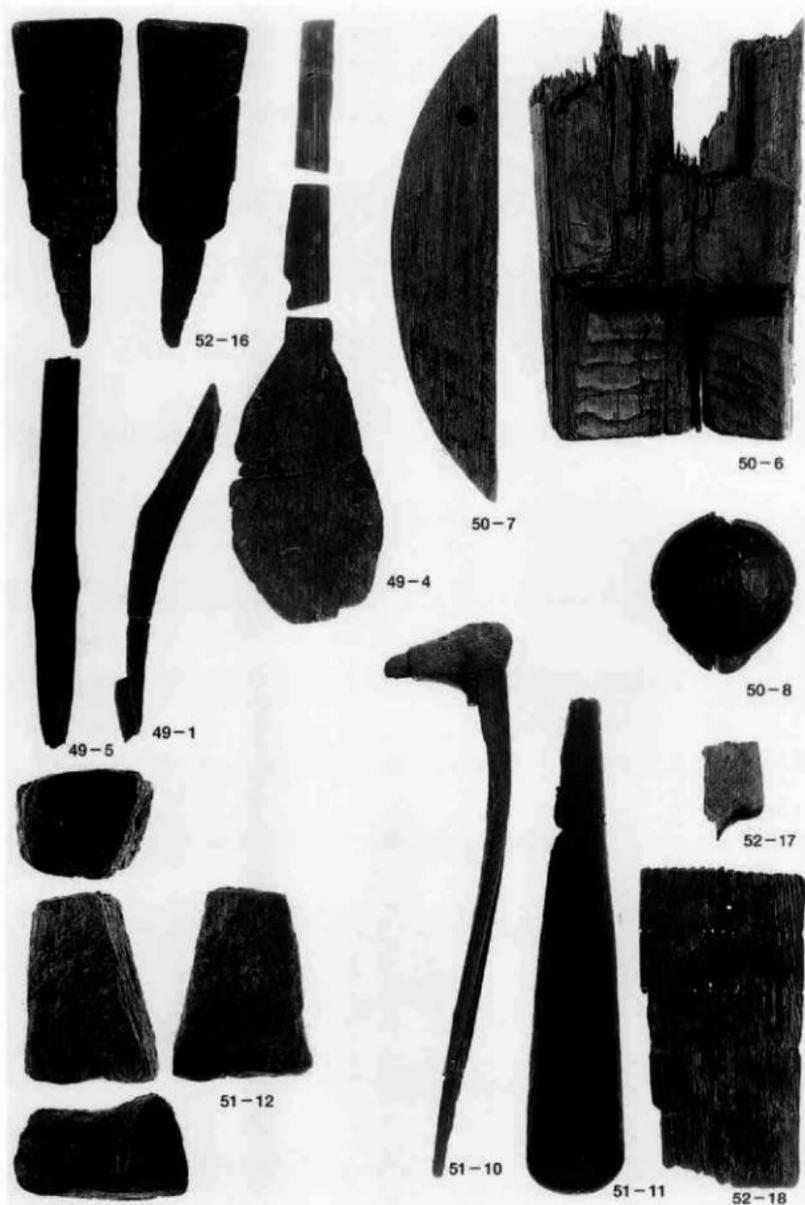
图版93 猫桥遗址出土木制品〔2〕



图版94 猫桥遗址出土木制品〔3〕



图版95 猫桥遗址出土木制品〔4〕



図版96 猫橋遺跡出土木製品〔5〕

猫橋遺跡

県営ほ場整備事業（片山津地区）に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成10年3月27日

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター
金沢市米泉4丁目133番地
〒921-8044 電話(076)243-7692

印刷 株式会社 ハクイ印刷
〒925-0053 羽咋市南中央町2-83-51

